

第 58 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議

日時：令和 3 年 9 月 9 日（木）17 時 30 分～

場所：大阪府新別館南館 8 階 大研修室

次 第

議 題

（１）現在の感染状況・療養状況等

- ・現在の感染状況について【資料 1－1】
- ・現在の療養状況について【資料 1－2】
- ・療養者数のシミュレーションについて【資料 1－3】
- ・感染状況と医療提供体制の状況について【資料 1－4】
- ・（参考）ワクチン接種後の感染予防対策ポスター【資料 1－5】
- ・宿泊療養施設の確保について【資料 1－6】
- ・（参考）宿泊療養体制の充実について【資料 1－7】
- ・滞在人口の推移【資料 1－8】
- ・緊急事態措置の実効性確保に向けた取組み【資料 1－9】
- ・営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み【資料 1－10】
- ・（参考）感染防止認証ゴールドステッカーについて【資料 1－11】

（２）緊急事態措置に基づく要請等

- ・緊急事態措置に基づく要請【資料 2－1】
- ・府立学校における今後の教育活動について【資料 2－2】
- ・専門家のご意見【資料 2－3】

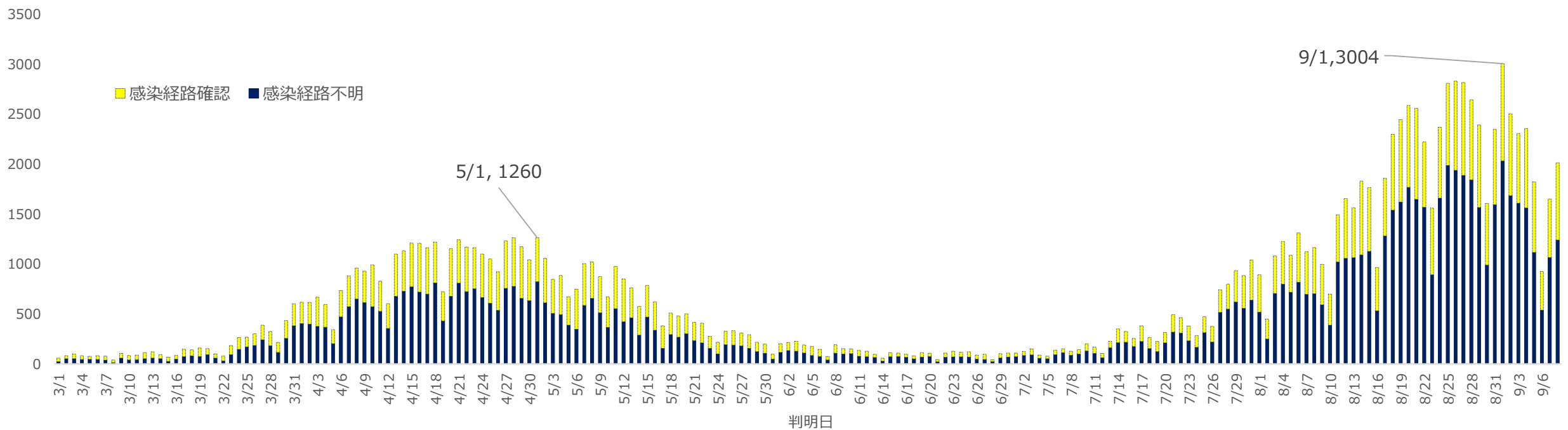
（３）その他

- ・新型コロナウイルス感染症にかかる病床確保状況（妊産婦・小児・軽症中等症）
【資料 3－1】
- ・宿泊療養者へのオンライン診療の充実【資料 3－2】
- ・訪問看護師による自宅療養者の健康観察について（拡充）【資料 3－3】
- ・大阪府新型コロナウイルス感染症 後遺症への対応について【資料 3－4】

- | | | |
|---|-------------------|--------|
| 1 | 陽性者数等の推移 | P2~16 |
| 2 | 市内・市外の比較 | P17~19 |
| 3 | 感染経路 | P20~22 |
| 4 | 感染エピソード | P23~28 |
| 5 | 感染・療養状況とワクチンの接種状況 | P29~33 |

1 陽性者数等の推移

陽性者数の推移



3月1日 緊急事態宣言解除
黄信号点灯
4人以下でのマスク会食の徹底
歓送迎会・謝恩会・宴会に伴う花見の自粛要請
大阪市全域の飲食店及び遊興施設の時短要請
府民への不要不急の外出自粛要請等

3月26日 本会議において、府全域時短要請（21時まで）を決定（4月1日から）

3月31日 まん延防止等重点措置要請

4月1日 大阪府全域の飲食店及び遊興施設の時短要請（21時まで）

4月7日 赤信号点灯（医療非常事態宣言）
重点措置を講じるべき区域（大阪市）
時短要請（20時まで）

4月8日 府域における不要不急の外出移動自粛要請

4月9日 週末の外出移動自粛要請

4月14日 大学等でのオンライン授業実施や学校での部活動休止、テレワーク徹底等を要請

4月20日 緊急事態宣言発出要請

4月23日 緊急事態宣言発出決定

4月25日 緊急事態措置適用（6月20日まで）
不要不急の外出自粛要請、飲食店・一部施設への休業要請等

6月18日 緊急事態宣言解除決定
まん延防止等重点措置適用決定

6月21日 緊急事態措置解除・まん延防止等重点措置適用
重点措置を講じるべき区域（33市）
時短要請（20時まで）
重点措置対象区域外（10町村）時短要請（21時まで）
※酒類提供は原則自粛。
ただし、ゴールドステッカー認証店舗等で、同一グループの入店を原則2人以内は提供可能11時～19時※区域外は20時）
カラオケ設備の利用自粛 等

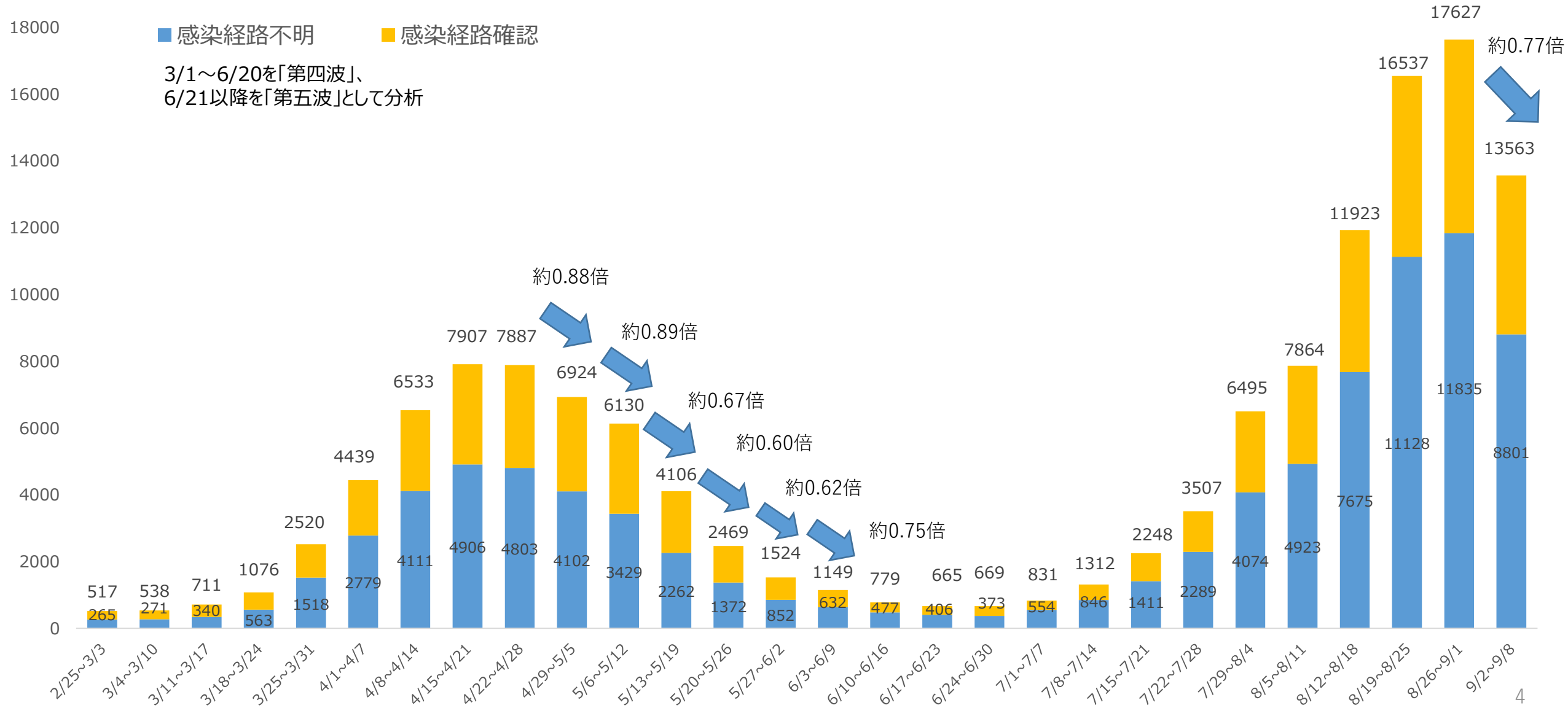
8月2日 緊急事態措置適用（9月12日まで）
不要不急の外出自粛要請、飲食店・一部施設への休業要請等

8月20日 適切な入場整理等の再要請
（百貨店地下食品売り場は通常営業時の半数程度の入場者を目安）

8月25日 府立学校への部活動原則休止
（市町村立学校・私立学校糖へは休止を要請）

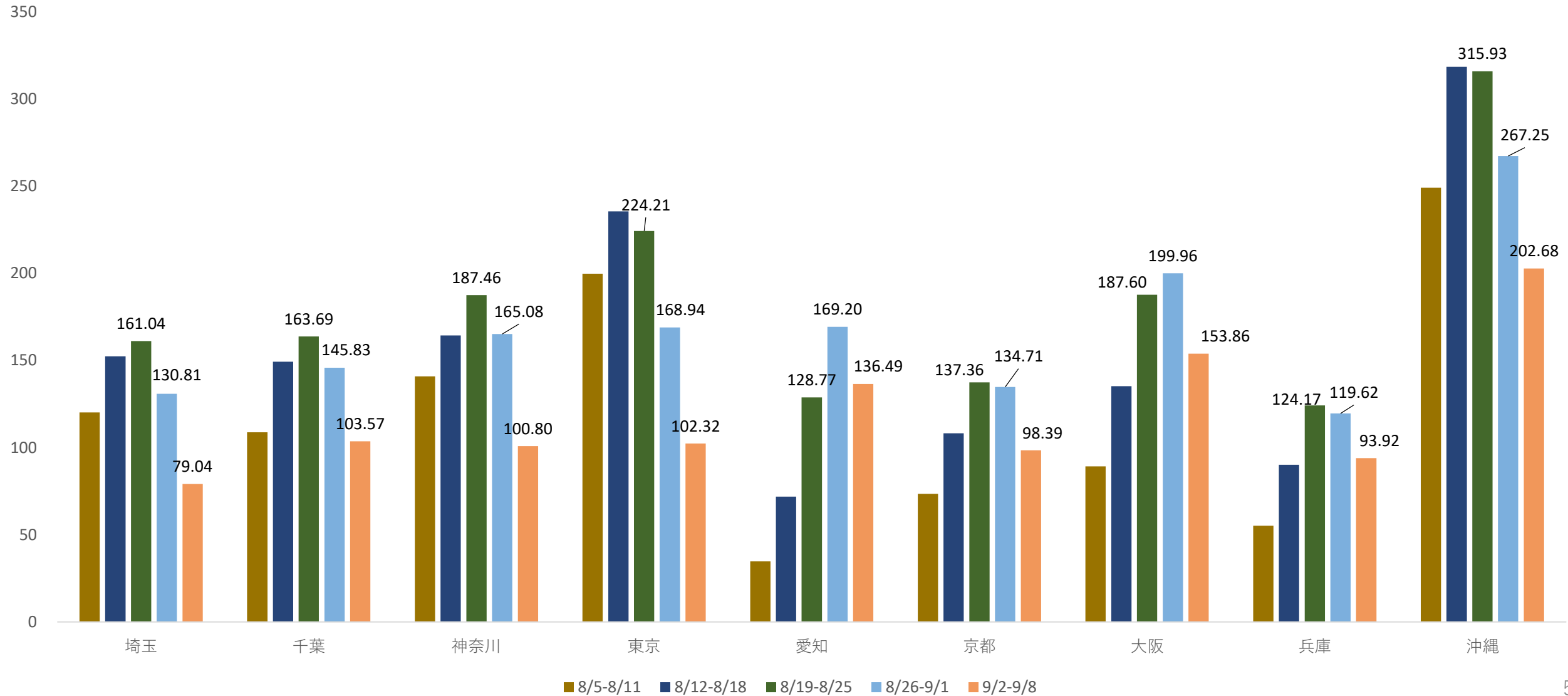
7日間毎の新規陽性者数

◆ 直近1週間は減少に転じたが、第四波のピーク時の約2倍と依然、高水準（一日平均約1,938名）。



各都道府県 週・人口10万人あたり新規陽性者数の状況

◆ 緊急事態宣言発令区域のうち、首都圏及び沖縄県は2週間前から週・人口10万人あたり新規陽性者数が減少に転じ、関西圏と愛知県は、直近1週間は減少に転じている。



【参考】大阪府 緊急事態措置における主な要請内容

【（参考）第四波・第五波緊急事態措置における大阪府の主な要請内容】

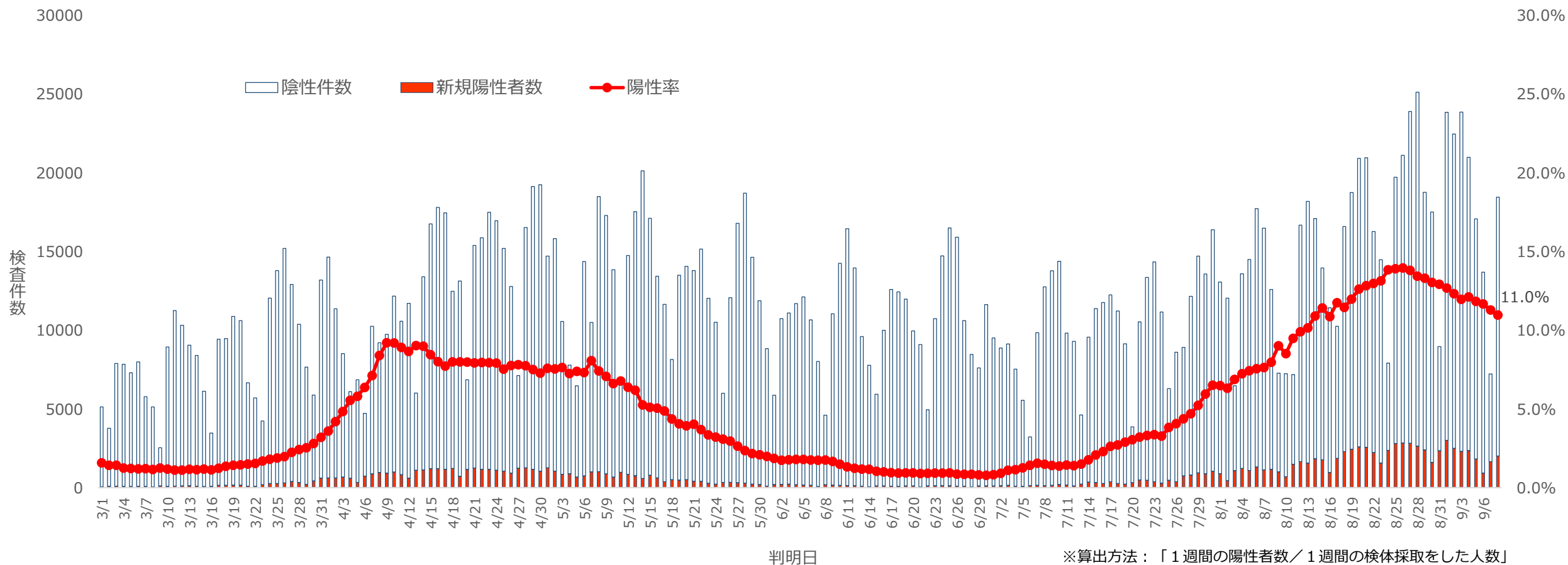
	第四波【4/25～5/31】	第四波【6/1～6/20】	第五波 緊急事態措置【8/2～】	第五波 緊急事態措置【8/20～】
飲食店等	○酒類・カラオケ提供：休業要請 ○酒類・カラオケ提供無：時短要請等（20時）	○左記に同じ	○左記に同じ	○左記に同じ
商業施設、サービス業等（※）	○1000㎡超：休業要請 ○1000㎡以下：時短協力依頼等（20時）	○1000㎡超：平日 時短要請等（20時） 土日 休業要請 ○1000㎡以下：時短協力依頼等（20時）	○1000㎡超：時短要請等（20時） ○1000㎡以下：時短協力依頼等（20時）	○1000㎡超：時短要請（20時） <u>適切な入場整理等要請（百貨店地下食品売り場は通常営業時の半数程度の入場者を目安）</u> ○1000㎡以下：時短協力依頼（20時） 入場整理等協力依頼
イベント	○無観客開催要請	○平日 上限5000人かつ収容率50%、時短要請等（21時） ○土日 無観客開催要請	○上限5000人かつ収容率50%、時短要請等（21時）	○左記に同じ

※上記以外に、施設種別等で時短要請等を実施

検査件数と陽性率

◆ 陽性率は徐々に減少しているが、依然、10%を超過。

(人分)



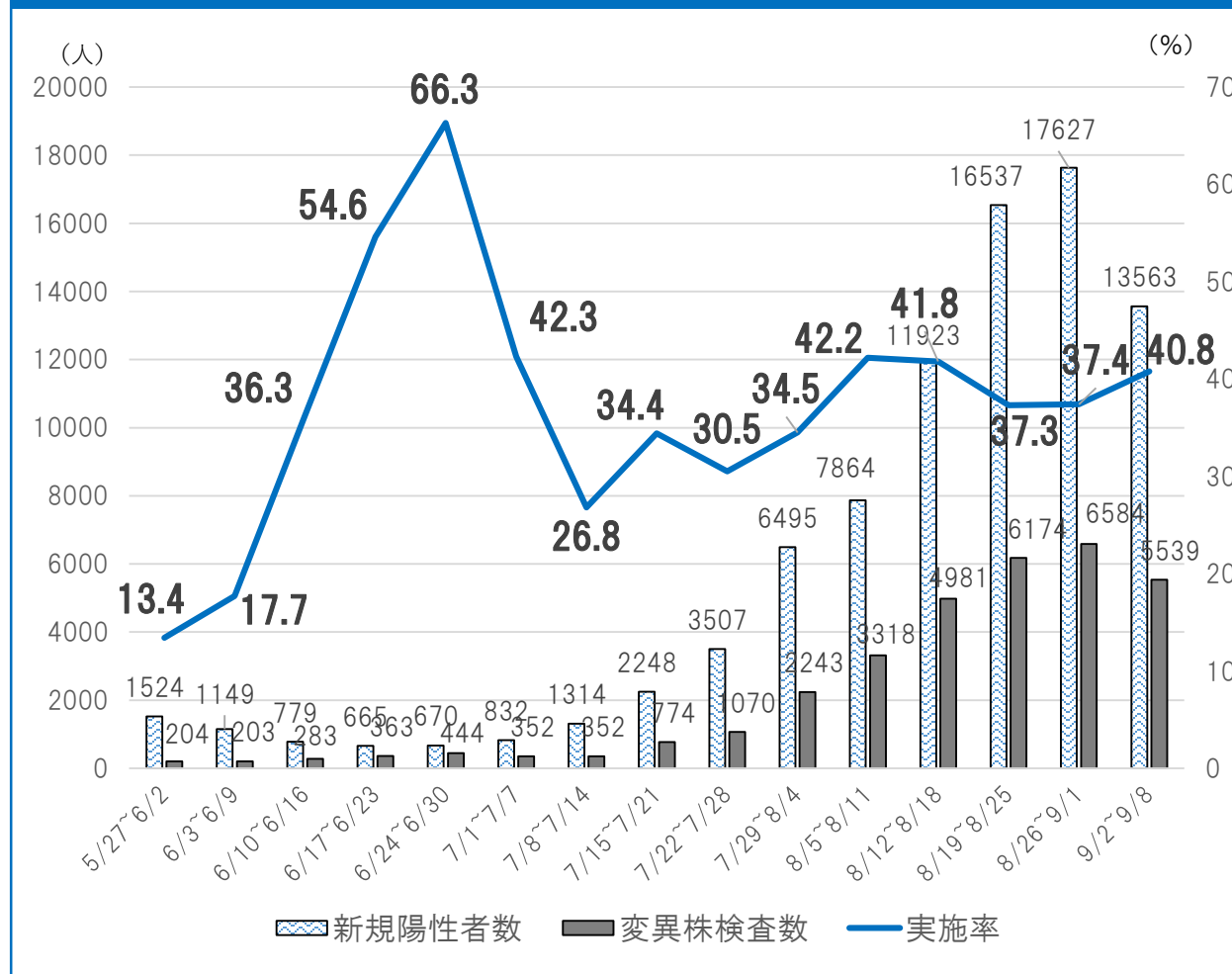
【参考】自費検査を含む1週間の検査件数及び陽性率

	検査件数 (自費検査含む)	新規陽性者数	陽性率 (自費検査含む)
8/23-8/29	162,043	17,405	10.7%
8/30-9/5	159,103	15,932	10.0%

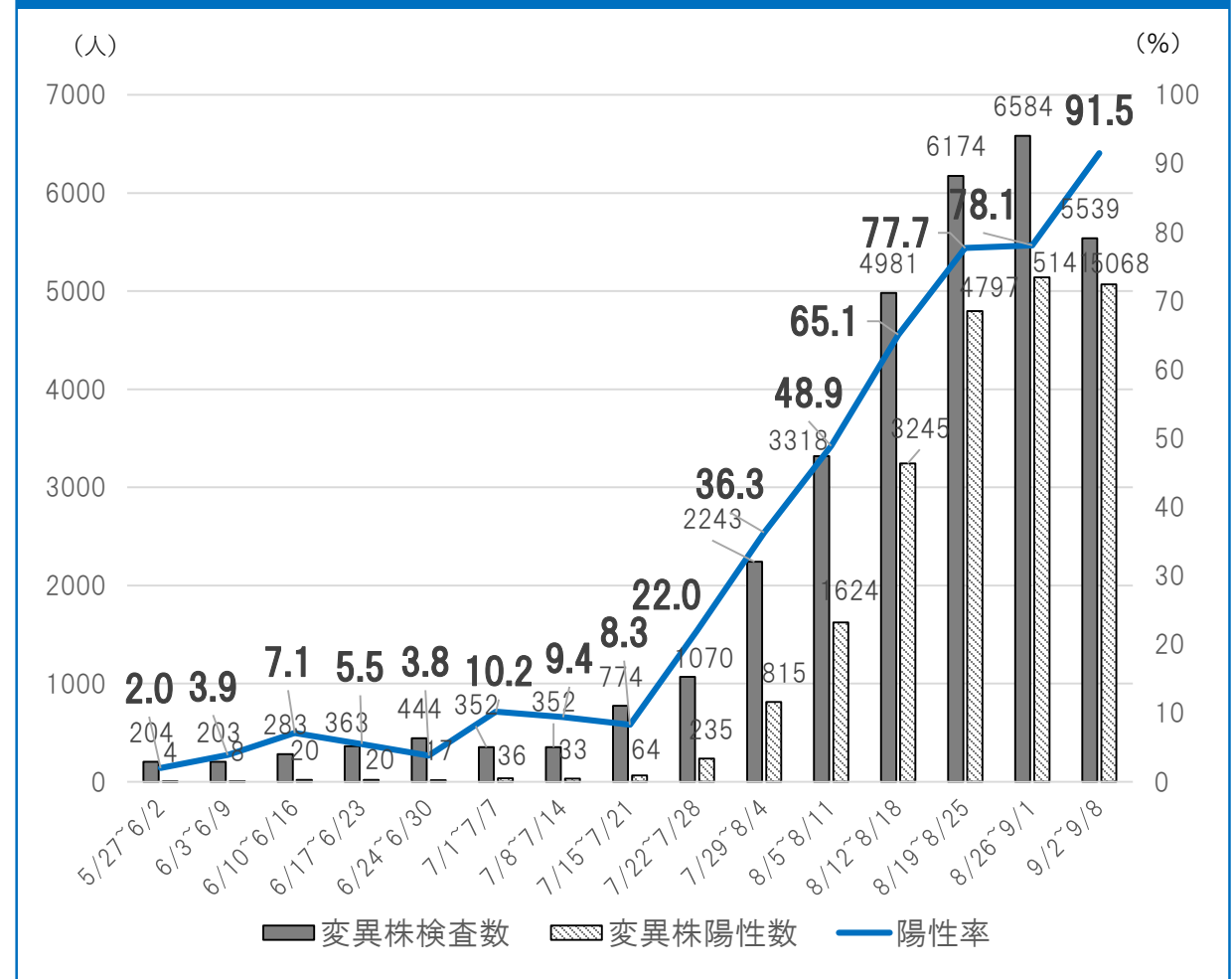
L452R変異株スクリーニングの実施率及び陽性率（9月8日時点）

◆ L452R変異株スクリーニング検査における直近1週間の陽性率は9割を超過。

新規陽性者数及びスクリーニング検査数（実施率）



スクリーニング検査数と陽性数（陽性率）



○一般財団法人阪大微生物病研究会でのスクリーニングが始まった5月下旬から1週間毎に集計。（国が委託する大手民間検査機関分も含む）
 新規陽性者及びスクリーニング陽性数は当該週の公表数、スクリーニング検査数は当該週の結果判明数として、実施率及び陽性率を機械的に算出。
 ※スクリーニング検査数には、インド等への渡航歴がある者やデルタ株等陽性患者との接触歴がある者の検査数を含む。

(参考) 大阪府におけるL452R変異株の置き換えりの状況 (アドバイザーリーボード資料より抜粋)

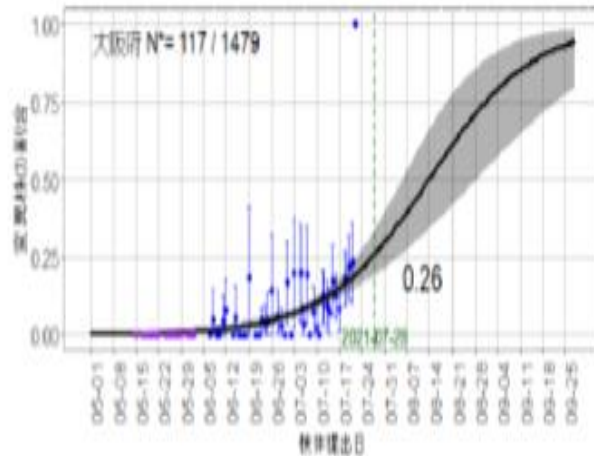
◆ 大阪府では、8月に急速にL452R変異株への置き換えりが進み、8月末にはほぼ置き換わったものと推定される。

■ 大阪府のSARS-CoV-2 陽性検体に占めるL452R変異の割合

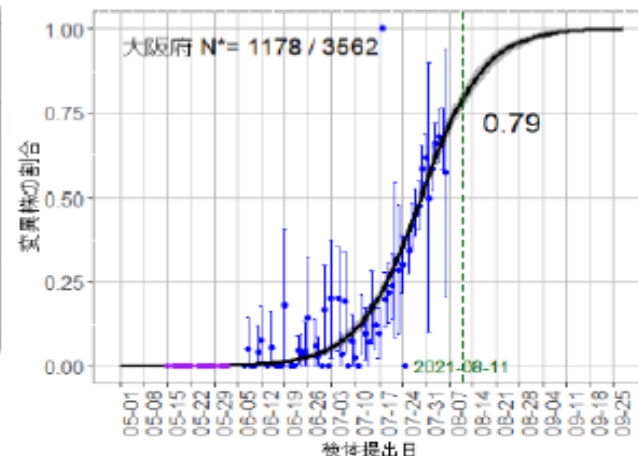
7/26時点	8/10時点	8/30時点	9/8時点
0.26	0.79	0.98	0.99

L452R変異検出数／変異株スクリーニング件数

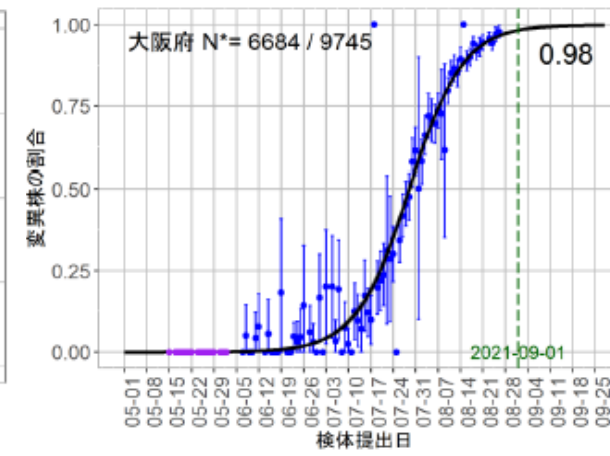
データ：第45回、第47回、第50回、第51回アドバイザーリーボード資料3-2より抜粋



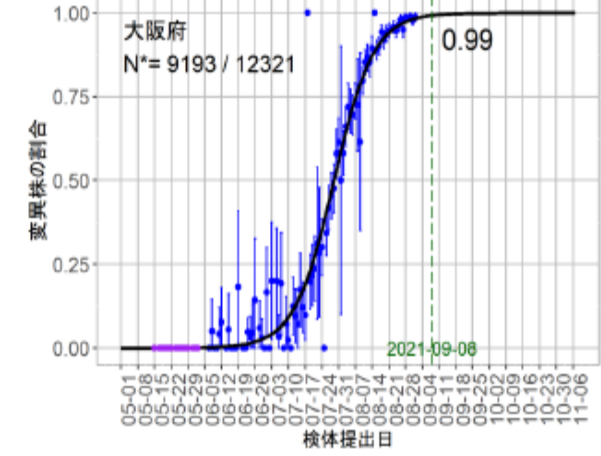
7/26



8/10



8/30

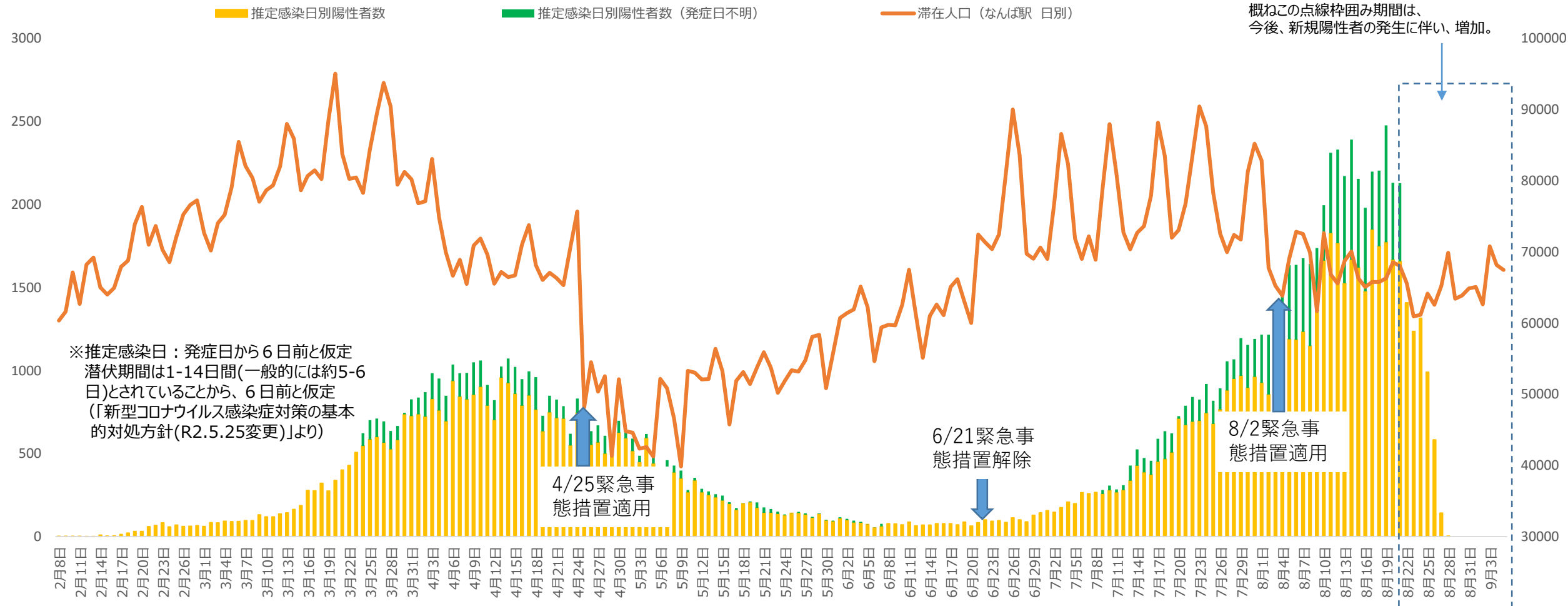


9/8

第四波・第五波 推定感染日別陽性者数と人流（9月3日時点）

◆人流は緊急事態措置適用の8月2日時点にやや減少して以降、横ばいからやや増加傾向。
推定感染日別陽性者数は8月中旬に高止まり。8月下旬以降の推移を注視。

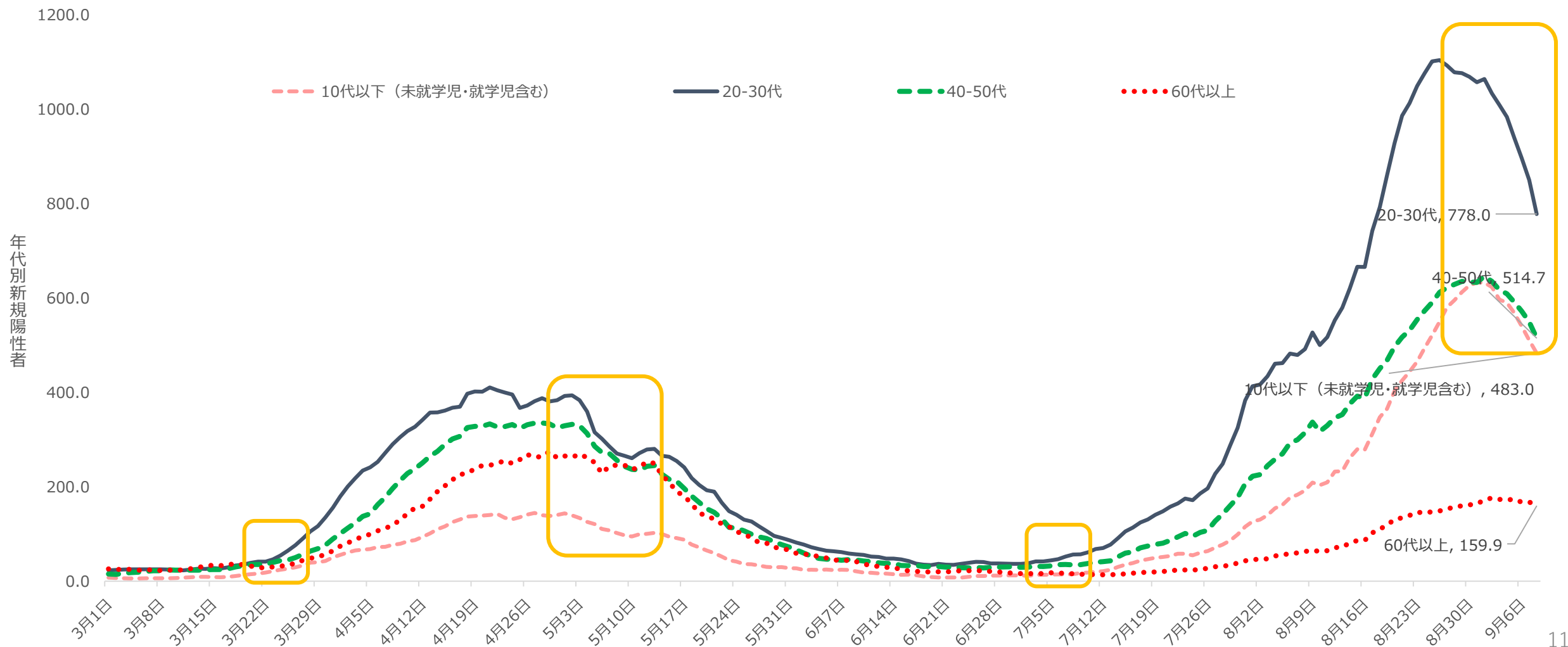
（3月1日以降9月3日までの判明日分）（N = 112,056名（調査中、無症状17,355名を除く））



※有症状で発症日が確認できなかった事例について、陽性判明日から13日遡って算出（陽性者数に占める発症日不明の割合が10%を越えた4/6以降）
人流は、駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント【出典：株式会社Agoop】

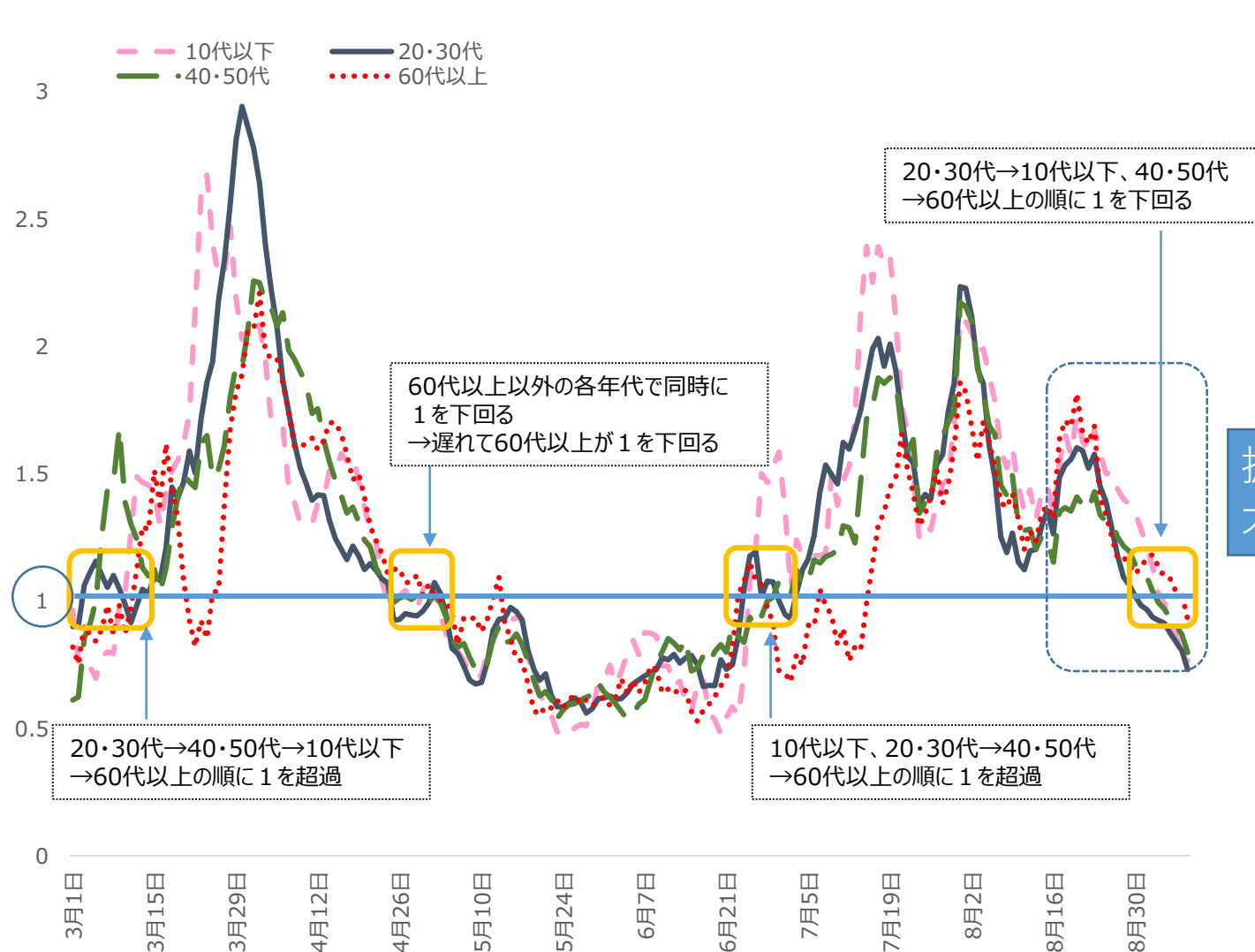
年代別新規陽性者数（7日間移動平均）の推移（日別）（9月8日時点）

- ◆ 第四波は、各年代がほぼ同時に感染拡大し（20・30代の増加速度は他の年代に比べ急速）、ほぼ同時に感染が収束。第五波は、20・30代から感染が拡大し、60代を除く他の年代は遅れて感染が拡大。60代以上を除き、各年代の新規陽性者数はほぼ同時に減少に転じた。

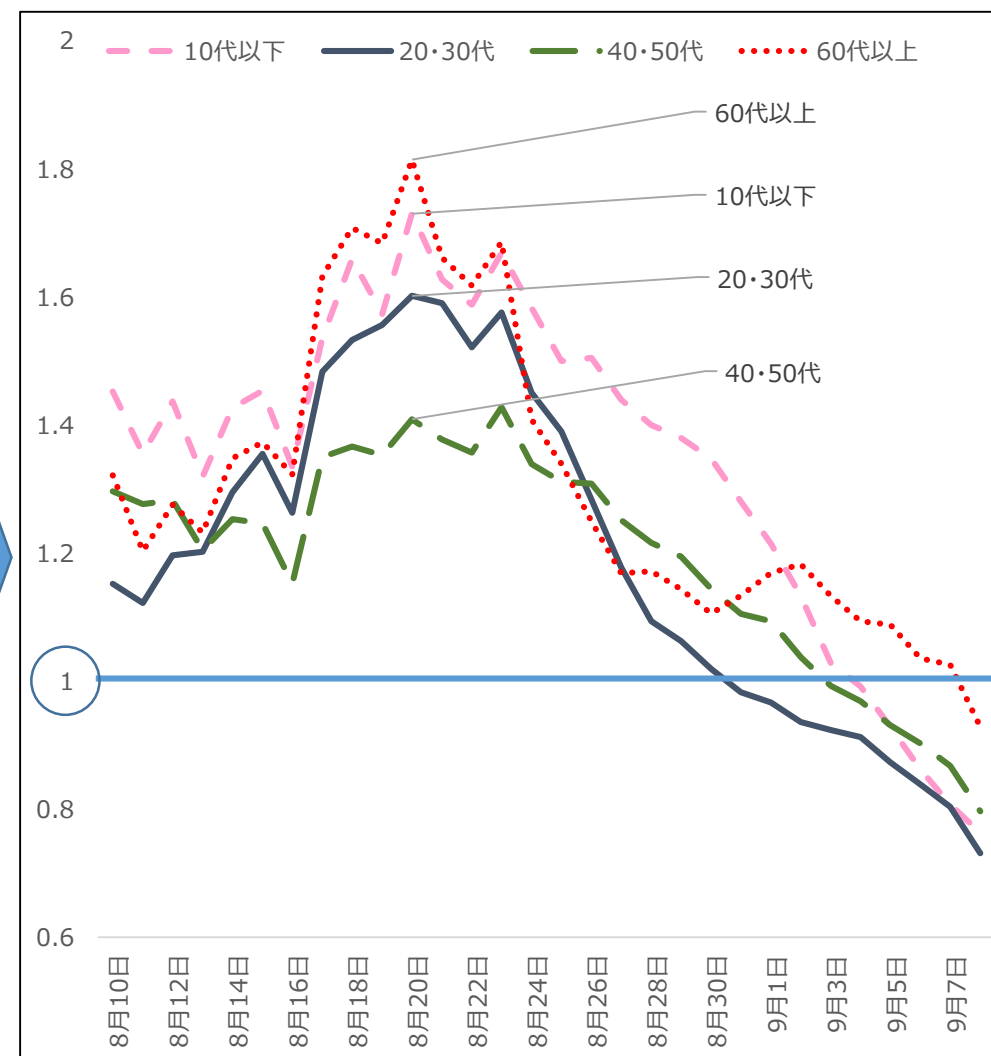


年代別新規陽性者数前週増加比の推移（日別）（9月8日時点）

- ◆ 第四波は20・30代の前週増加比が1を超過した後、40・50代、10代以下、60代以上の順に数日遅れて1を超過。
- ◆ 第六波は10代以下、20・30代の前週増加比がほぼ同時に1を超過。数日遅れて40・50代が1を超過。60代以上は大きく遅れて1を超過。20・30代の前週増加比が1を下回った後、10代以下、40・50代がほぼ同時に1を下回った。



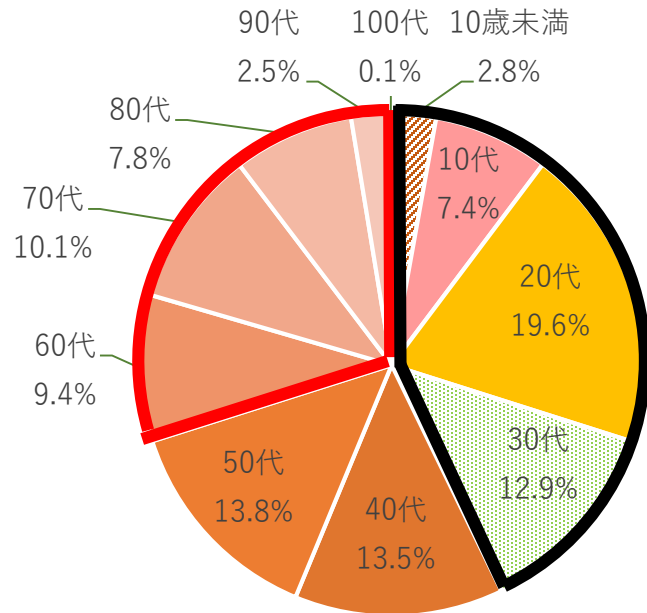
拡大



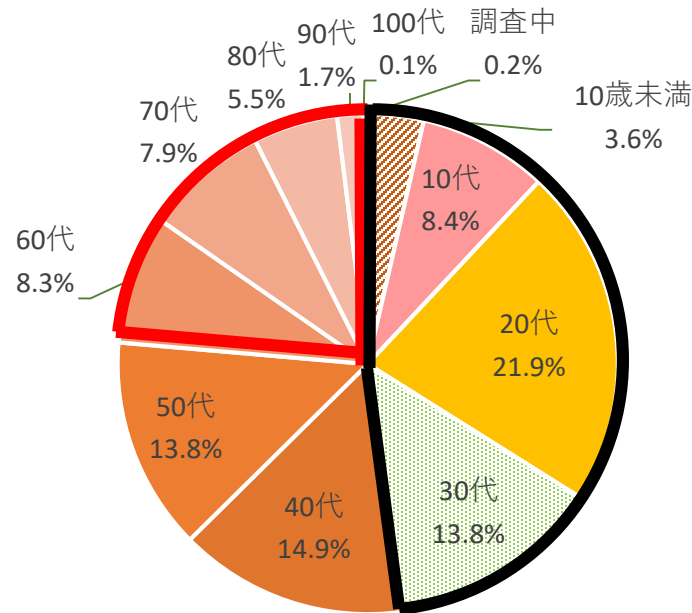
第三波以降の新規陽性者の年代構成（9月6日時点）

- ◆ 第三波、第四波と比べ、第五波は、新規陽性者数（年代不明を除く）に占める30代以下の割合が約67%と急増。デルタ株の影響により、これまで感染が少なかった10代以下が急増し、全体の約2割を占める。

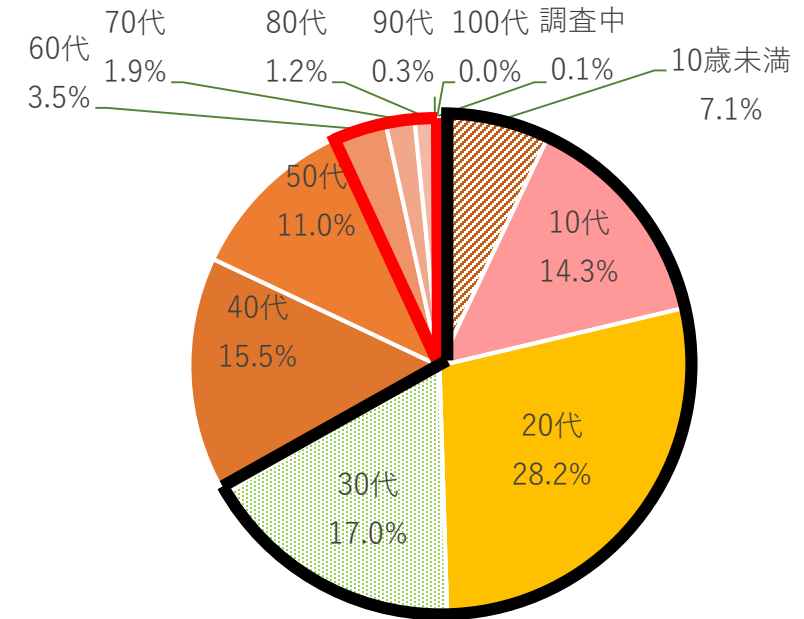
第三波
(10月10日～2月28日)



第四波 ※年代不明の事例を除く
(3月1日～6月20日)



第五波 ※年代不明の事例を除く
(6月21日～9月6日時点)



	第三波	第四波	第五波
30代以下の割合 (うち、10代以下の割合)	42.7% (10.3%)	47.7% (12.0%)	66.6% (21.4%)
40・50代の割合	27.3%	28.7%	26.5%
60代以上の割合	29.9%	23.4%	6.9%

※他、調査中0.2%

※他、調査中0.1%

「大阪モデル」モニタリング指標の状況

◆ 一般医療と両立可能な病床数を分母とする重症病床使用率が約9割と極めてひっ迫。

区分	モニタリング指標		警戒の目安	非常事態の 目安	非常事態解 除の目安	警戒解除の 目安	4/25 緊急事態 措置適用	6/21 緊急事態措置 解除・まん延防 止等重点措置 適用	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	現在の状況
感染状況	分科会 指標	①直近1週間の人口10万人あたり新 規陽性者数	15人以上 (約189人/ 日)	25人以上 (約315人/ 日)	—	—	86.08	7.39	187.20	180.74	173.02	165.11	153.86	9/1をピークに減少傾向
医療提供 体制	分科会 指標	②病床使用率 重症・軽症中等症ともに確保病床数を 分母として算出	20%以上	50%以上	7日間連続 50%未満	7日間連続 20%未満	88.7%	24.5%	70.9%	76.3%	80.0%	70.1%	68.5%	8/8に50%を超過し、急速に増加したが、 9/8はやや改善。
	独自指標	③重症病床使用率 一般医療と両立可能な病床数を分母と して算出	20%以上	60%以上	7日間連続 60%未満	7日間連続 20%未満	126.8% (98.6%)	44.0% (30.6%)	80.6% (43.8%)	82.8% (45.0%)	81.3% (44.1%)	84.7% (46.0%)	87.2% (47.4%)	一般医療と両立可能な病床数を分母とする 使用率は8/24に60%を超過。 災害級非常事態の病床数を分母とする使 用率は、5割弱まで増加

【参考指標】

医療提供 体制等	①軽症中等症病床使用率	—	—	—	—	87.1%	23.6%	76.9%	83.3%	87.8%	75.4%	73.2%	8/5に50%を超過し、急速に増加したが、 9/8はやや改善。
	②宿泊療養施設部屋数使用率	—	—	—	—	52.7%	5.6%	55.9%	57.3%	58.0%	54.5%	51.9%	6割弱で推移

・4月25日及び6月21日の重症病床使用率における重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。

・括弧内は、確保病床数（4/25は運用病床数）を分母として算出

新型コロナウイルス感染症対策分科会におけるモニタリング指標の状況

◆ 依然各指標の数値は基準を大幅に超過。

指標			ステージⅣ 目安	ステージⅢ 目安	4/25 緊急事態措置適用	6/21 緊急事態措置解除 まん防適用	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/8時点の ステージⅣの目安に 対する状況
医療提供体制等の負荷	医療のひっ迫具合	①確保病床占有率	50%以上	20%以上	88.7% (1,882/2,122)	24.5% (664/2,710)	70.9% (2,311/3,258)	76.3% (2,487/3,258)	80.0% (2,628/3,285)	70.1% (2,303/3,283)	68.5% (2,252/3,286)	●
		②入院率	25%以下	40%以下	11.3% (1,882/16,692)	37.1% (664/1,791)	8.6% (2,311/26,866)	9.5% (2,487/26,136)	10.5% (2,628/24,944)	9.9% (2,303/23,352)	9.8% (2,252/23,085)	●
		③重症病床確保病床占有率	50%以上	20%以上	73.1% (386/528)	25.7% (217/843)	47.9% (592/1,235)	48.5% (599/1,235)	48.1% (594/1,235)	49.0% (605/1,235)	49.6% (613/1,235)	○
		④人口10万人あたり療養者数	30人以上	20人以上	189.36	20.32	304.77	296.49	282.97	264.91	261.88	●
感染の状況	⑤陽性率 1週間平均		10%以上	5%以上	7.5%	0.9%	12.1%	11.8%	11.7%	11.3%	11.0%	●
	⑥直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数		25人以上	15人以上	86.08	7.39	187.20	180.74	173.02	165.11	153.86	●
	⑦感染経路不明割合 1週間平均		50%以上	50%以上	61.3%	64.2%	66.8%	66.4%	66.3%	65.9%	64.9%	●

入院率は、人口10万人あたり療養者数が10人以上の場合に適用する。ただし、新規陽性者が発生届が届け出られた翌日までに療養場所の種別が決定され、かつ入院が必要な者が同日までに入院している場合には適用しない。
4月25日及び6月21日の重症病床使用率における重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。

●：基準外 ○：基準内

【参考】新型コロナウイルス感染症対策分科会 緊急事態措置解除の考え方（9月8日） 指標の状況

指標 及び 目安	医療逼迫に関する指標												新規陽性者数		
	入院医療			重症者用病床			入院者数			中等症者数（※）		人口10万人あたり 自宅療養者数 及び療養等調整 中の数	救急搬送 困難事案（※）	※週・人口10万 人あたり新規陽 性者数を記載	前日比
	確保病床			確保病床						※軽症中等症者数を 記載	前日比		※消防庁状況調査 （大阪市・堺市消防 局分）		
	利用率	患者数 （分子）	確保数 （分母）	利用率	患者数 （分子）	確保数 （分母）	入院率	入院者数 （分子）	療養者数 （分母）						
目安	50%未満			50%未満			改善傾向			継続して 減少傾向		60人程度に向か い確実に減少	減少傾向	2週間ほど継続 的に下降傾向	
8/9	57.4%	1,789	3,118	31.3%	378	1,208	16.4%	1,789	10,890	1,411	1.10	75.96	267	90.53	1.07
8/10	61.0%	1,904	3,121	35.1%	414	1,179	17.4%	1,904	10,926	1,490	1.06	74.98		86.19	0.95
8/11	54.6%	1,703	3,121	36.2%	427	1,179	15.3%	1,703	11,138	1,276	0.86	79.56		89.21	1.04
8/12	56.1%	1,752	3,121	35.8%	422	1,179	14.6%	1,752	11,988	1,330	1.04	87.45		95.67	1.07
8/13	56.8%	1,773	3,121	36.3%	428	1,179	14.4%	1,773	12,301	1,345	1.01	90.55		98.51	1.03
8/14	59.1%	1,844	3,121	36.6%	431	1,179	14.0%	1,844	13,151	1,413	1.05	99.67		106.51	1.08
8/15	64.2%	2,004	3,121	37.5%	442	1,179	14.5%	2,004	13,777	1,562	1.11	105.65		113.32	1.06
8/16	68.9%	2,149	3,121	37.7%	445	1,179	15.2%	2,149	14,137	1,704	1.09	108.10	256	112.97	1.00
8/17	62.1%	1,946	3,134	39.0%	478	1,225	13.5%	1,946	14,438	1,468	0.86	113.31		126.11	1.12
8/18	61.1%	1,915	3,134	39.1%	479	1,225	12.2%	1,915	15,710	1,436	0.98	127.61		135.26	1.07
8/19	62.5%	1,959	3,134	39.8%	487	1,225	11.7%	1,959	16,776	1,472	1.03	138.15		144.21	1.07
8/20	64.2%	2,013	3,134	40.3%	494	1,225	11.0%	2,013	18,297	1,519	1.03	154.71		155.82	1.08
8/21	64.4%	2,019	3,134	40.5%	496	1,225	10.3%	2,019	19,512	1,523	1.00	168.26		164.08	1.05
8/22	70.0%	2,195	3,134	41.2%	505	1,225	10.7%	2,195	20,513	1,690	1.11	177.22		169.27	1.03
8/23	74.5%	2,351	3,155	41.4%	508	1,226	11.2%	2,351	20,967	1,843	1.09	179.18	234	175.99	1.04
8/24	67.4%	2,128	3,155	41.0%	503	1,226	9.8%	2,128	21,675	1,625	0.88	189.20		181.80	1.03
8/25	67.4%	2,126	3,155	41.0%	503	1,226	9.2%	2,126	23,229	1,623	1.00	206.34		187.60	1.03
8/26	66.4%	2,094	3,155	41.6%	510	1,226	8.7%	2,094	24,040	1,584	0.98	213.95		191.98	1.02
8/27	67.7%	2,145	3,167	41.6%	510	1,226	8.5%	2,145	25,248	1,635	1.03	225.78		194.58	1.01
8/28	69.4%	2,198	3,167	42.3%	518	1,226	8.2%	2,198	26,647	1,680	1.03	240.39		195.54	1.00
8/29	75.5%	2,392	3,167	42.8%	525	1,226	8.9%	2,392	26,886	1,867	1.11	240.36		197.45	1.01
8/30	80.2%	2,544	3,173	42.9%	526	1,226	9.4%	2,544	27,004	2,018	1.08	239.61	262	197.98	1.00
8/31	71.3%	2,263	3,173	44.6%	550	1,234	8.5%	2,263	26,753	1,713	0.85	239.65		197.73	1.00
9/1	69.5%	2,261	3,254	45.7%	564	1,235	8.2%	2,261	27,587	1,697	0.99	248.76		199.96	1.01
9/2	69.1%	2,252	3,258	46.6%	576	1,235	8.2%	2,252	27,544	1,676	0.99	247.65		196.24	0.98
9/3	69.4%	2,261	3,258	47.6%	588	1,235	8.3%	2,261	27,394	1,673	1.00	245.72		190.47	0.97
9/4	70.9%	2,311	3,258	47.9%	592	1,235	8.6%	2,311	26,866	1,719	1.03	239.43		187.20	0.98
9/5	76.3%	2,487	3,258	48.5%	599	1,235	9.5%	2,487	26,136	1,888	1.10	228.23		180.74	0.97
9/6	80.0%	2,628	3,285	48.1%	594	1,235	10.5%	2,628	24,944	2,034	1.08	212.65		173.02	0.96
9/7	70.1%	2,303	3,283	49.0%	605	1,235	9.9%	2,303	23,352	1,698	0.83	199.32		165.11	0.95
9/8	68.5%	2,252	3,286	49.6%	613	1,235	9.8%	2,252	23,085	1,639	0.97	197.47		153.86	0.93

※中等者数：分科会の「考え方」においても、「現在のところ、正確な情報が存在しないことから、アドバイザーボードにおいて検討していく予定とされている。
上記「中等者数」欄の数値は、入院している軽症中等者数を記載。（国定義に基づき、HCU等入院者数は重症者数に計上しているため、府が日々公表している軽症中等症入院者数とは一致しない。）

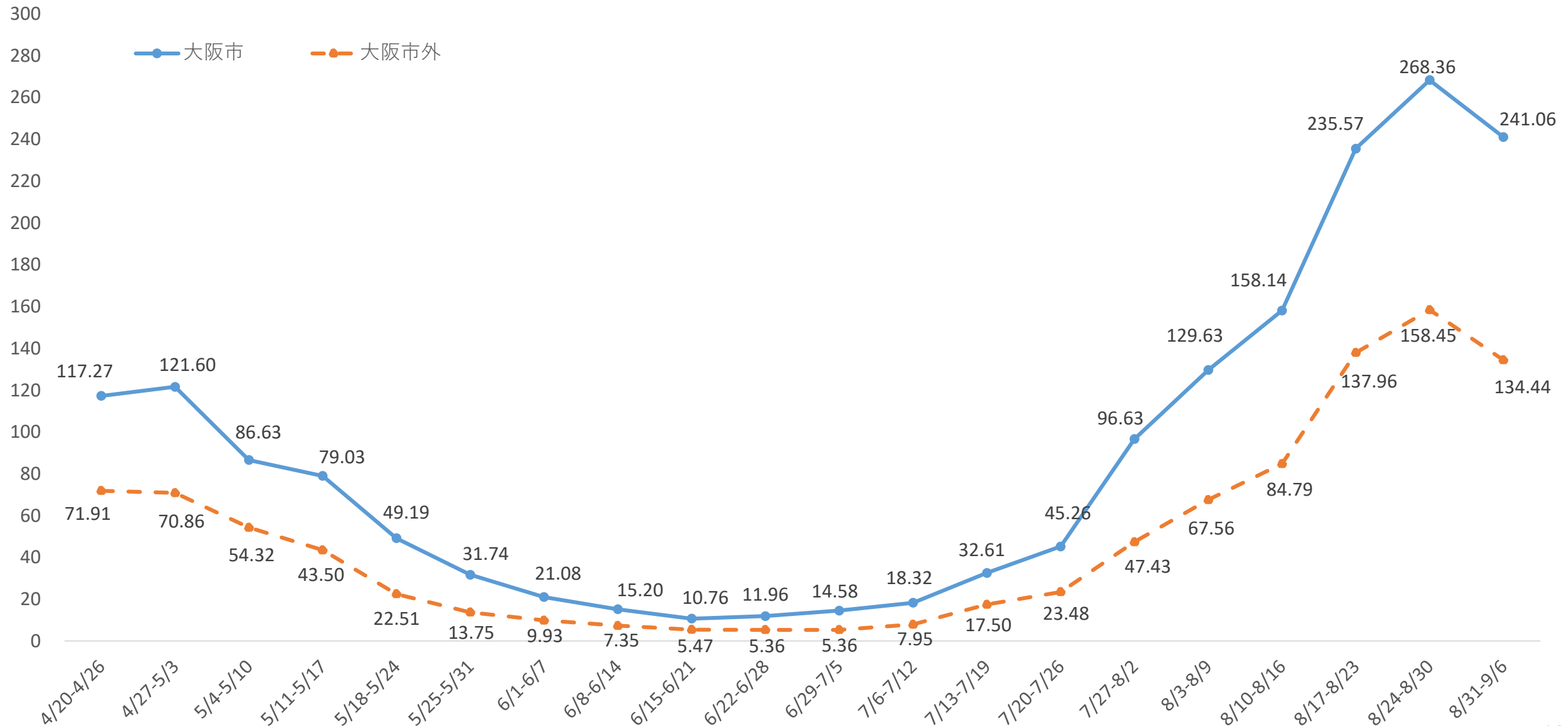
※救急搬送困難事案：救急隊による『医療機関への受入れ照会回数4回以上』かつ『現場滞在時間30分以上』の事案（速報値）。総務省消防庁「各消防本部からの救急搬送困難事案に係る状況調査の結果」に基づき、大阪市及び堺市消防局の合計件数を記載。

2 市内・市外の比較

大阪市・市外の陽性者比較（人口10万人あたり 1週間単位）

※市内外は居住地による
※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

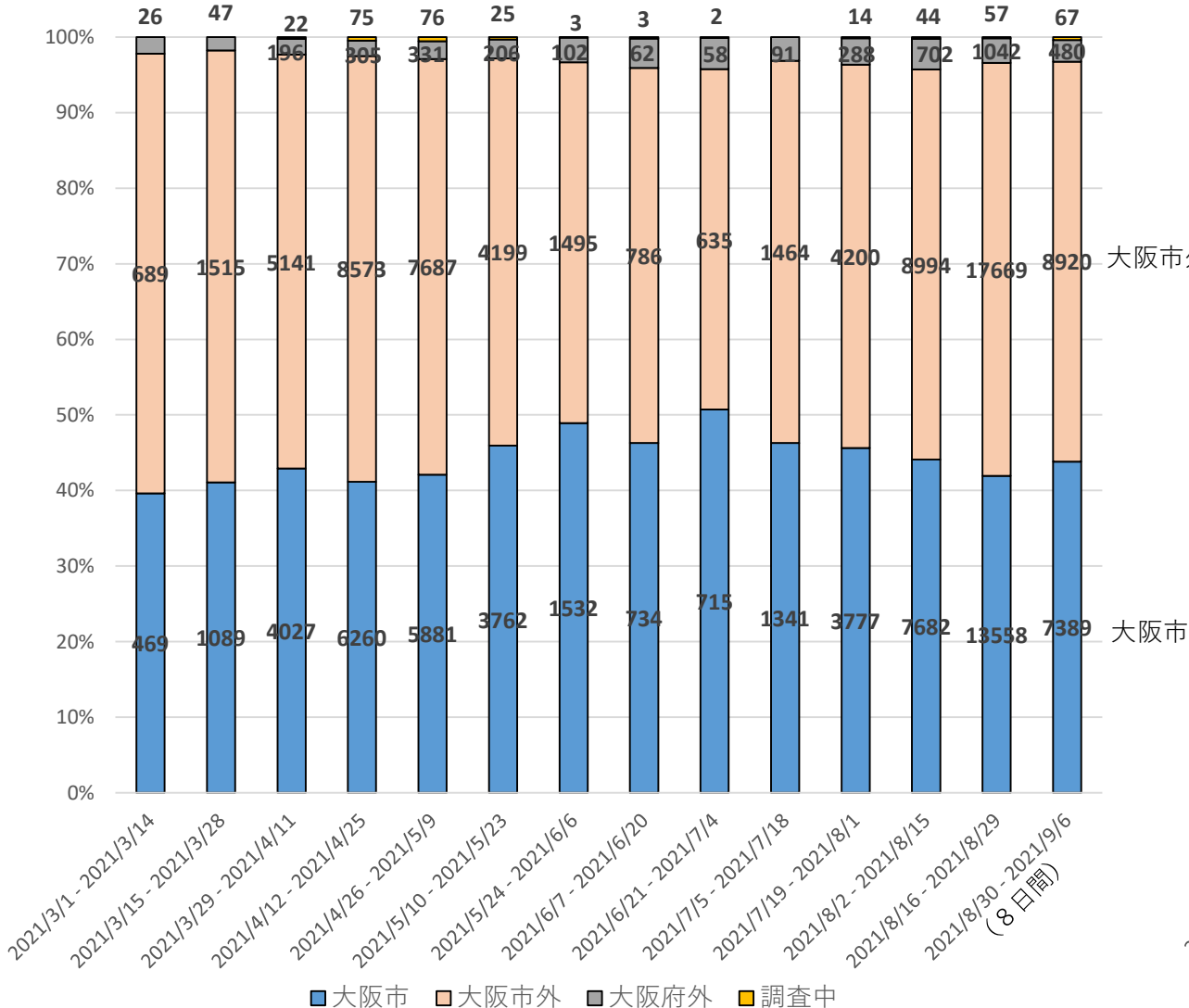
◆ 市内・市外ともに、8/2の緊急事態措置適用後も急増が継続していたが、直近1週間では減少。



陽性者の居住地

◆ 大阪市内居住者が4割強、市外が約5割。

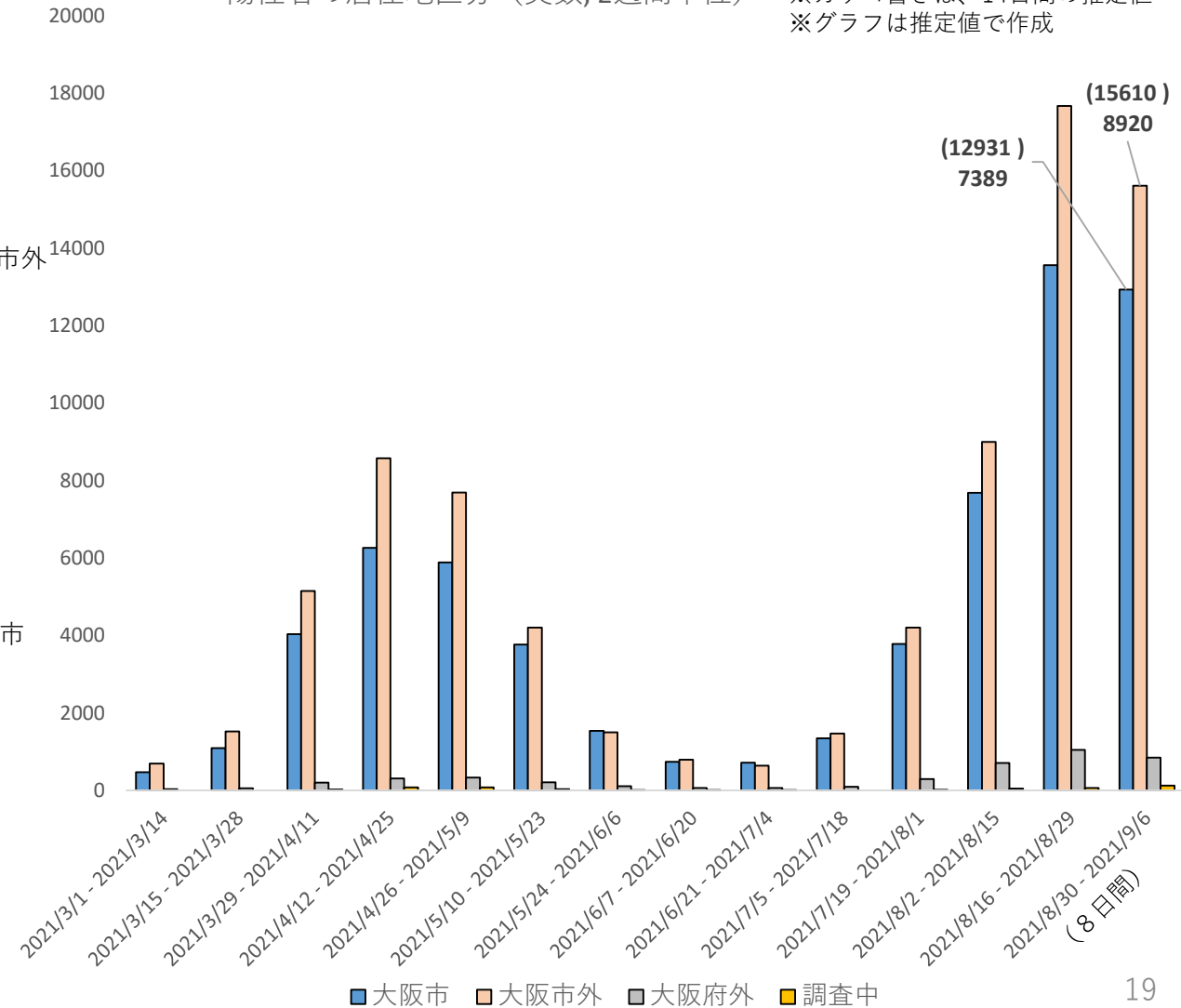
陽性者の居住地区分（割合, 2週間単位）



（3月1日以降9月6日までに判明した134,507事例の状況）

陽性者の居住地区分（実数, 2週間単位）

※カッコ書きは、14日間の推定値
※グラフは推定値で作成

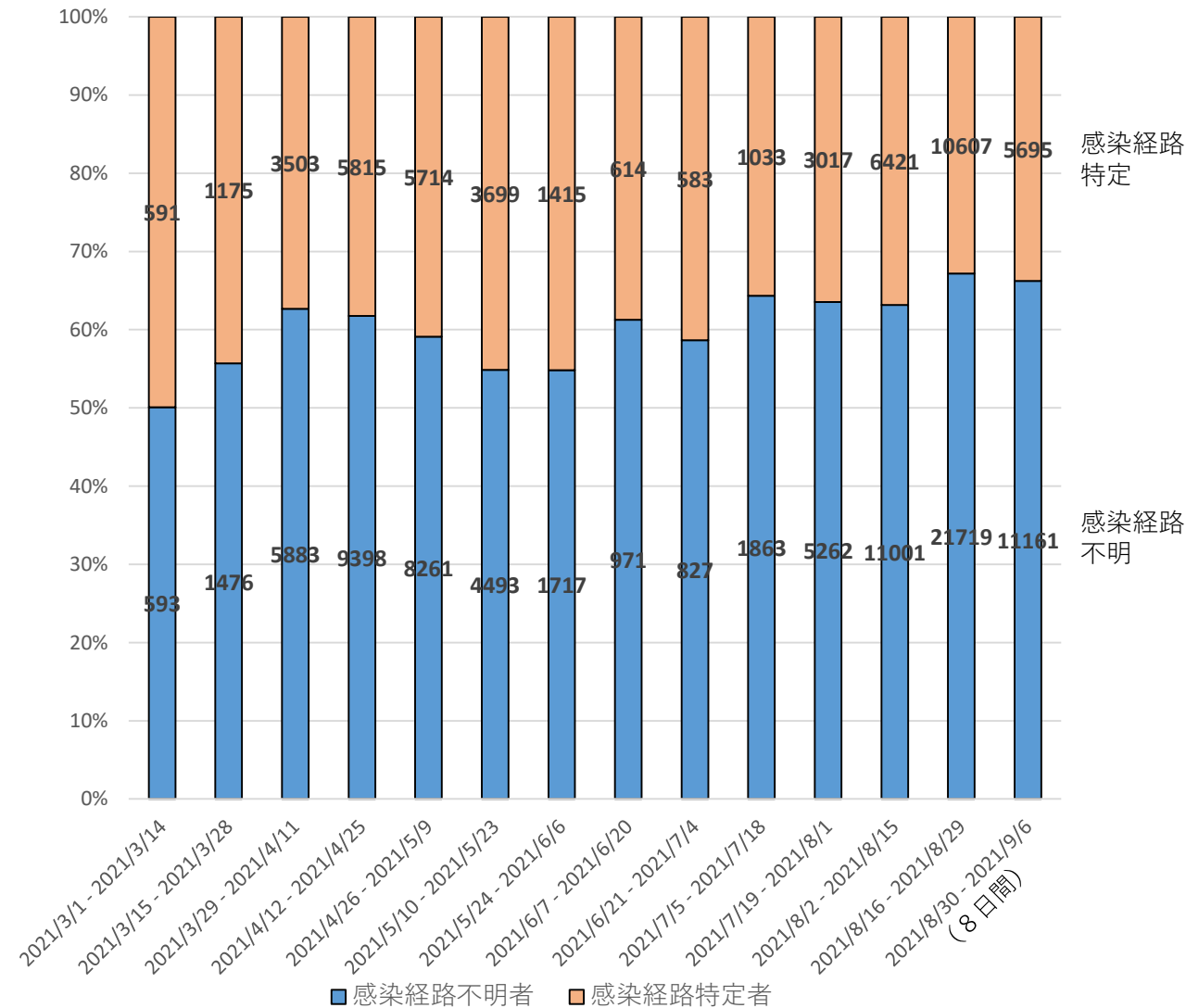


3 感染経路

陽性者の感染経路の状況

◆ 感染経路不明の割合は依然、7割弱と極めて多い。

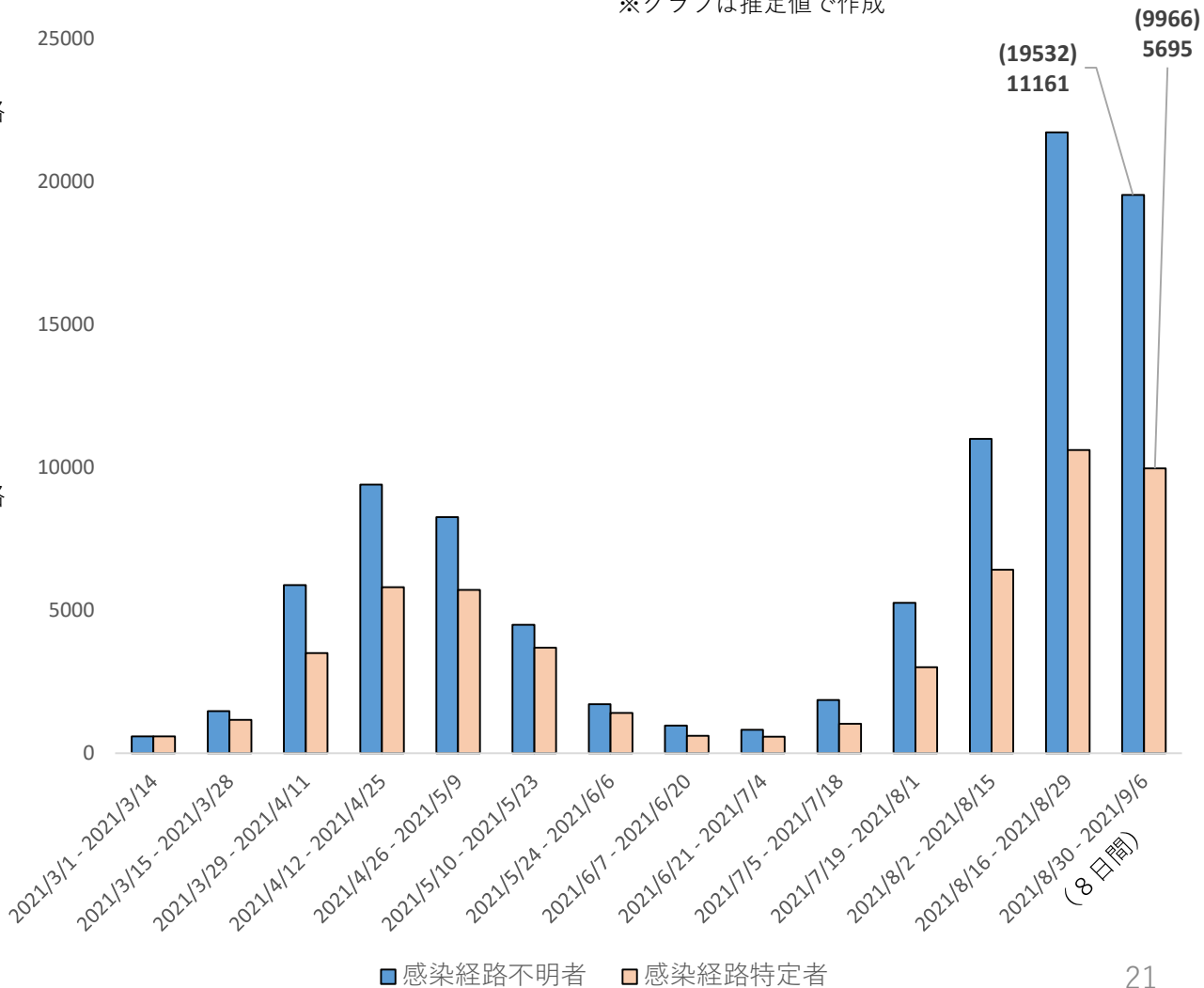
感染経路の状況（割合）



（3月1日以降9月6日までに判明した134,507事例の状況）

感染経路の状況（実数）

※カッコ書きは、14日間の推定値
※グラフは推定値で作成

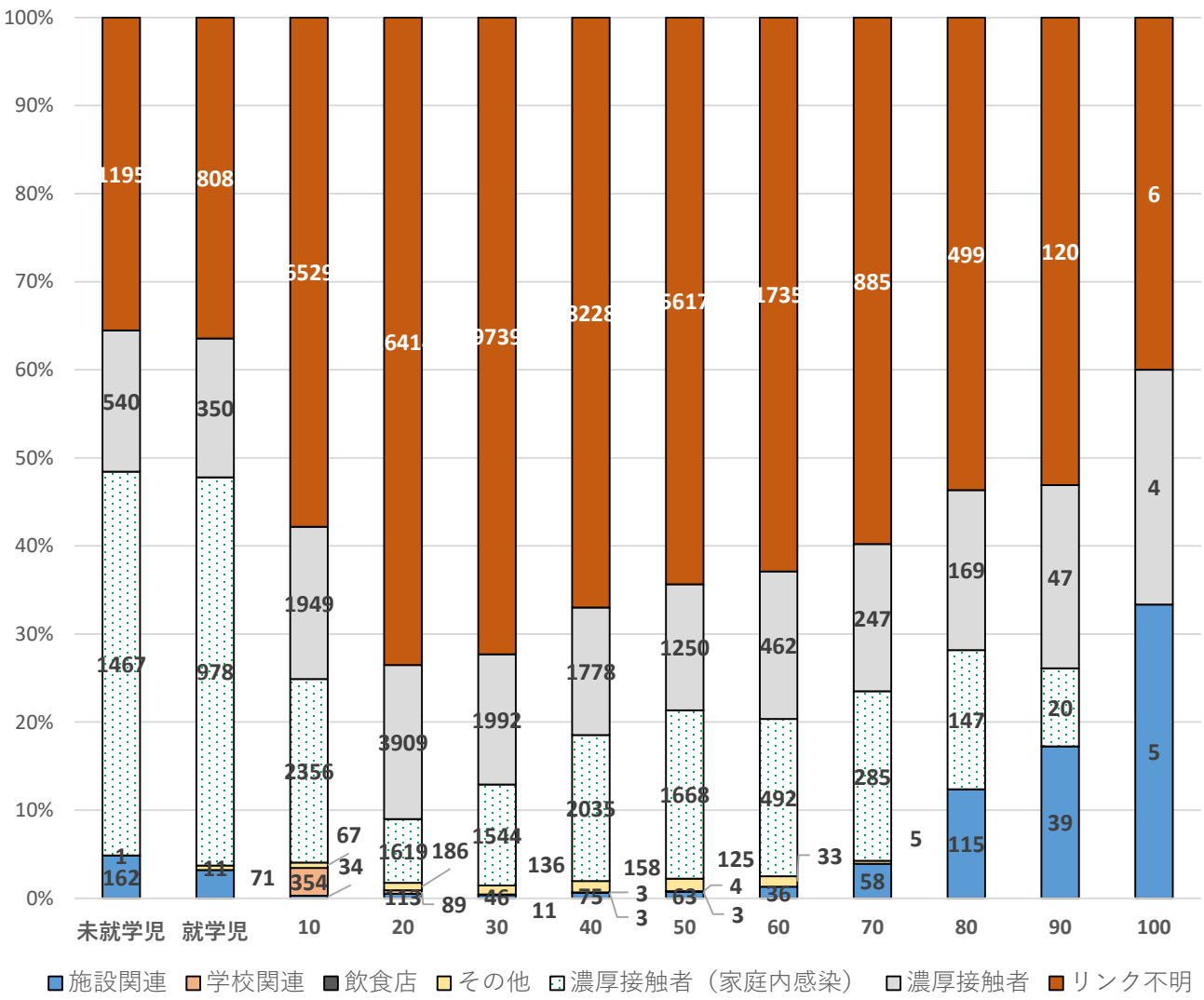


感染経路（第五波）

◆ 第五波の新規陽性者の感染経路は、施設関連が減少し、リンク不明が増加。

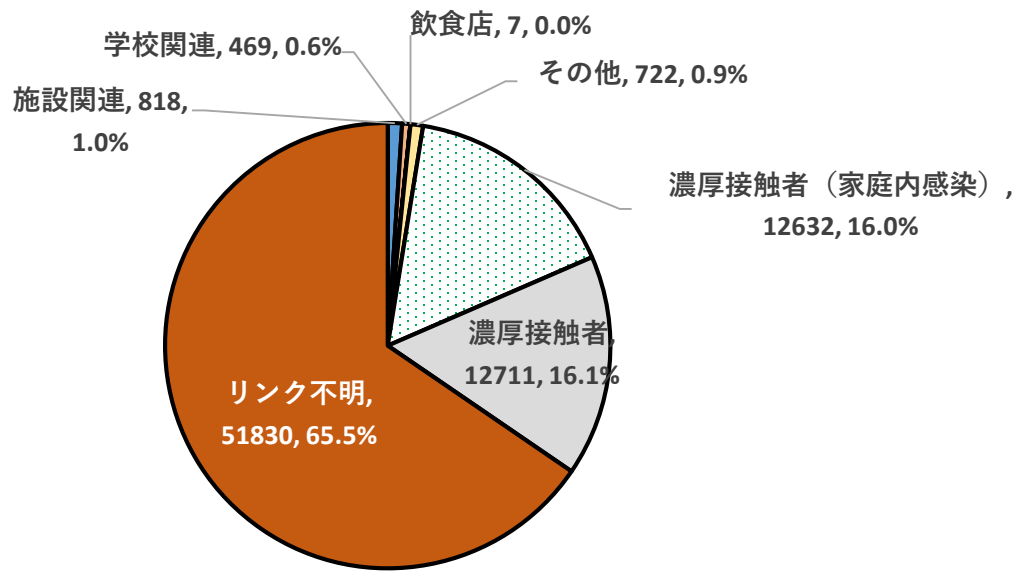
年代別感染経路

※年齢調査中を除く



（6月21日以降9月6日までに判明した79,189事例の状況）

全年代感染経路



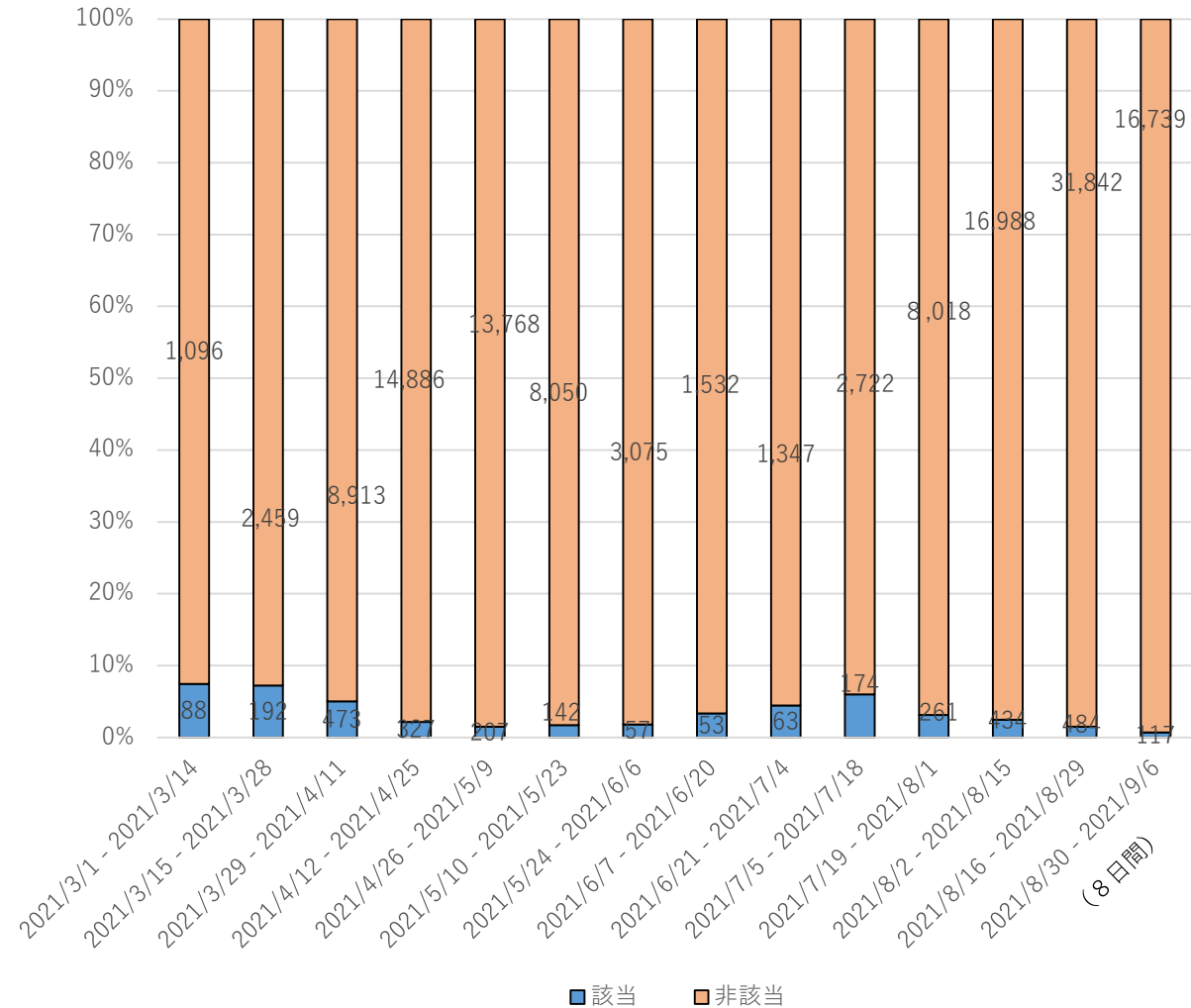
時点	施設 関連	学校 関連	飲食店	その他	濃厚接触者 (家庭内感染)	濃厚 接触者	リンク 不明
第二波	7.7%	0.5%	0.5%	0.4%	12.3%	18.6%	60.0%
第三波	13.0%	1.2%	0.2%	1.4%	16.7%	14.8%	52.7%
第四波	6.0%	0.5%	0.0%	1.0%	16.4%	16.7%	59.3%
第五波 (6/21~9/6)	1.0%	0.6%	0.0%	0.9%	16.0%	16.1%	65.5%

4 感染エピソード

夜の街の関係者及び滞在者の状況（陽性者全体における該当者）

夜の街の関係者及び滞在者の人数は7月中旬以降減少。

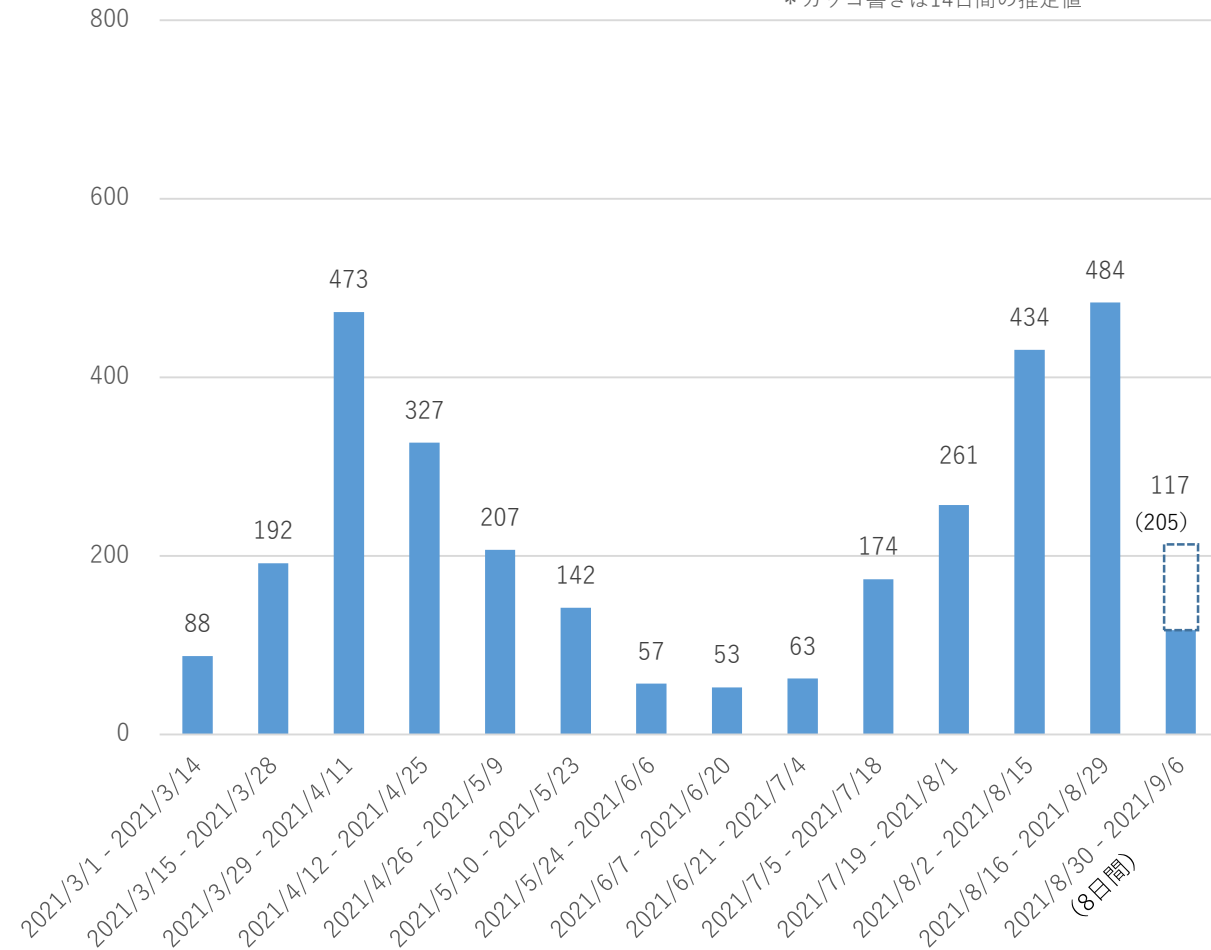
夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：割合）



（3月1日以降9月6日までに判明した134,507事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：実数）

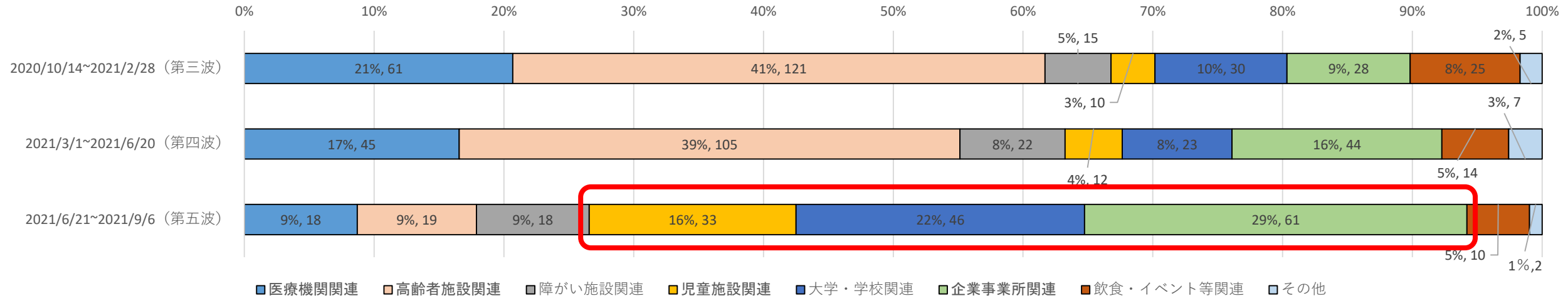
* カッコ書きは14日間の推定値



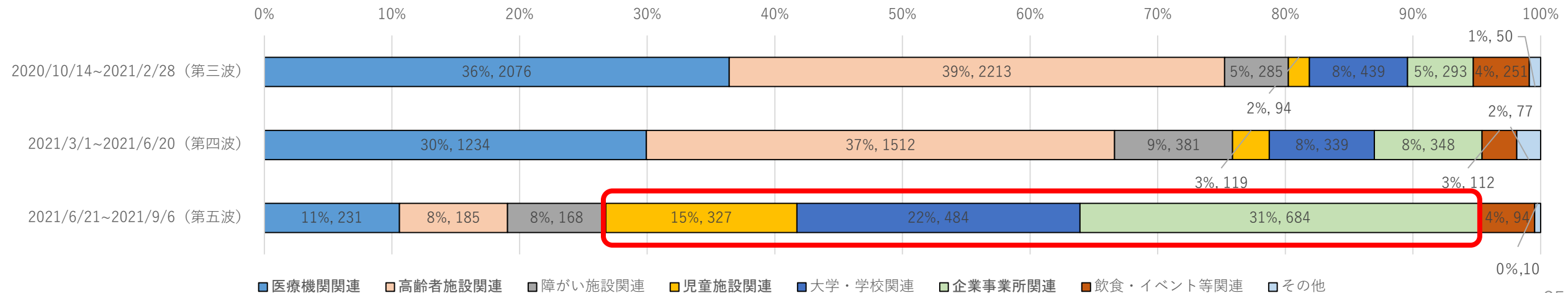
第三波から第五波にかけてのクラスター状況【割合】

◆ 第五波は、児童施設関連、大学・学校関連、企業事業所関連の割合が大きく増加。

施設数（割合）

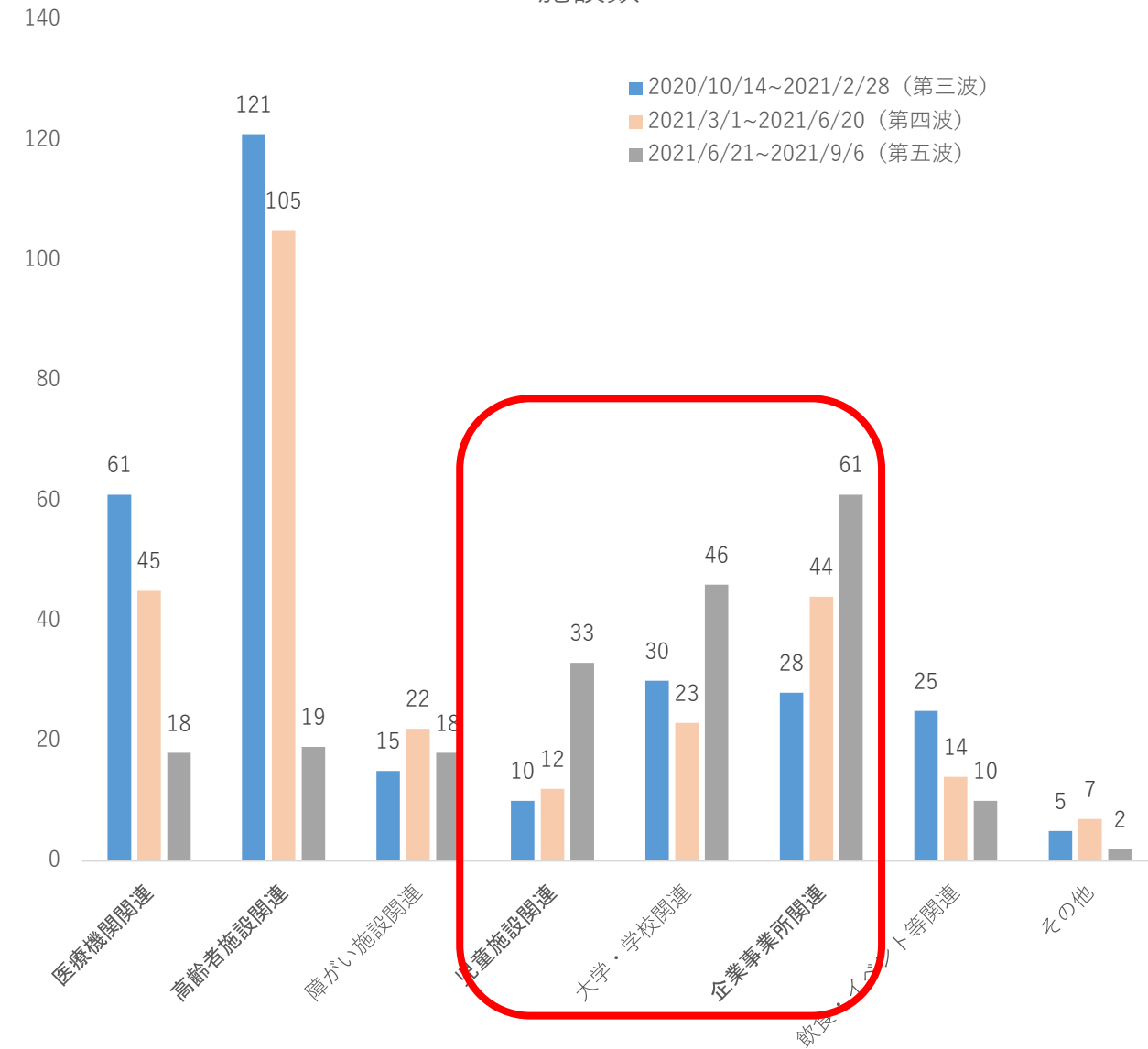


陽性者数（割合）

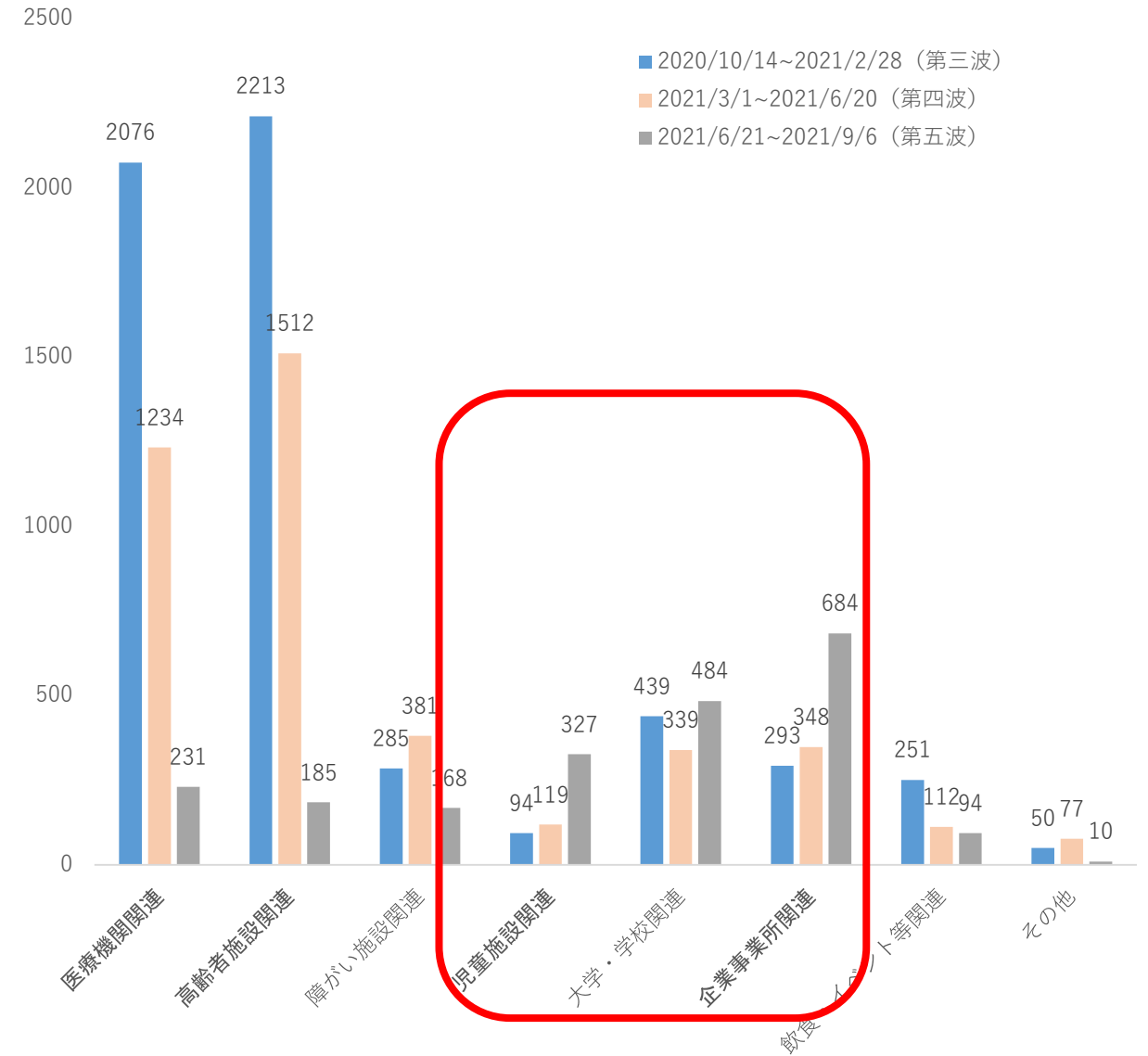


第三波から第五波にかけてのクラスター状況【実数】

施設数



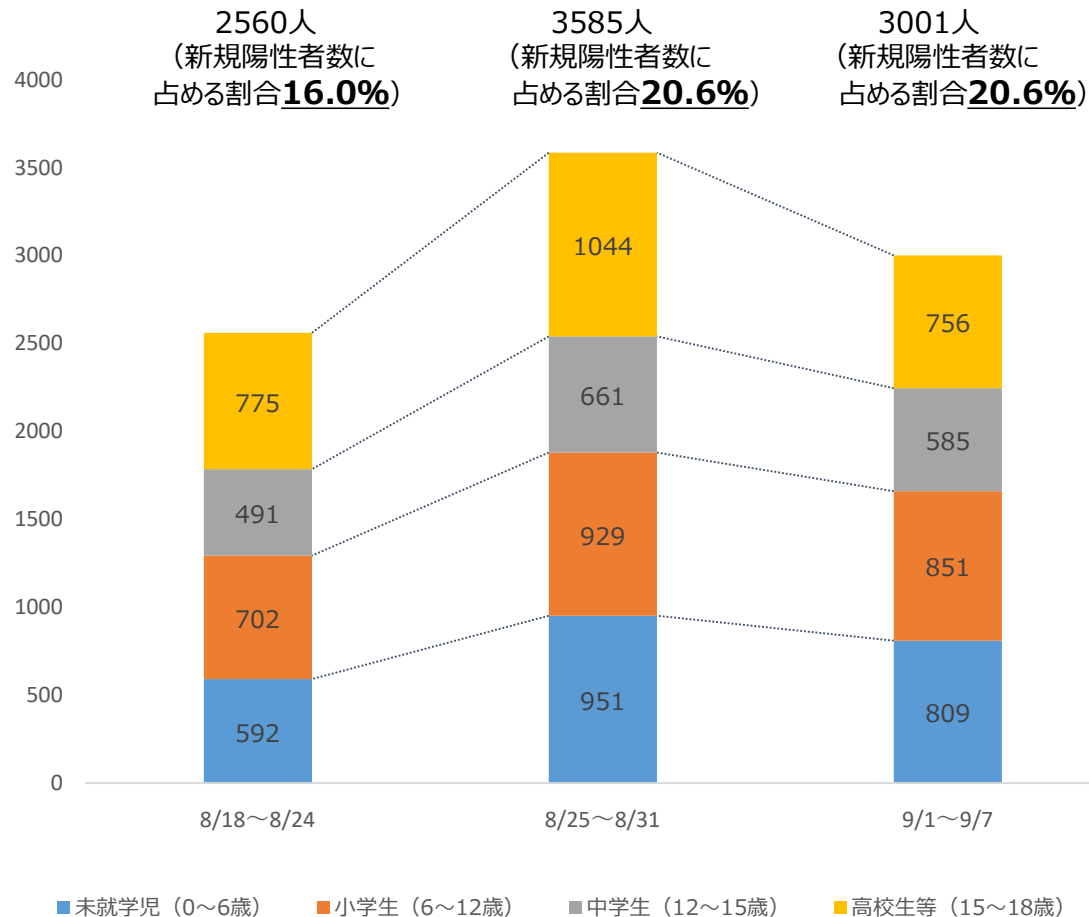
陽性者数



第五波 10代以下の新規陽性者やクラスター等の状況

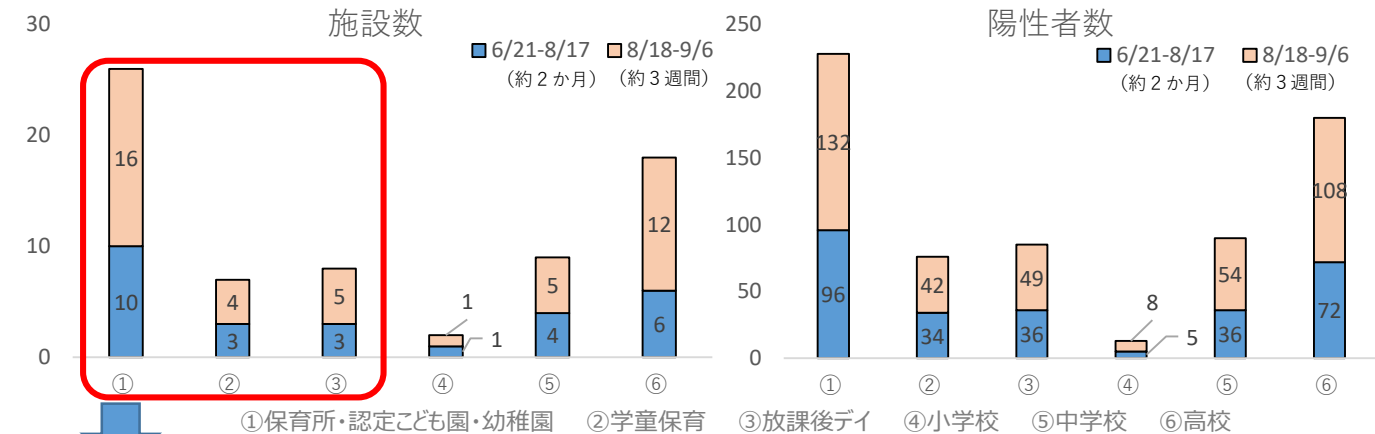
- ◆ 直近2週間は18歳以下の年齢層で新規陽性者数が大きく増加。
- ◆ 8月下旬からの約3週間の児童・学校関連クラスターの発生件数は、その前約2か月間の発生件数と同等又は超過。
児童施設クラスターの推定感染経路として子どもから職員・家庭への感染が確認。
- ◆ 臨時休業した府立学校数や、府立学校在籍の新規陽性者数は、8月以降急増。

未就学児、小中学生、高校生等の新規陽性者数の推移



※HER-SYSより抽出

■ 第五波 児童・学校関連クラスター発生状況 (6/21～9/6時点)



■ 児童施設クラスターの推定感染経路(9/6時点)

※発症日が一番早い陽性者から推定

職員→子ども	子ども→職員	職員のみ	子どものみ	計
31	6	3	1	41施設

子どもから家庭への感染拡大 41施設中12施設

■ 府立学校 (高校・支援学校 全176校) 臨時休業・府立学校在籍の新規陽性者数

	6月	7月	8月	9月 (6日時点)
臨時休業した学校数 (のべ数)	16校	37校	143校	57校
府立学校在籍の陽性者数 (うち、教職員数)	31名 (うち4名)	170名 (うち16名)	1054名 (うち65名)	263名 (うち18名)

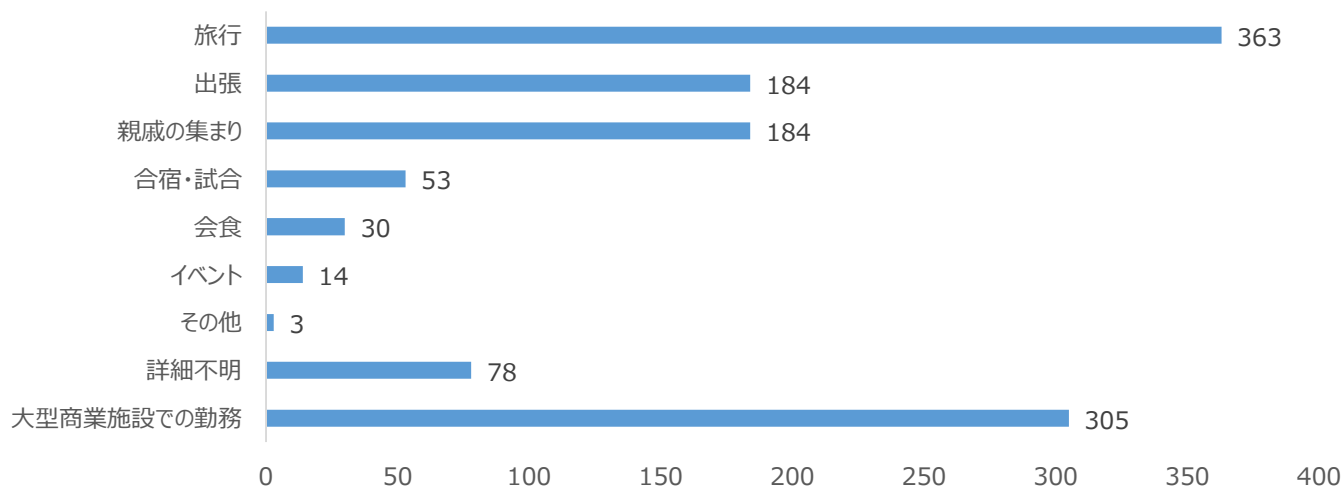
第5波における陽性者のエピソード（9月6日時点）

◆ 陽性者のエピソードとして、感染力が極めて高いデルタ株の影響により、これまで見られなかった大型商業施設のような、感染防止対策を講じている場所において、3密のいずれかに該当するケースでの感染が確認されている。

陽性者の主なエピソード

※未就学児・就学児、クラスター（医療機関関連、高齢者施設関連、障がい者施設関連、大学・学校関連、児童施設関連）を除く陽性者の1.7%

	エピソード	陽性者数
旅行	観光・海水浴・ドライブ・キャンプ・温泉など	363
出張	県をまたいだ出張	184
親戚の集まり	帰省・結婚式・法事・墓参りなど	184
合宿・試合	スポーツ関連	53
会食	県をまたいだ友人等との会食	30
イベント	ライブ・フェス・観劇など	14
その他		3
詳細不明		78
大型商業施設での勤務	百貨店やショッピングモールなどでの勤務したエピソードのあった者	305
合計		1,214



【感染対策を講じていたが、感染が拡大した事例（複数事例からエピソードを抜粋）】

○【企業事業所】

接客時等はマスクを着用し、換気を実施していたが、

- ・従業員の休憩室が狭かった
- ・大声での発声練習
- ・車の同乗
- ・食事の場面、休憩中にマスクなしでの会話があった
- ・手指消毒に改善すべき点があった

○【部活動】

マスクやフェースガードを着用し、人との距離を取りながら、換気も実施していたが、

- ・部活動中の接触があった
- ・更衣室が狭かった
- ・更衣室での会話

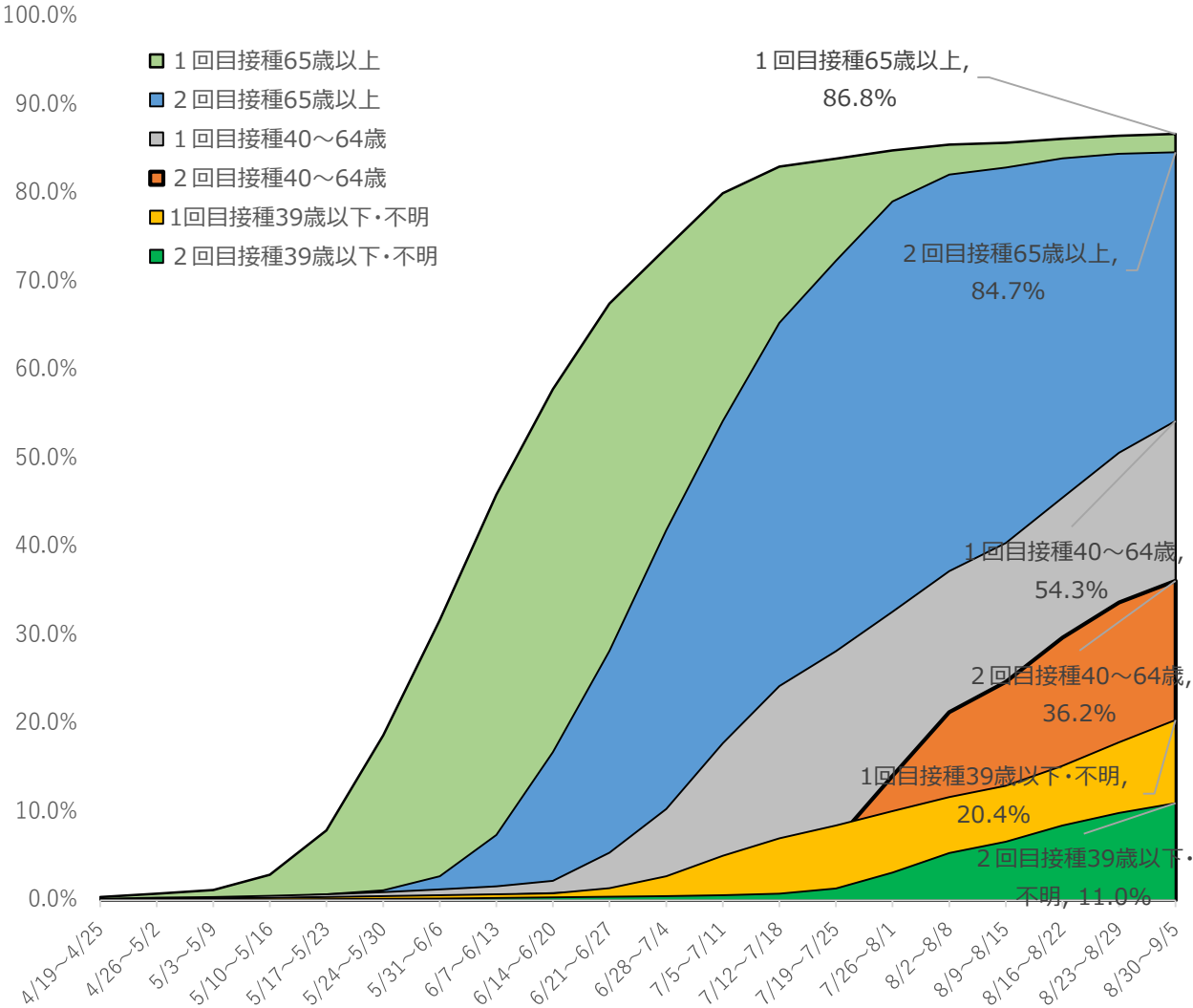
※新規陽性者への聞き取りにおいて把握した行動の中で、感染源となった可能性のあるもの

5 感染・療養状況と ワクチンの接種状況

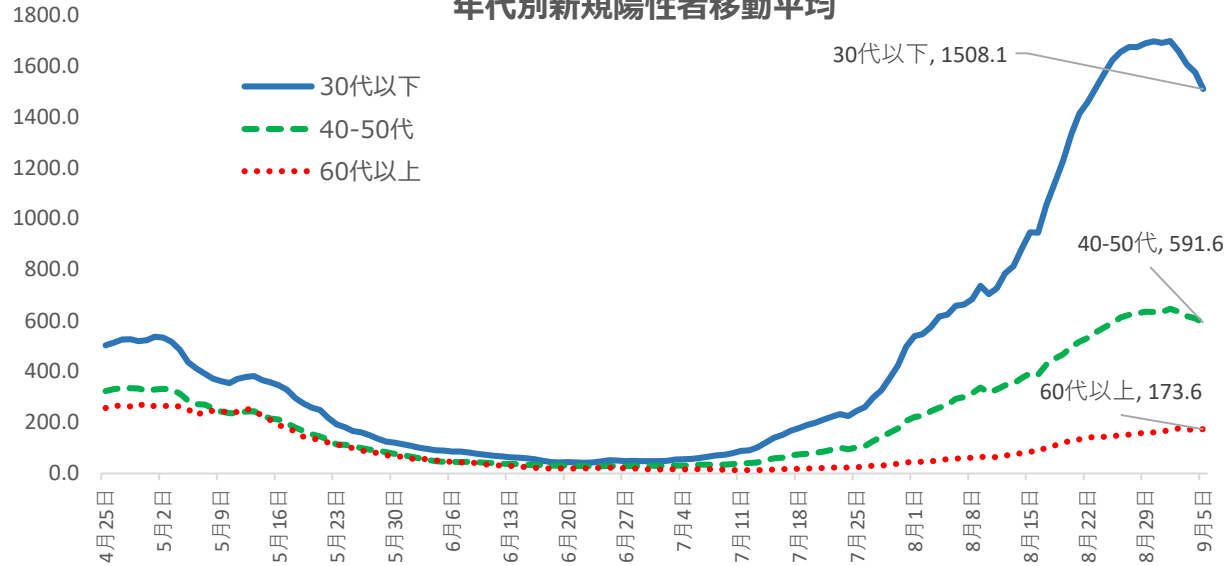
年代別ワクチン接種率及び新規陽性者数（9月5日時点）

◆ ワクチン2回接種完了者の割合は、65歳以上で84.7%、40～64歳で36.2%、39歳以下で11.0%。
第五波では、発症予防効果があるワクチン接種の推進により、60代以上新規陽性者数は他の年代と比べ抑制。

年代別ワクチン接種率



年代別新規陽性者移動平均



【ワクチン接種状況（9月5日時点）】

	人口	未接種 (人口に占める割合)	1回目接種のみ (同)	2回目接種 (同)
39歳以下・不明	3,452,638	2,748,157 (79.6%)	324,250 (9.4%)	380,231 (11.0%)
40～64歳	3,001,261	1,372,640 (45.7%)	543,024 (18.1%)	1,085,597 (36.2%)
65歳以上	2,385,612	315,845 (13.2%)	49,329 (2.1%)	2,020,438 (84.7%)

※ワクチン接種率（状況）：9月8日にVRSダッシュボードよりダウンロードした数値

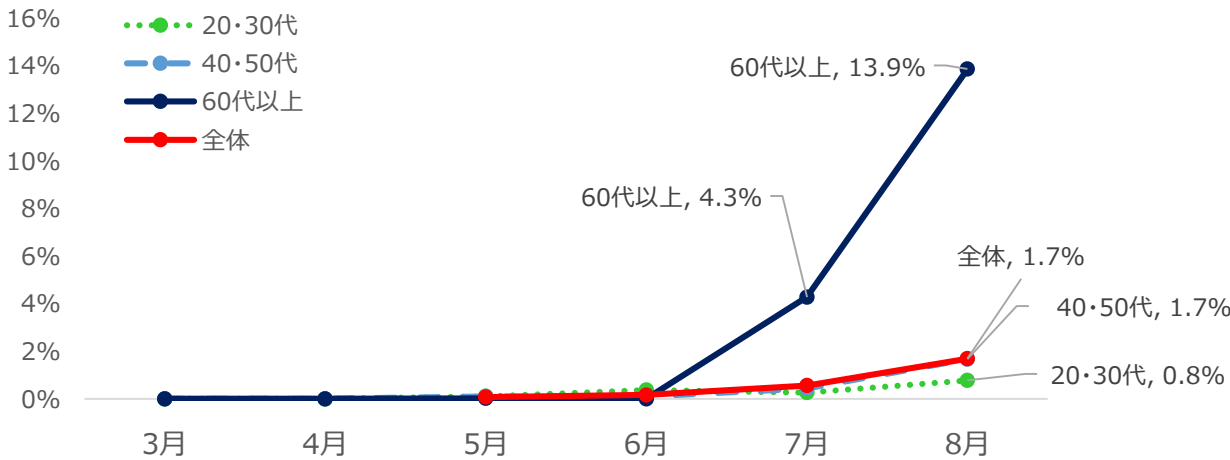
新規陽性者のワクチン接種歴（令和3年8月29日判明時点）

- ◆ 第四波（3月1日）から第五波（8月29日時点）までの新規陽性者のうち、ワクチンの効果が期待される2回接種後14日以降に発症した者は934名（0.8%）。
- ◆ 8月（8/1～8/29まで）に判明した新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に発症した者は854名（1.7%）。
年代別では、60代以上の新規陽性者の13.9%が2回接種後14日以降に発症。

判明月別新規陽性者におけるワクチン接種状況と割合

接種歴と接種後発症までの日数		3月	4月	5月	6月	7月	8月	総計
2回接種後14日以降に発症	人数	0	0	14	6	60	854	934
	%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.6%	1.7%	0.8%
接種なし・不明	人数	5,080	28,976	18,382	3,541	10,104	47,056	113,139
	%	100.0%	100.0%	99.2%	96.3%	94.0%	92.9%	96.2%
その他（1回接種済または2回接種後14日未満や発症日等不明）	人数	0	2	131	129	588	2,728	3,578
	%	0.0%	0.0%	0.7%	3.5%	5.5%	5.4%	3.0%
総計		5,080	28,978	18,527	3,676	10,752	50,638	117,651

年代別新規陽性者における2回接種後14日以降に発症した者の割合の推移



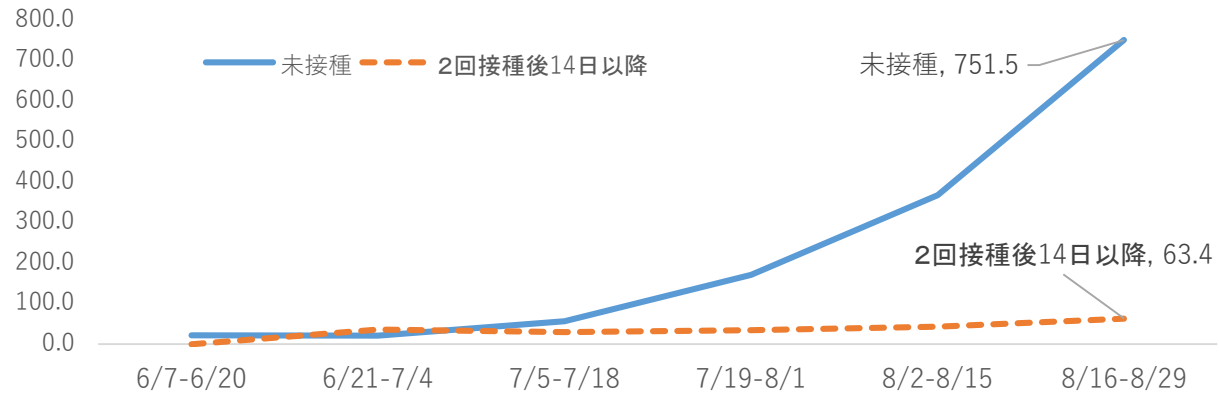
8月判明	新規陽性者数	2回接種後14日以降発症		接種なし・不明		その他	
		陽性者数	割合	陽性者数	割合	陽性者数	割合
20・30代	23,161	179	0.8%	22,099	95.4%	883	3.8%
40・50代	13,356	223	1.7%	11,919	89.2%	1,214	9.1%
60代以上	3,190	442	13.9%	2,222	69.7%	526	16.5%
総計	50,638	854	1.7%	47,056	92.9%	2,728	5.4%

※ワクチン接種状況及び発症日は保健所による聞き取りやHER-SYSデータに基づく（8月29日判明時点）
※無症状病原体保有者は報道提供日－1日を発症日とした。

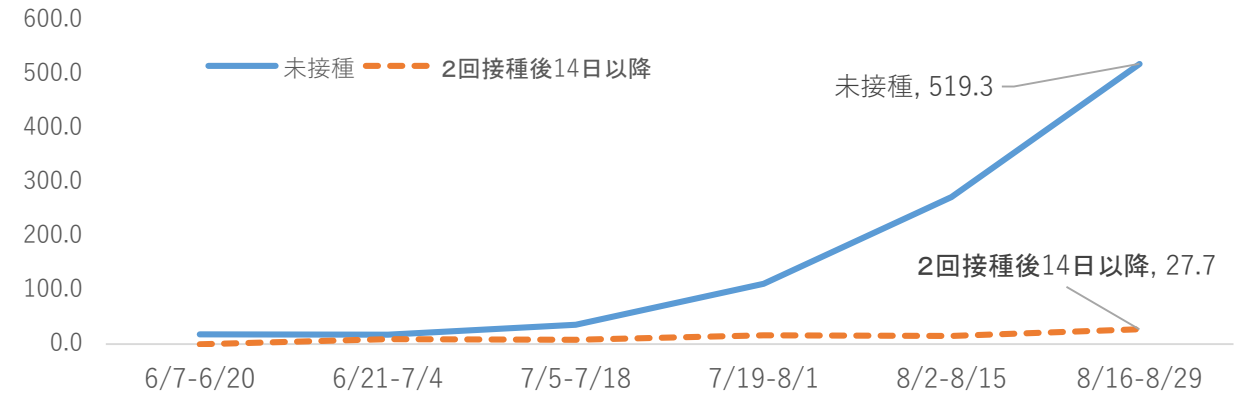
ワクチン接種歴別のワクチン接種人口当たりの新規陽性者数（10万人対）

◆ 各年代ともに、ワクチン未接種者における新規陽性者数と比べ、ワクチン接種者における新規陽性者数は少ない。
ただし、2回接種後14日以降に発症した者（無症状病原体保有者を含む）が確認されていることから、ワクチン接種後も感染予防対策の徹底が必要。

39歳以下（年齢不明含む）



40～64歳



65歳以上



【算出方法】

未接種：（各期間の新規陽性者数（ワクチン未接種）÷当該期間最終日の累計ワクチン未接種者数） × 10万

2回接種後14日以降：（各期間の新規陽性者数（ワクチン2回接種後14日以降）÷当該期間最終日の累計ワクチン2回接種後14日以降の人数） × 10万

新規陽性者と重症・死亡例のワクチン接種歴（令和3年8月29日判明時点）

- ◆ 6月以降の新規陽性者のうち、2回接種後14日以降に発症したものは920名であった。920名のうち、重症化した者は3名、死亡に至った者は2名（重症例3名のうち、1名は死亡のため重複）。
- ◆ ワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、2回接種後14日以降に発症した者の方が低かった。

年代別新規陽性者と重症・死亡例のワクチン接種歴（6/1から8/29判明分）

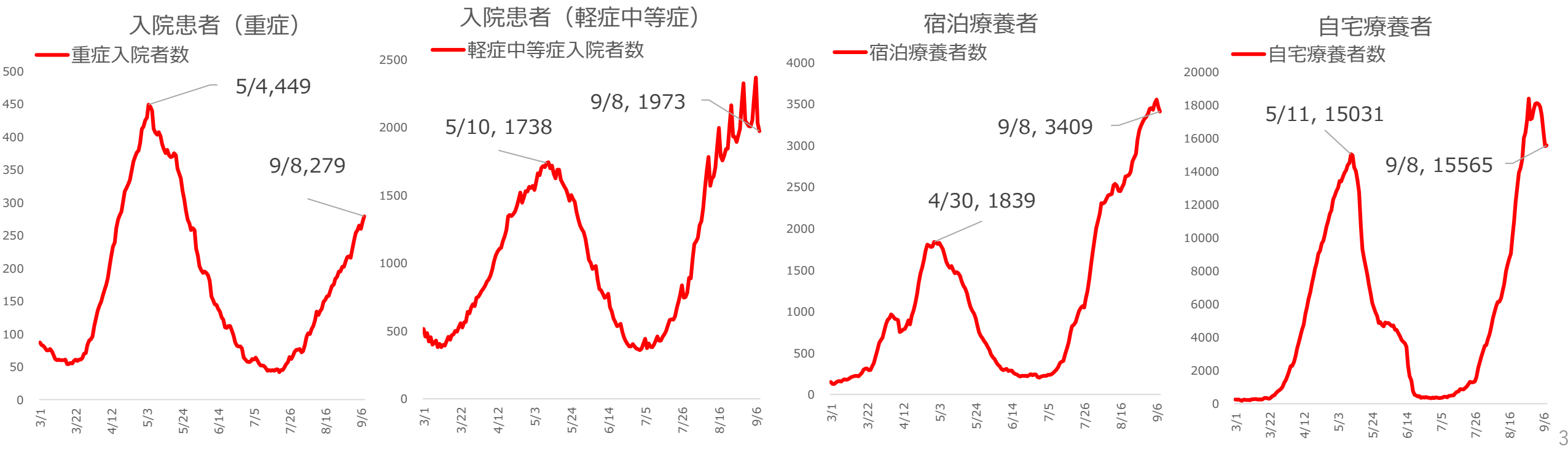
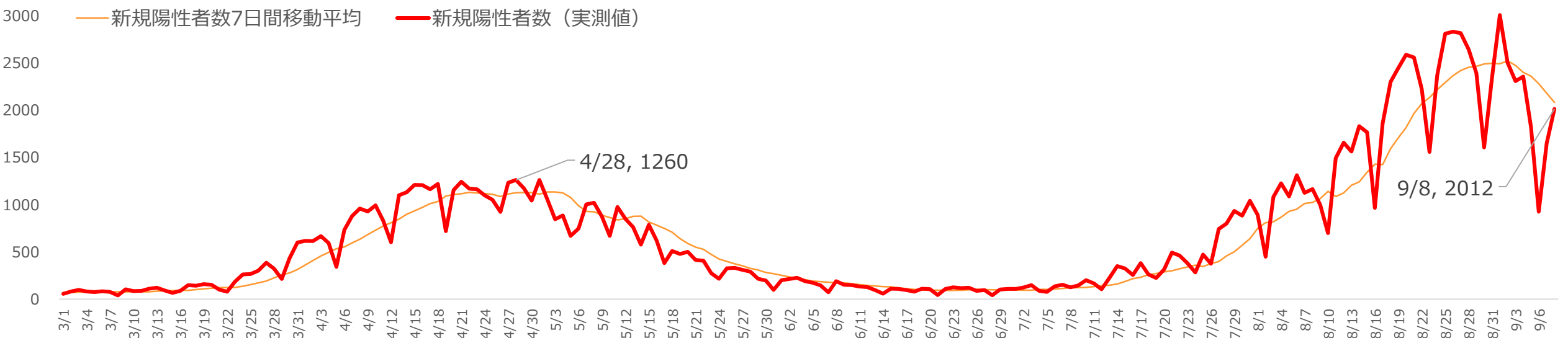
	新規陽性者数 【A】	2回接種後14日以降に発症						接種なし・不明						その他 （1回接種済または2回接種後14日未満や発症日等不明）					
		陽性者数 【B】	割合 【B/A】	重症 【C】	重症者の割合 【C/B】	死亡 【D】	死亡者の割合 【D/B】	陽性者数 【E】	割合 【E/A】	重症 【F】	重症者の割合 【F/E】	死亡 【G】	死亡者の割合 【G/E】	陽性者数 【H】	割合 【H/A】	重症 【I】	重症者の割合 【I/H】	死亡 【J】	死亡者の割合 【J/H】
20・30代	29,867	198	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	28,591	95.7%	54	0.2%	4	0.0%	1,078	3.6%	4	0.4%	0	0.0%
40・50代	17,389	237	1.4%	1	0.4%	0	0.0%	15,726	90.4%	277	1.8%	28	0.2%	1,426	8.2%	18	1.3%	0	0.0%
60代以上	4,759	474	10.0%	2	0.4%	2	0.4%	3,466	72.8%	184	5.3%	89	2.6%	819	17.2%	25	3.1%	19	2.3%
総計	65,066	920	1.4%	3	0.3%	2	0.2%	60,701	93.3%	518	0.9%	121	0.2%	3,445	5.3%	47	1.4%	19	0.6%

※無症状病原体保有者は報道提供日-1日を発症日とした。
 ※ワクチン接種状況及び発症日は保健所による聞き取りやHER-SYSデータに基づく（8月29日判明時点）
 ※重症率及び死亡率は陽性者数に占める重症者・死亡者の割合。割合は8月29日時点までの重症及び死亡者数に基づく。今後、重症及び死亡者数・新規陽性者数の推移により変動。

- | | | |
|---|------------|--------|
| 1 | 入院・療養状況 | P2～5 |
| 2 | 入院者数の推移 | P6～11 |
| 3 | 重症・死亡例のまとめ | P12～22 |

1 入院・療養状況

新規陽性者数と入院・療養者数(9月8日時点)



入院・療養状況（9月8日時点）

		重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設
確保計画	フェーズ1	1 5 0 床	1, 1 0 0 床	8 0 0 室
	フェーズ2	2 3 0 床	1, 7 0 0 床	1, 6 0 0 室
	フェーズ3	3 2 0 床	2, 0 0 0 床	2, 4 0 0 室
	フェーズ4（非常事態）	4 2 0 床	2, 3 5 0 床	4, 0 0 0 室
	フェーズ5（※災害級非常事態）	5 8 0 床（※）	2, 5 0 0 床（※）	6, 0 0 0 室
確保数等 重症病床：フェーズ4 軽中病床：フェーズ5 宿泊施設：フェーズ6		確保数 5 8 9 床	確保数 2, 6 9 7 床	6, 5 6 6 室
入院・療養者数 （別途、自宅療養 1 5, 5 6 5 人）		2 7 9 人	1, 9 7 3 人	3, 4 0 9 人
使用率		4 7. 4 % （入院者数 2 7 9 / 確保数等 5 8 9） 大阪モデルに基づく使用率は、8 7. 2 % （入院者数 2 7 9 / 確保病床数 3 2 0）	7 3. 2 % （1, 9 7 3 / 2, 6 9 7 ※）	5 1. 9 % （3, 4 0 9 / 6, 5 6 6）
運用率		6 7. 7 % （入院者数 2 7 9 / 運用数 4 1 2）	7 3. 2 % （1, 9 7 3 / 2, 6 9 7）	5 1. 9 % （3, 4 0 9 / 6, 5 6 6）

※運用病床数が病床確保計画の確保病床数を上回った場合、確保病床数を運用病床数と読み替える。

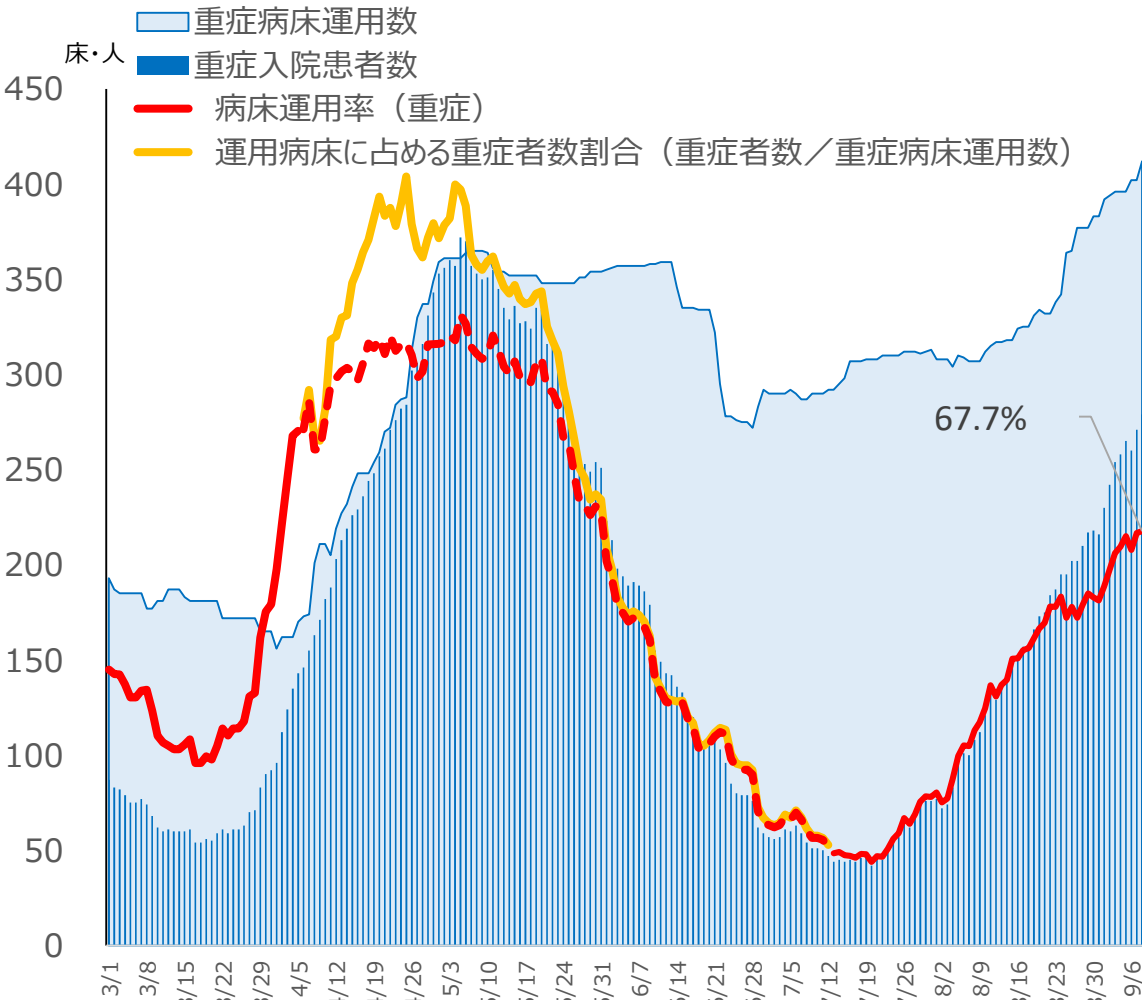
新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況

重症病床運用状況

9月8日現在 **病床運用率67.7%**

運用病床数 412床 入院患者数 279人

重症病床（運用数・運用率）・重症入院者数

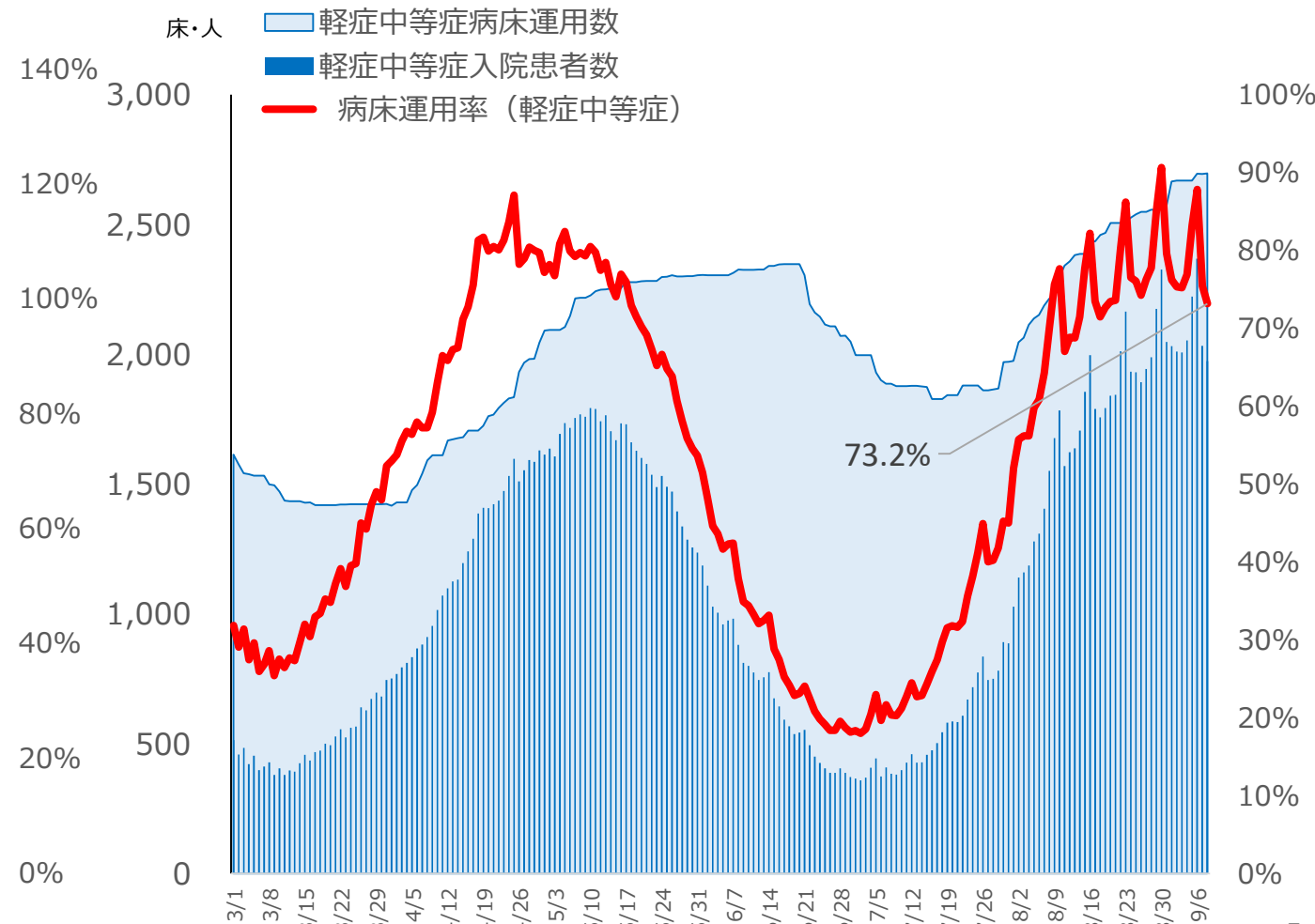


軽症中等症病床運用状況

9月8日現在 **病床運用率73.2%**

運用病床数 2,697床 入院患者数 1,973人

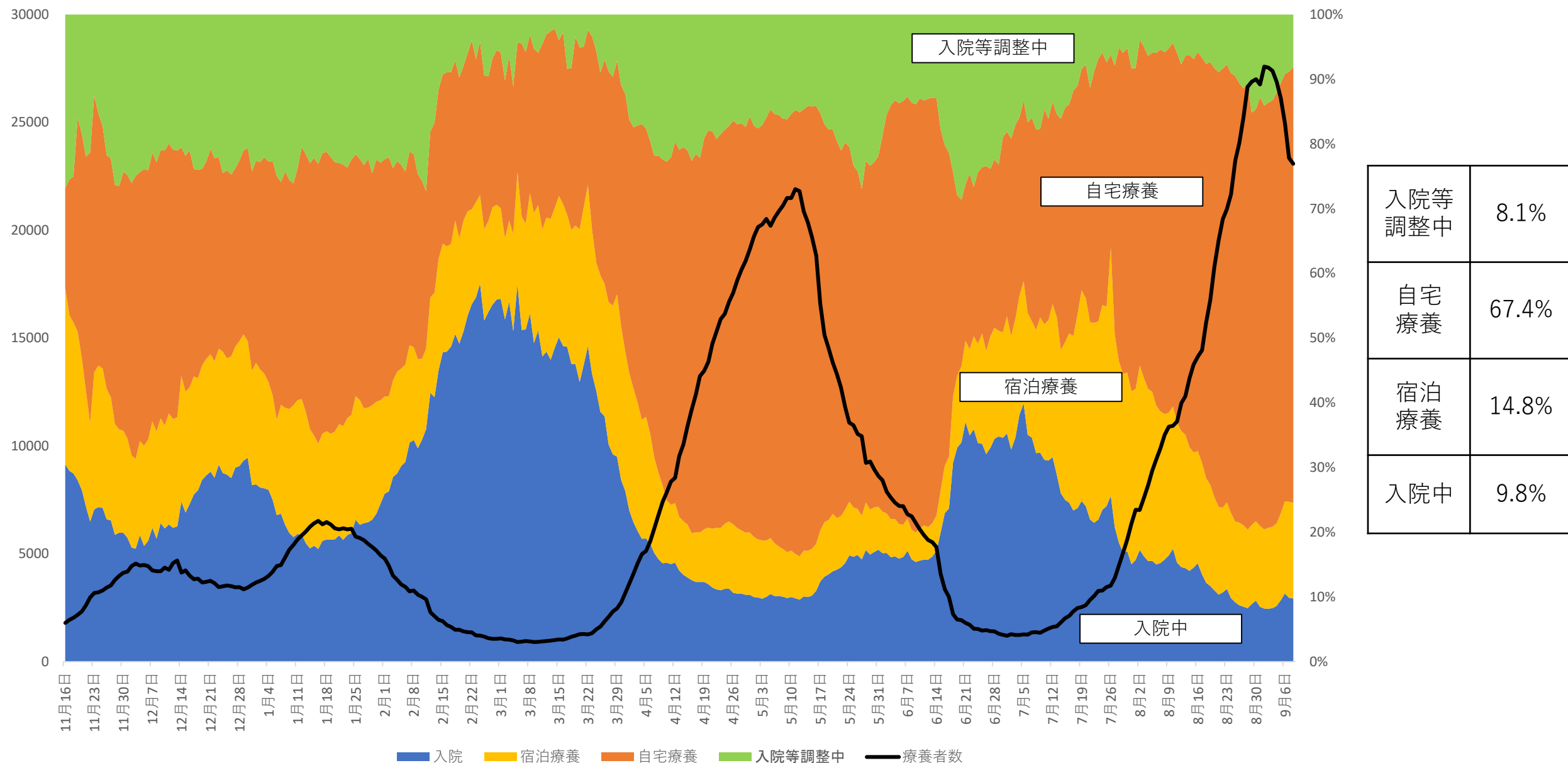
軽症中等症病床（運用数・運用率）・軽症中等症入院者数



2 入院者数の推移

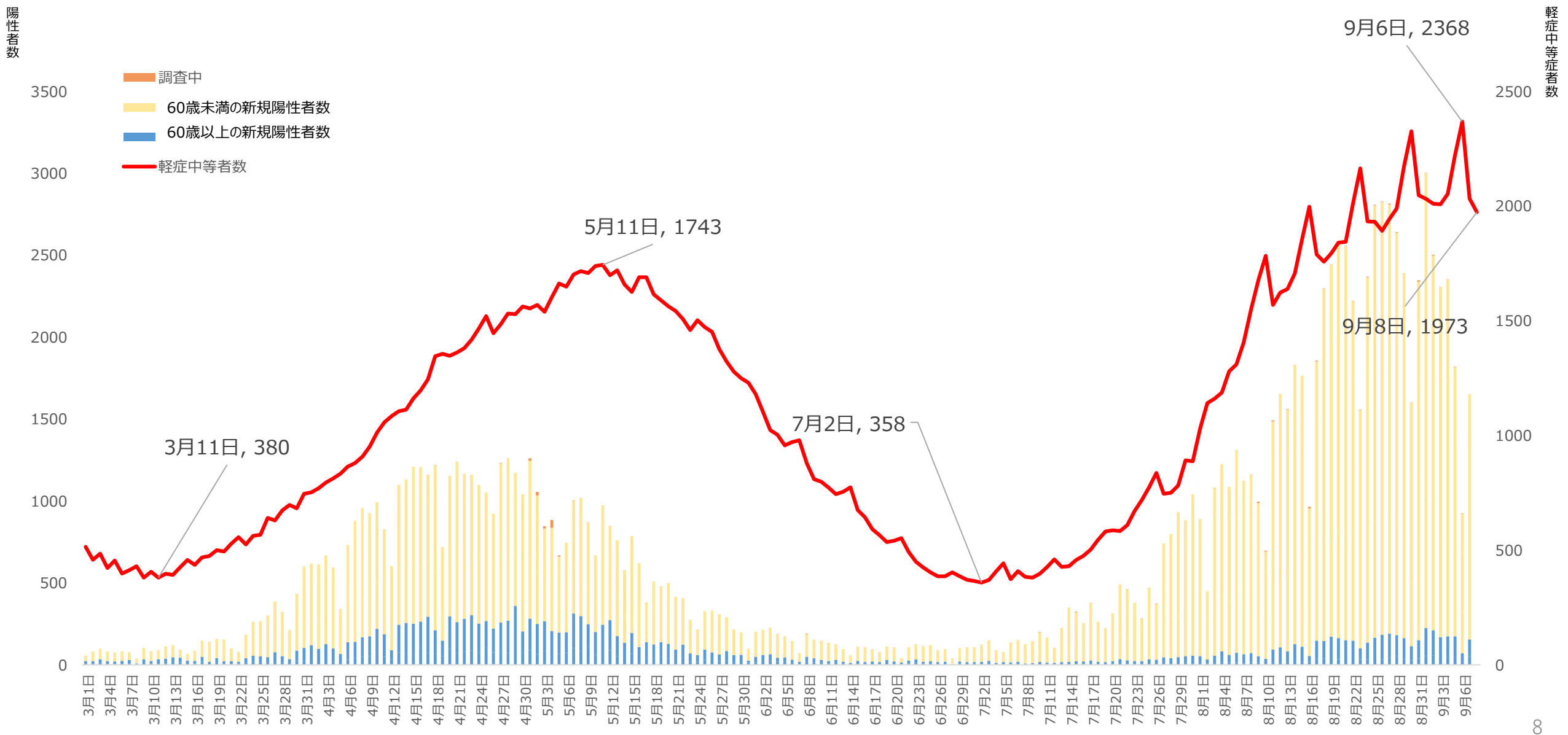
入院・療養状況（9月8日時点）

◆ 入院率は、8月24日以降、10%を下回り、9月8日時点で9.8%。



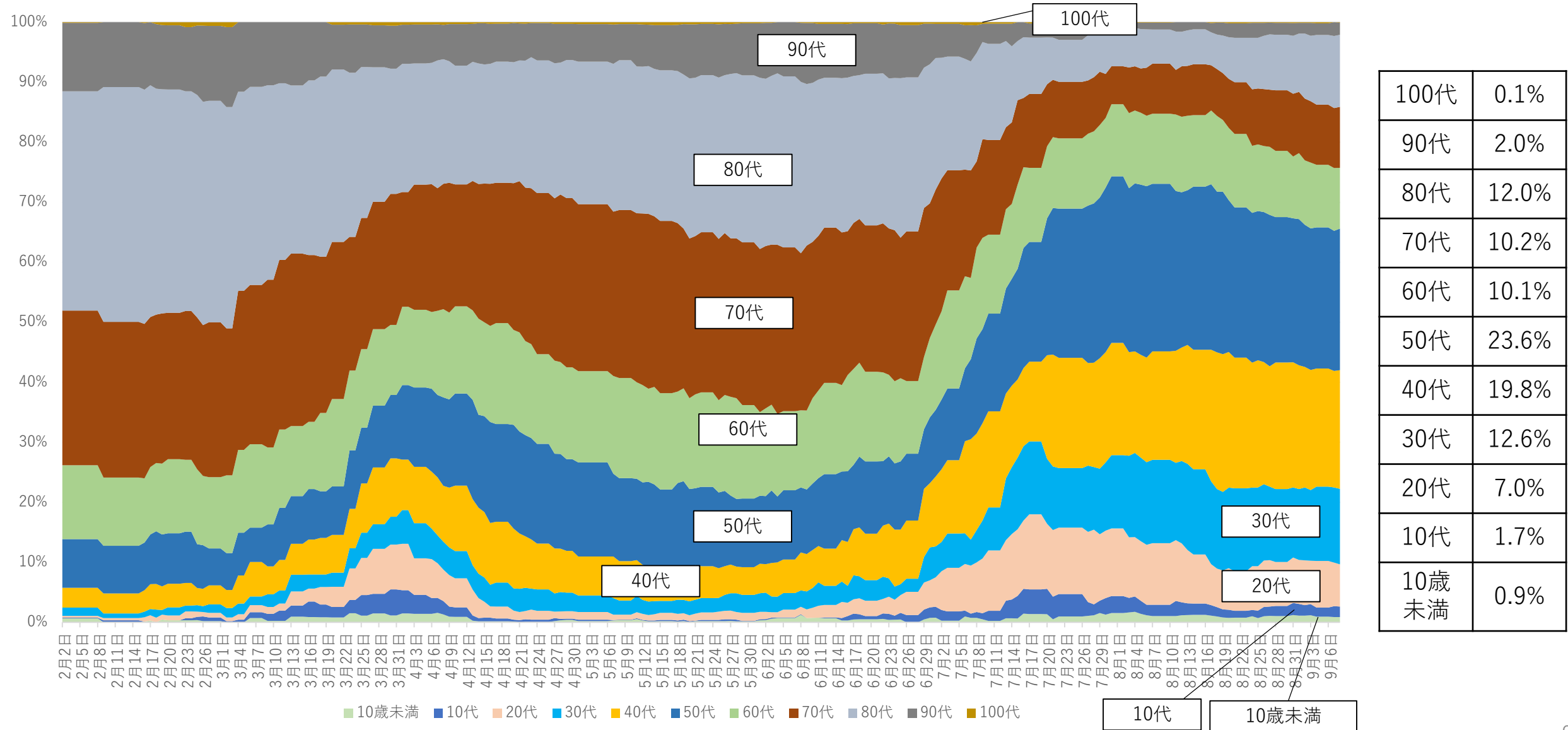
軽症中等症入院者数と新規陽性者数の推移（9月8日時点）

◆ 軽症中等症の入院者数は、第四波に比べ、短期間で急増。

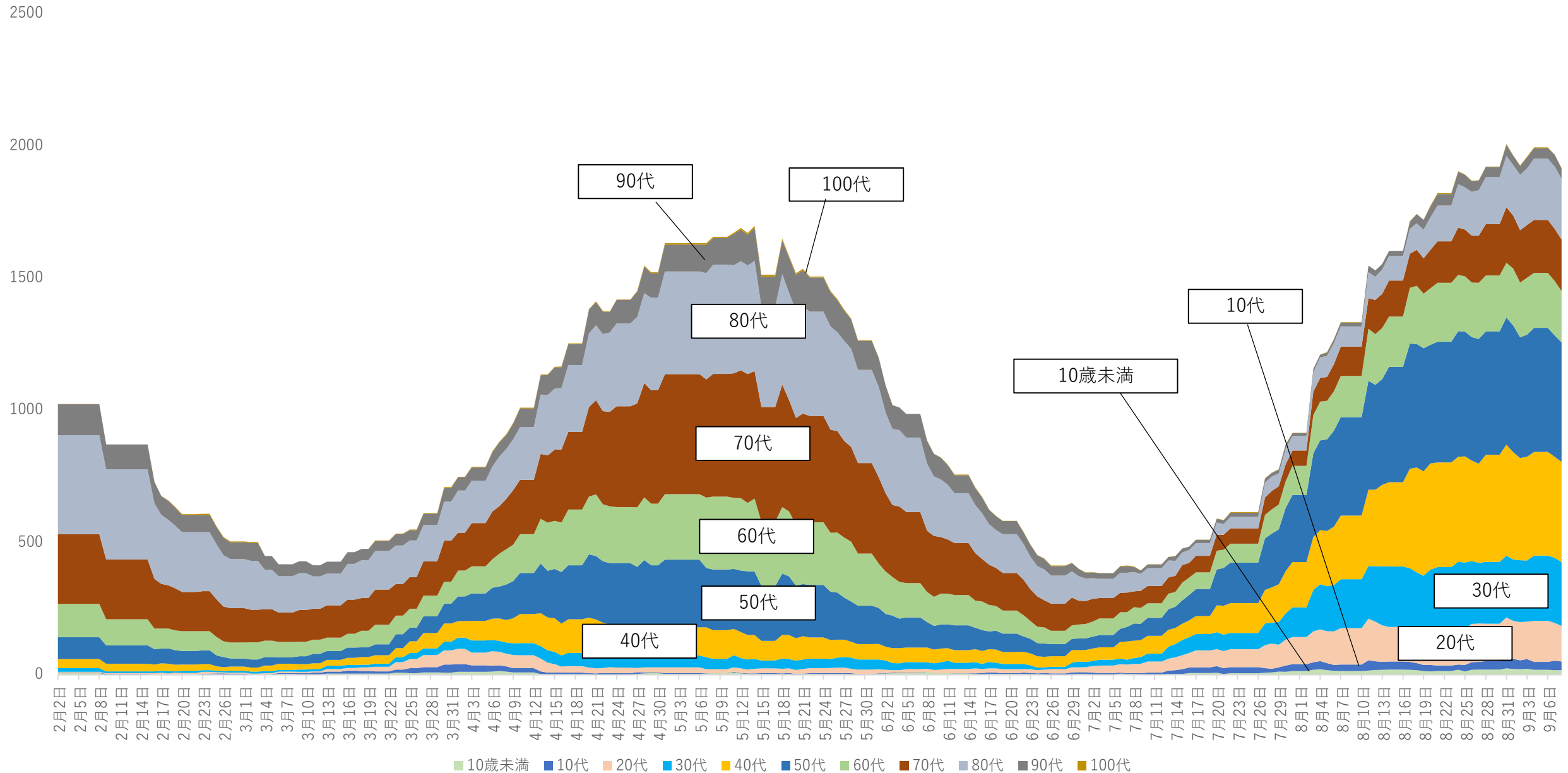


軽症中等症受入医療機関における入院患者数の年代別割合（9月8日時点）

◆ 第三波、第四波と比べ、第五波は60代以上の入院患者数の割合が減少し、50代以下の入院患者数の割合が増加。



軽症中等症受入医療機関における年代別の入院患者数（9月8日時点）

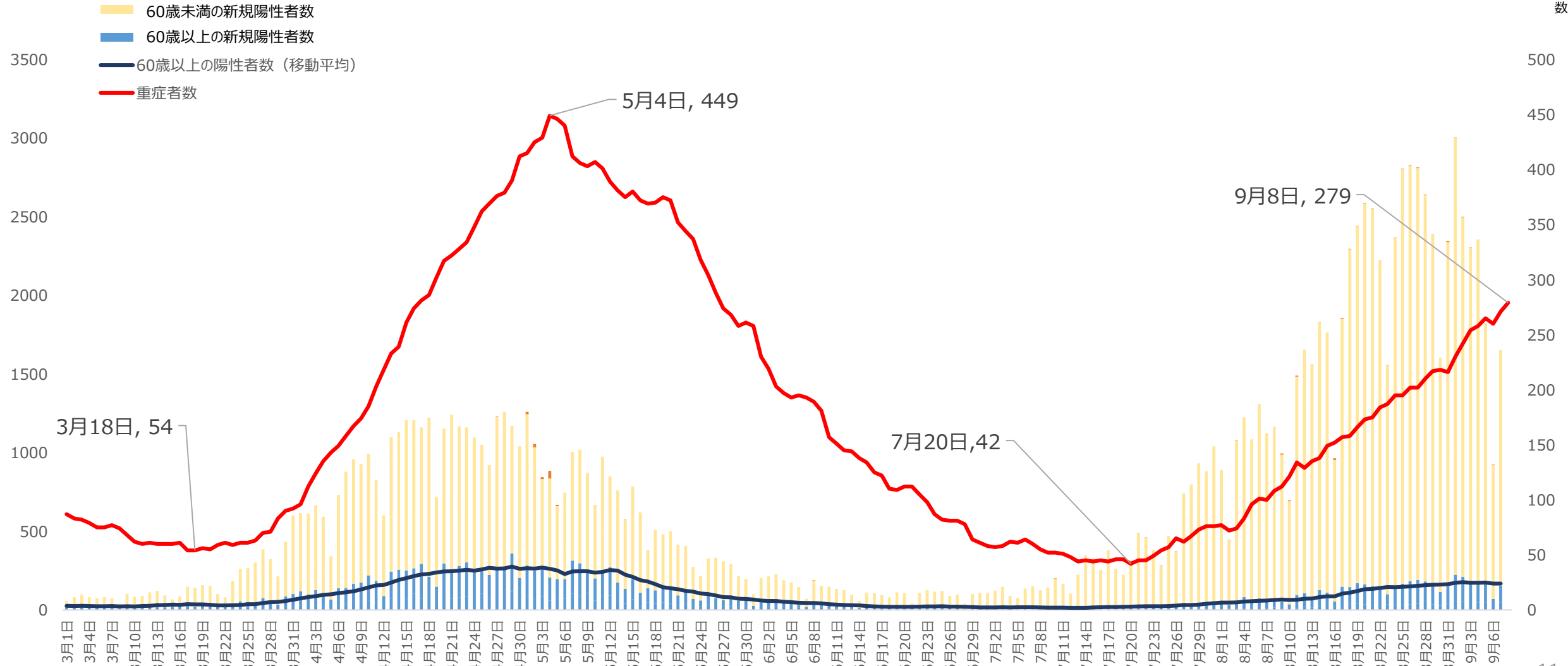


重症者数と新規陽性者数の推移（9月8日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

◆ 第五波は60代以上の新規陽性者数が第四波に比べ少ないことから、第四波に比べると重症者数の増加速度はやや緩やかではあるが、連日、増加。

陽性者数

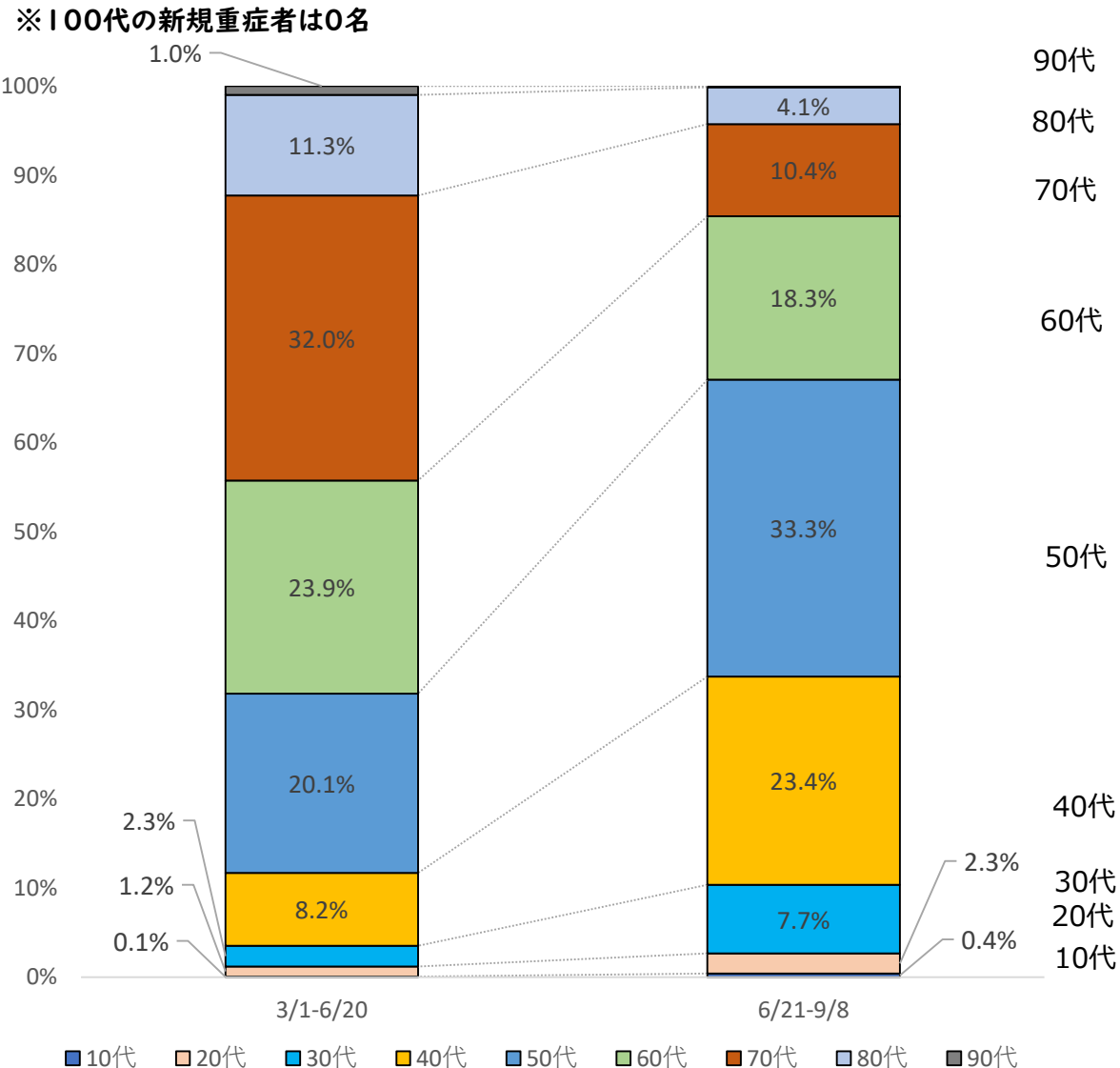


3 重症・死亡例のまとめ

年代別新規重症者の内訳（公表日別）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

◆ 第五波（現時点約2か月半）では、30代以下の重症者数が第四波（約3か月半）を超過。
40・50代も第四波と同水準まで増加。

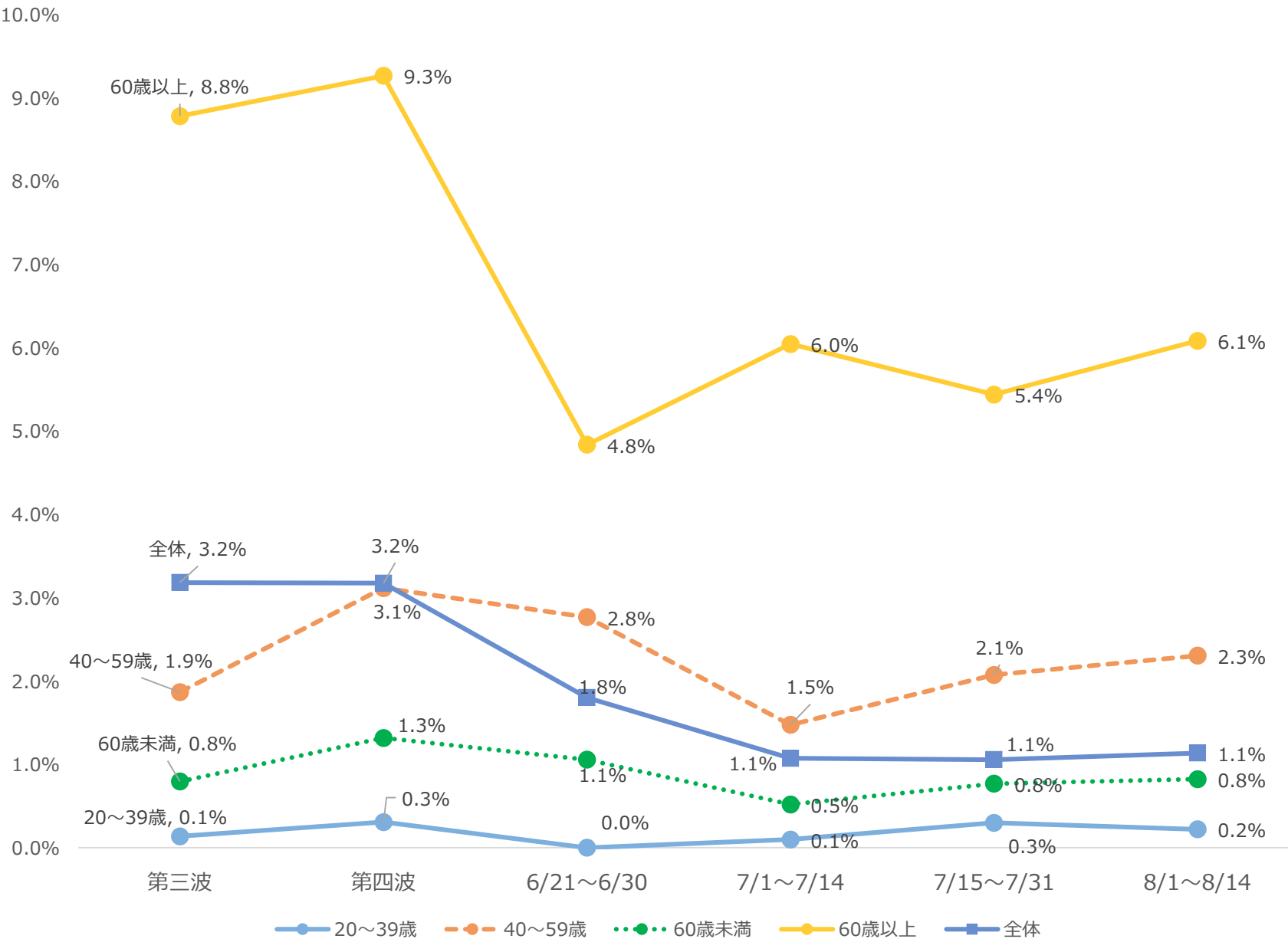


	第四波（3/1～6/20）	第五波（6/21～9/8）
新規重症者数	1,735人	753人
30代以下	61人 (3.5%)	78人 (10.4%)
40・50代の割合	491人 (28.3%)	427人 (56.7%)
60代以上の割合	1,183人 (68.2%)	248人 (32.9%)

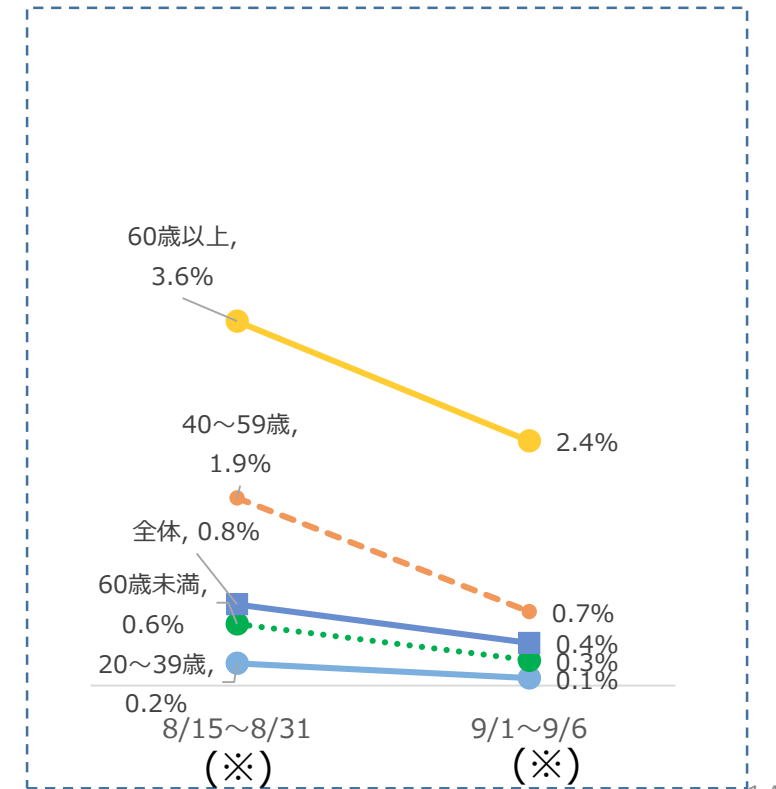
※第五波の各年代の割合は、9月8日時点までの新規重症者数に基づく。
今後、新規重症者の推移により変動。

年代別重症率の推移（令和3年9月6日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。



※陽性判明から重症化まで
約 1 週間程度要することから、
今後、重症者数が増加する期間

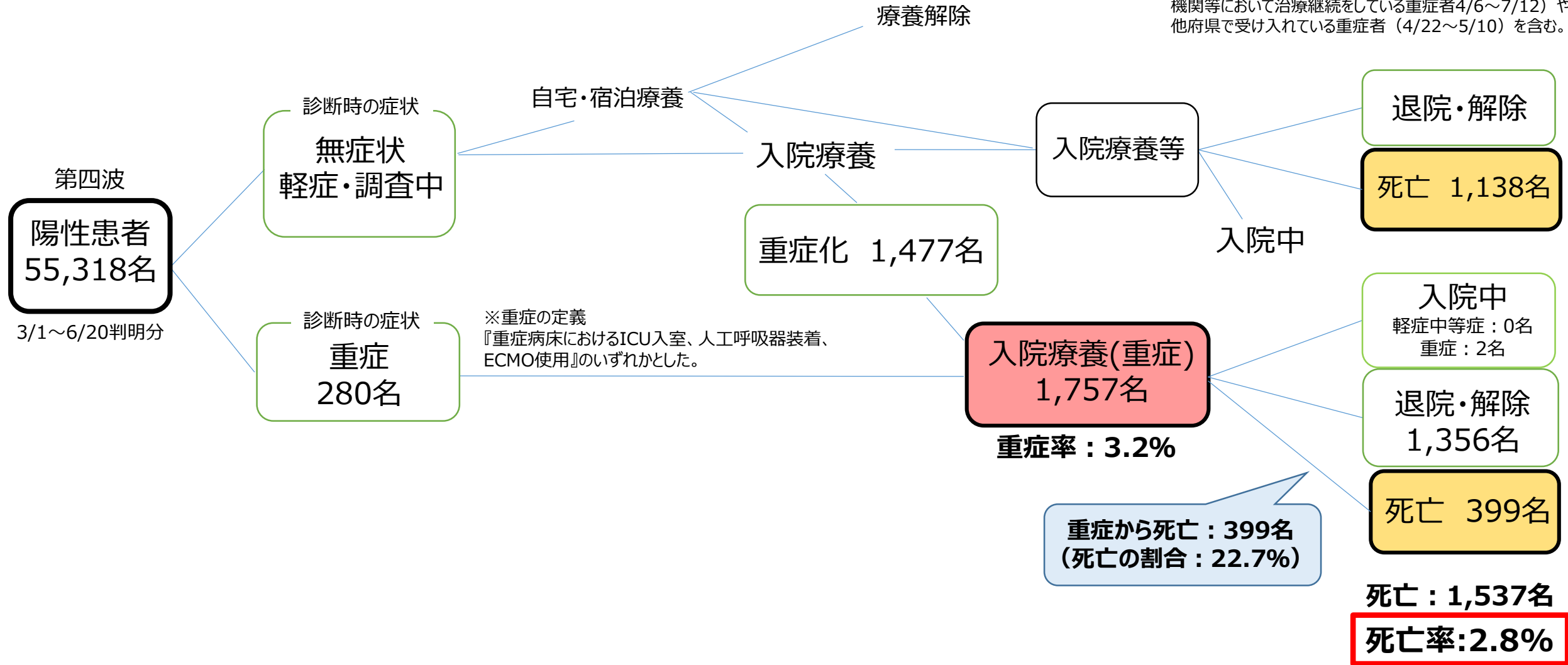


【第四波】重症及び死亡事例のまとめ（令和3年9月6日時点）

重症及び死亡例の経過

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

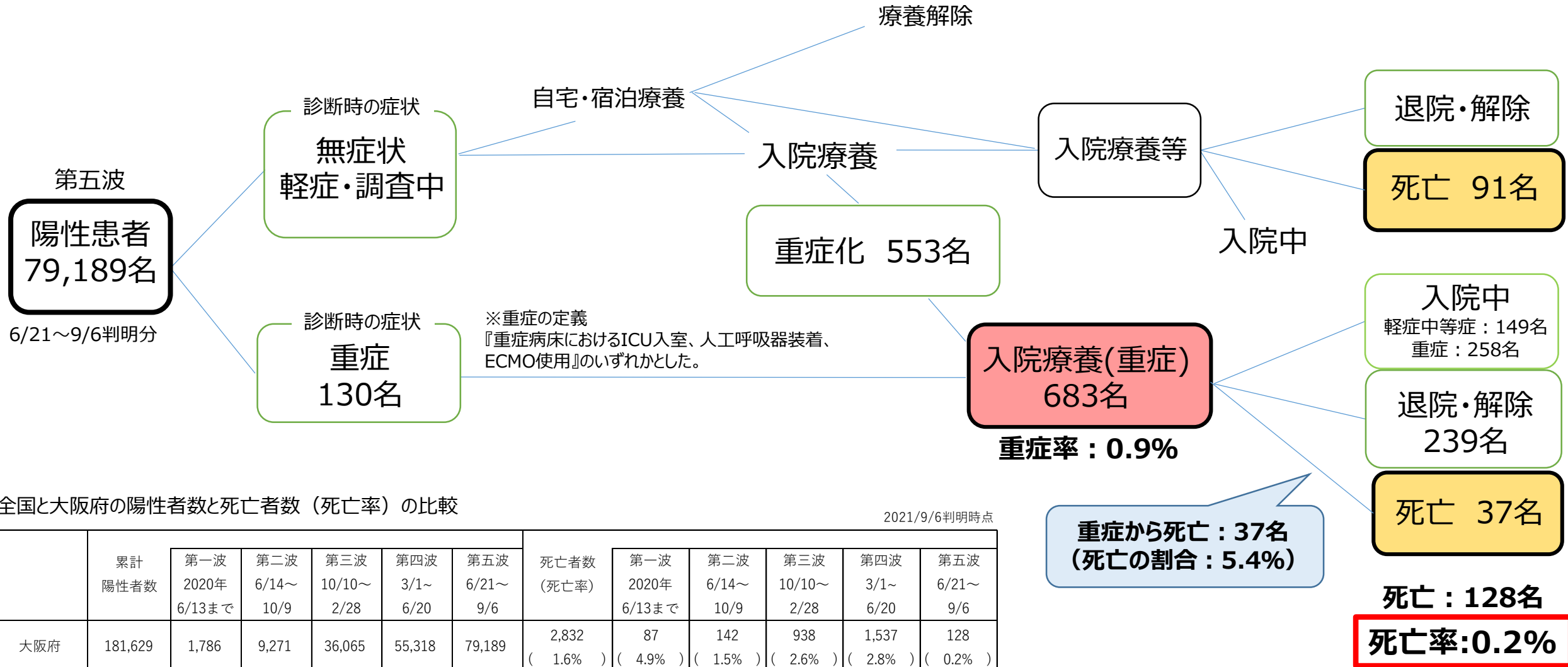


※死亡率は9月6日判明時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数の推移により変動

【第五波】重症及び死亡事例のまとめ（令和3年9月6日時点）

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

重症及び死亡例の経過



全国と大阪府の陽性者数と死亡者数（死亡率）の比較

2021/9/6判明時点

	累計 陽性者数	第一波 2020年 6/13まで	第二波 6/14~ 10/9	第三波 10/10~ 2/28	第四波 3/1~ 6/20	第五波 6/21~ 9/6	死亡者数 (死亡率)	第一波 2020年 6/13まで	第二波 6/14~ 10/9	第三波 10/10~ 2/28	第四波 3/1~ 6/20	第五波 6/21~ 9/6
大阪府	181,629	1,786	9,271	36,065	55,318	79,189	2,832 (1.6%)	87 (4.9%)	142 (1.5%)	938 (2.6%)	1,537 (2.8%)	128 (0.2%)
全国	1,567,416	17,179	70,012	343,342	350,398	786,485	16,347 (1.0%)	925 (5.4%)	698 (1.0%)	6,262 (1.8%)	6,510 (1.9%)	1,952 (0.2%)

※チャーター機帰国者、クルーズ船乗客、空港検疫は含まれていない

※全国は厚生労働省公表資料（9/6の国内の発生状況）より集計。

※重症率及び死亡率は9月6日判明時点までの重症及び死亡者数に基
づく。今後、重症及び死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

重症者のまとめ（令和3年9月6日時点）

※第四波の重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（4/6～7/12）や他府県で受け入れている重症者（4/22～5/10）を含む。

第五波の重症者の年代は、60代以上が大きく減少したことから、40・50代が全体の約半数を占め、30代以下の年代で約11%を占めており、若年から壮年期の割合が増加。

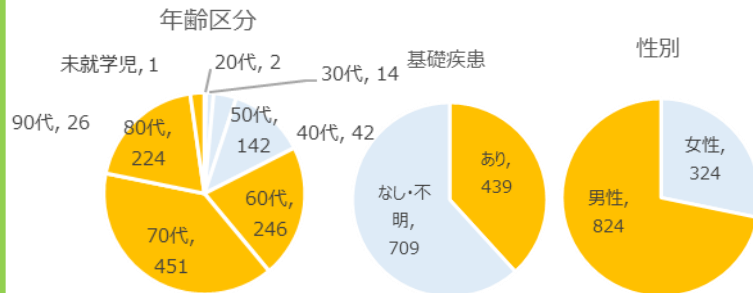
第三波（10/10～2/28）

新規陽性者数	36,065
(再掲)40代以上(割合)	20,628(57.2%)
(再掲)60代以上(割合)	10,783(29.9%)
重症者数（※）	1,148
死亡	233
転退院・解除	915
帰入院中（軽症）	0
入院中（重症）	0

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が4例あり

■重症者の割合

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.5% (1,131/20,628)
 60代以上の陽性者に占める重症者の割合：8.8%(947/10,783)
 全陽性者数に占める重症者の割合：3.2%(1,148/36,065)



平均年齢：66.1歳、60代以上の割合：82.5%

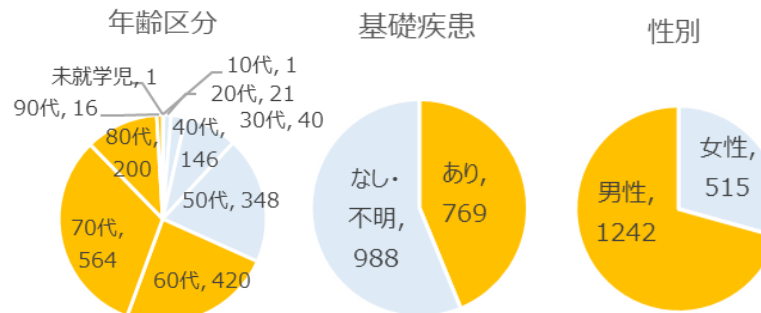
第四波（3/1～6/20）

新規陽性者数	55,318
(再掲)40代以上(割合)	28,795(52.1%)
(再掲)60代以上(割合)	12,950(23.4%)
重症者数（※）	1,757
死亡	399
転退院・解除	1,356
帰入院中（軽症）	0
入院中（重症）	2

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が23例あり

■重症者の割合

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.9%(1,694/28,795)
 60代以上の陽性者に占める重症者の割合：9.3%(1,200/12,950)
 全陽性者数に占める重症者の割合：3.2%(1,757/55,318)



平均年齢：60.9歳、60代以上の割合：68.3%

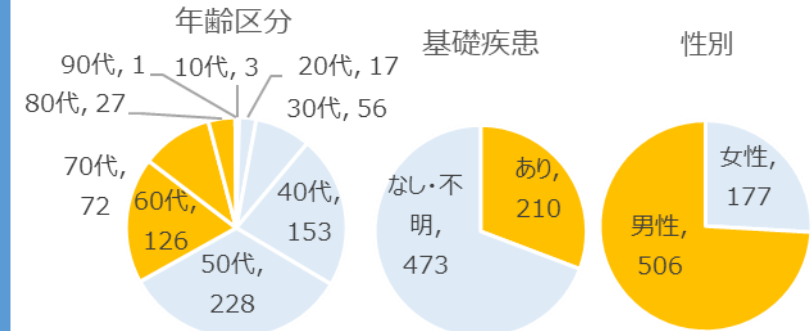
第五波（6/21以降）

新規陽性者数	79,189
(再掲)40代以上(割合)	26,419(33.4%)
(再掲)60代以上(割合)	5,409(6.8%)
重症者数	683
死亡	37
転退院・解除	239
帰入院中（軽症）	149
入院中（重症）	258

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が1例あり

■重症者の割合

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：2.3%(607/26,419)
 60代以上の陽性者に占める重症者の割合：4.2%(226/5,409)
 全陽性者数に占める重症者の割合：0.9%(683/79,189)



平均年齢：50.4歳、60代以上の割合：33.1%

※重症率は9月6日判明時点までの重症者数に基づく。今後、重症者数・新規陽性者数の推移により変動

基礎疾患：相談・受診の目安で示されている重症化リスクの高い患者（糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）、透析患者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている患者）

死亡例のまとめ（令和3年9月6日時点）

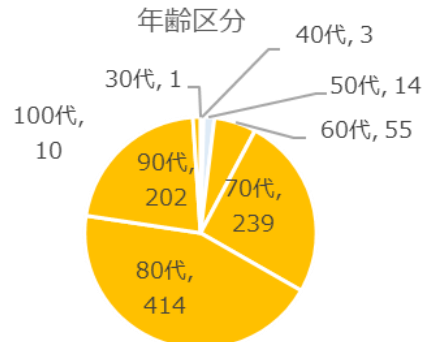
第五波でも、30代～50代の年代層で死亡に至る事例が複数確認。

第三波（10/10～2/28）

新規陽性者数	36,065
(再掲)40代以上(割合)	20,628(57.2%)
(再掲)60代以上(割合)	10,783(29.9%)
死亡者数	938

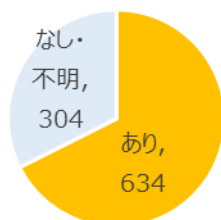
■死亡例の割合

40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：4.5% (937/20,628)
 60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：8.5% (920/10,783)
 全陽性者数に占める死亡例の割合：2.6% (938/36,065)



平均年齢：78.0歳、60代以上の割合：98.1%

基礎疾患

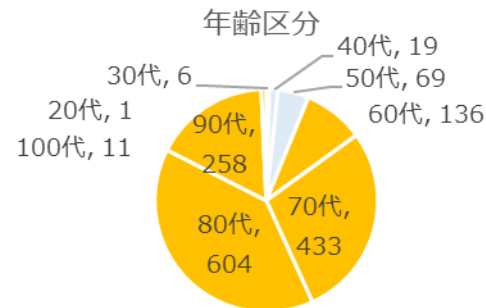


第四波（3/1～6/20）

新規陽性者数	55,318
(再掲)40代以上(割合)	28,795(52.1%)
(再掲)60代以上(割合)	12,950(23.4%)
死亡者数	1,537

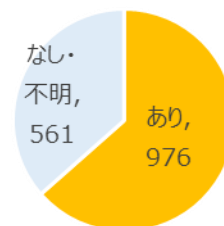
■死亡例の割合

40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：5.3% (1,530/28,795)
 60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：11.1% (1,442/12,950)
 全陽性者数に占める死亡例の割合：2.8% (1,537/55,318)



平均年齢：75.2歳、60代以上の割合：93.8%

基礎疾患



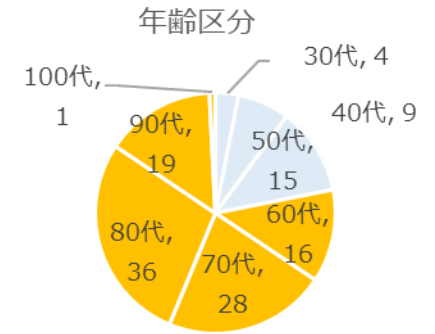
※死亡率は9月6日判明時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数の推移により変動

第五波（6/21以降）

新規陽性者数	79,189
(再掲)40代以上(割合)	26,419(33.4%)
(再掲)60代以上(割合)	5,409(6.8%)
死亡者数	128

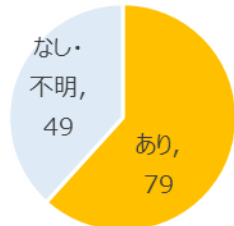
■死亡例の割合

40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：0.5% (124/26,419)
 60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：1.8% (100/5,409)
 全陽性者数に占める死亡例の割合：0.2% (128/79,189)



平均年齢：69.1歳、60代以上の割合：78.1%

基礎疾患



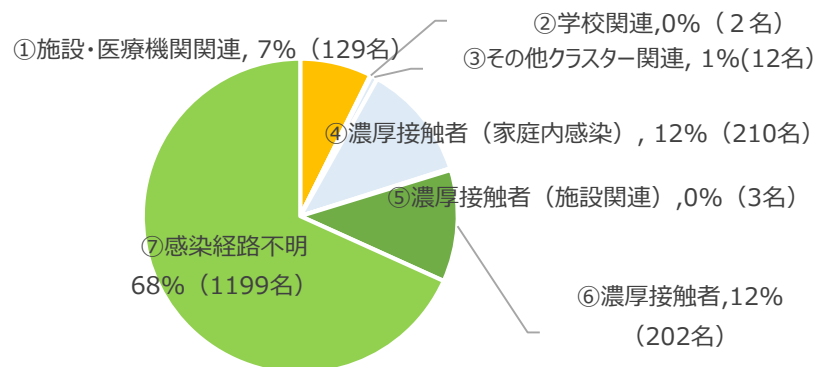
※死亡率は9月6日判明時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

【第四波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和3年9月6日時点）

死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

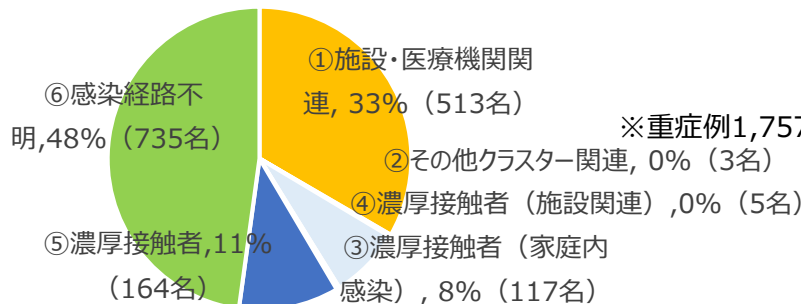
- ◆ 第四波の重症例1,757名について、推定される感染経路の約7割は感染経路不明者。
死亡例1,537名について、推定される感染経路の約3割が施設・医療機関関連。感染経路不明者は約5割。

重症例（N = 1,757）について推定される感染経路



施設・医療機関関連(129名)の内訳	
医療機関関連	83
高齢者施設関連	38
障がい者施設関連	5
児童施設関連	2
福祉施設関連	1

死亡例（N = 1,537）について推定される感染経路



※重症例1,757例のうち、399例は死亡のため重複あり

施設・医療機関関連（513名）の内訳	
医療機関関連	263
高齢者施設関連	243
障がい者施設関連	5
児童施設関連	2
福祉施設関連	2

年代	重症例 総数	感染経路内訳							陽性者 総数	重症化率
		施設・ 医療機関関連	学校関連	その他 クラスター関連	濃厚接触者 (家庭内感染)	濃厚接触者 (施設関連)	濃厚 接触者	感染 経路不明		
未就学児	1				1				1,255	0.08%
10代	1	1							4,631	0.02%
20代	21	1			2		3	15	12,138	0.17%
30代	40				5		5	30	7,641	0.52%
40代	146	1		4	6		14	121	8,223	1.78%
50代	348	13	1	4	38		39	253	7,622	4.57%
60代	420	25	1	2	51		52	289	4,582	9.17%
70代	564	45		2	81	1	66	369	4,377	12.89%
80代	200	38			25	2	21	114	3,022	6.62%
90代	16	5			1		2	8	923	1.73%
計	1,757	129	2	12	210	3	202	1,199	54,414	—

年代	死亡例 総数	感染経路内訳						陽性者 総数	死亡率
		施設・ 医療機関関連	その他 クラスター関連	濃厚接触者 (家庭内感染)	濃厚接触者 (施設関連)	濃厚 接触者	感染 経路不明		
20代	1						1	12,138	0.01%
30代	6			1		1	4	7,641	0.08%
40代	19	2		1		1	15	8,223	0.23%
50代	70	8		3		5	54	7,622	0.92%
60代	135	33		15		7	80	4,582	2.95%
70代	433	104	1	39	1	47	241	4,377	9.89%
80代	604	228	2	47	4	74	249	3,022	19.99%
90代	258	133		11		26	88	923	27.95%
100代	11	5				3	3	46	23.91%
計	1,537	513	3	117	5	164	735	48,574	－

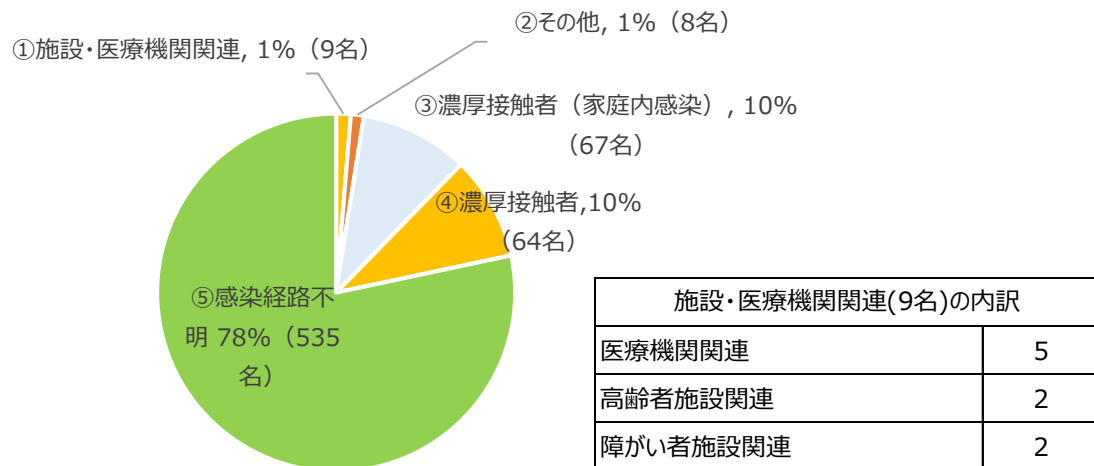
※死亡率は9月6日時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数の推移により変動

【第五波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和3年9月6日時点）

死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

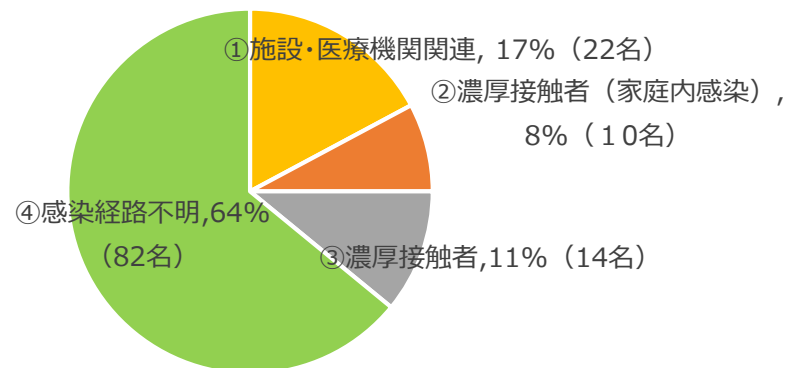
- ◆ 第五波の重症例683名について、推定される感染経路の約8割は感染経路不明者。
 死亡例128名について、推定される感染経路の約2割が施設・医療機関関連で、第四波（約3割）より減少。
 感染経路不明者は約6割と第四波（約5割）より増加。

重症例（N=683）について推定される感染経路



死亡例（N=128）について推定される感染経路

※重症例683例のうち、37例は死亡のため重複あり



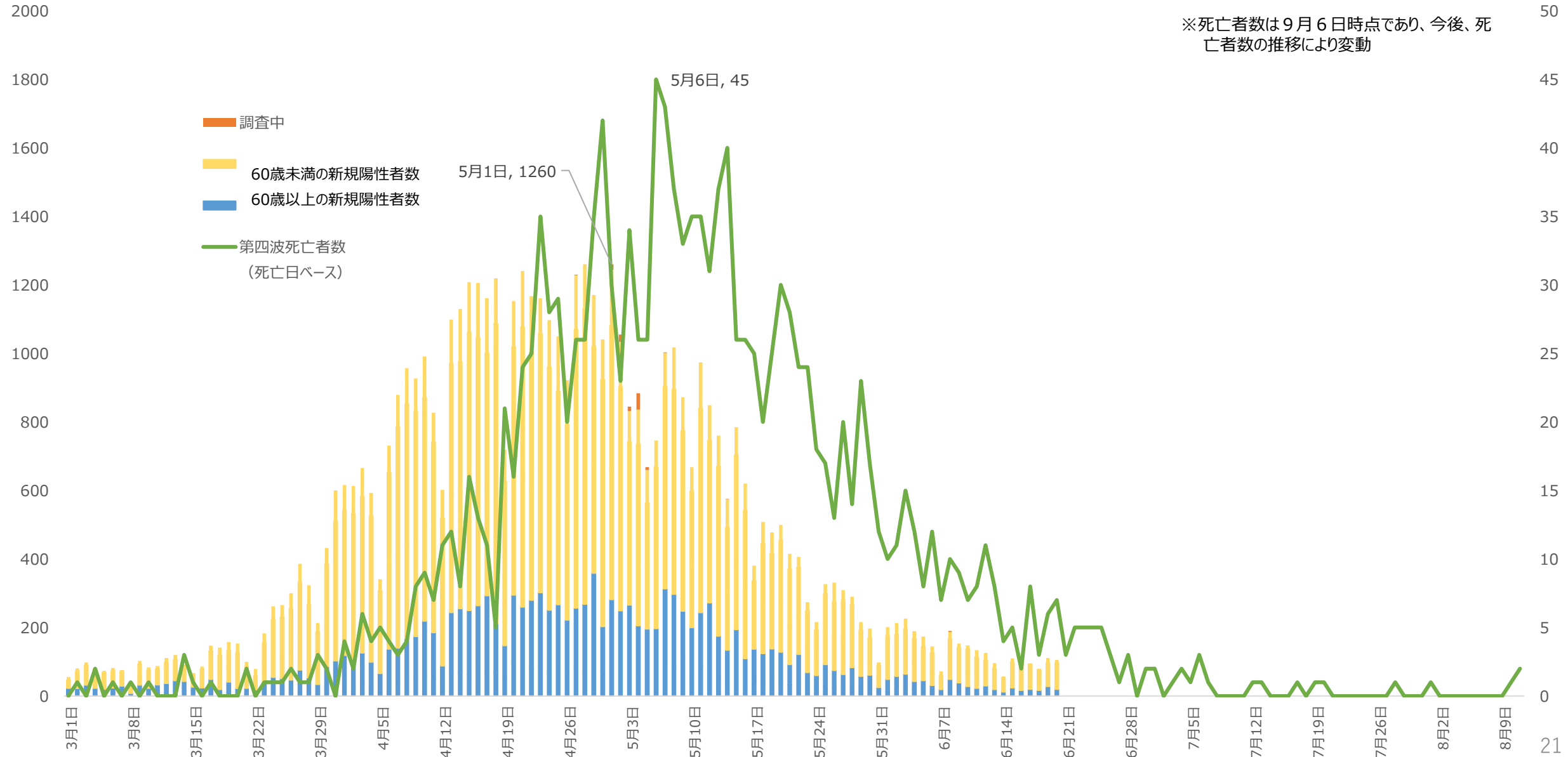
年代	重症例 総数	感染経路内訳					陽性者 総数	重症化率
		施設・ 医療機関関連	その他	濃厚接触者 (家庭内感染)	濃厚 接触者	感染 経路不明		
10代	3			1		2	11,289	0.03%
20代	17			2		15	22,330	0.08%
30代	56			1	5	50	13,468	0.42%
40代	153	2	1	17	16	117	12,280	1.25%
50代	228	3	7	27	29	162	8,730	2.61%
60代	126	1		9	8	108	2,758	4.57%
70代	72			8	3	61	1,480	4.86%
80代	27	2		2	3	20	930	2.90%
90代	1	1					226	0.44%
計	683	9	8	67	64	535	73,491	—

年代	死亡例 総数	感染経路内訳				陽性者 総数	死亡率
		施設・ 医療機関関連	濃厚接触者 (家庭内感染)	濃厚 接触者	感染 経路不明		
30代	4				4	13,468	0.03%
40代	9		1		8	12,280	0.07%
50代	15		1	3	11	8,730	0.17%
60代	16		2	1	13	2,758	0.58%
70代	28	3	4	1	20	1,480	1.89%
80代	36	13	2	4	17	930	3.87%
90代	19	5		5	9	226	8.41%
100代	1	1				15	6.67%
計	128	22	10	14	82	39,887	—

※重症率及び死亡率は9月6日時点までの重症及び死亡者数に基づく。今後、重症及び死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

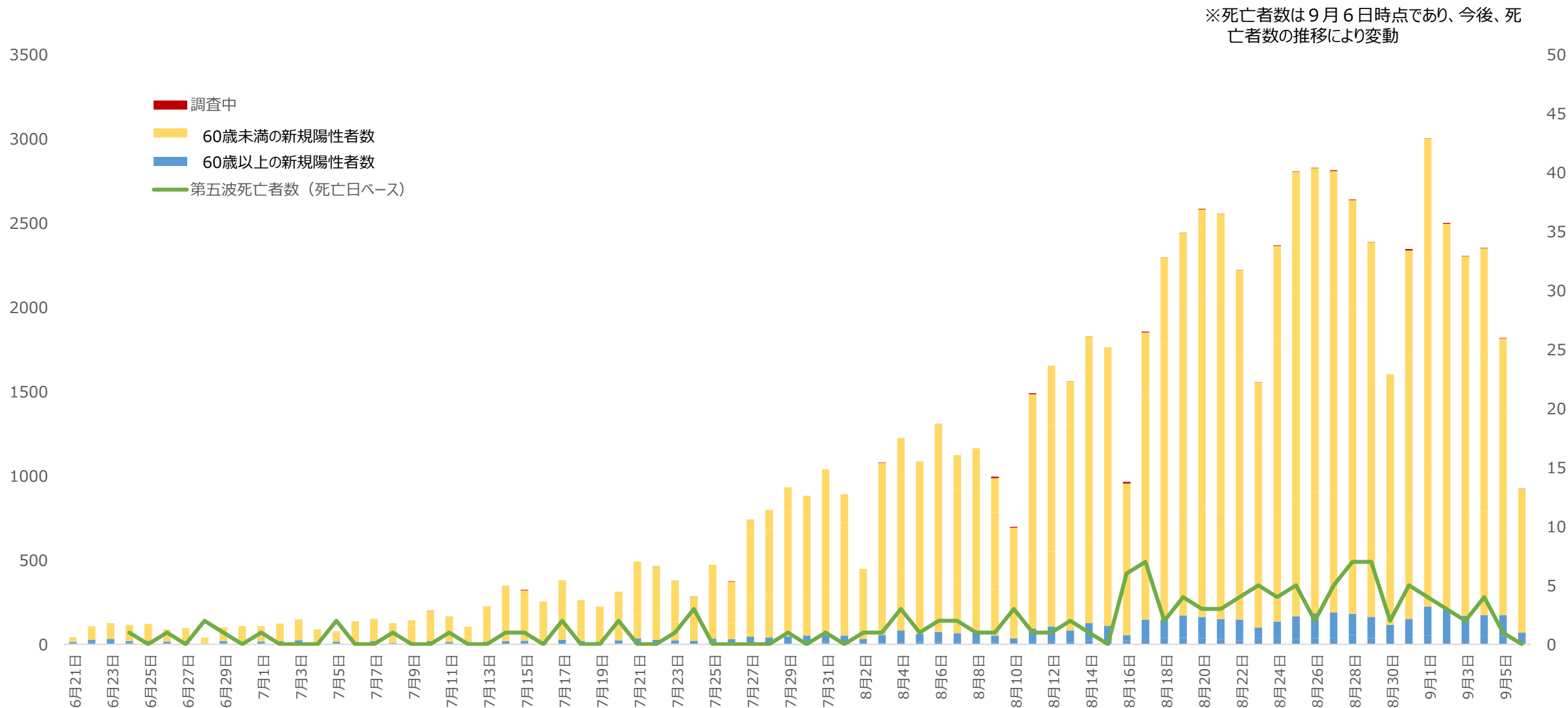
第四波 陽性者の推移と死亡者数（死亡日ベース）（令和3年9月6日時点）

◆ 新規陽性者数の増加の推移からやや遅れて死亡者数が増加。



第五波 陽性者の推移と死亡者数（死亡日ベース）（令和3年9月6日時点）

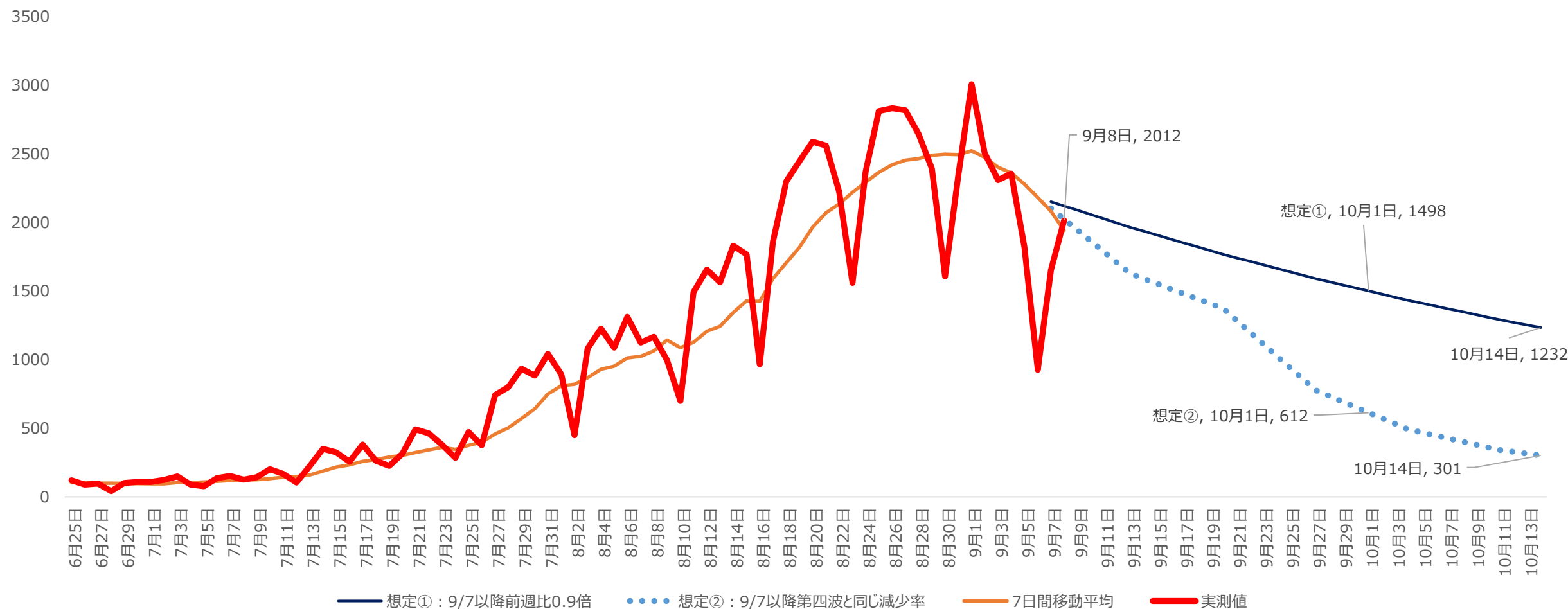
◆ 60代以上の新規陽性者数が第四波に比べて少ないことから、新規陽性者数増加に比して死亡者数は増加していない。



■ 前提条件

- ・9月6日（7日間移動平均の値が2,179）を起点として、9月7日以降、
想定①：前週比0.9倍で推移する。 想定②：第四波と同じ前週比で減少する（5月10日以降と同じ減少率）。
- ・新規陽性者における年齢構成は、9月6日時点の年代構成の割合（8月30日から9月6日までの7日間の割合：19歳以下 24.8%、20・30代 41.2%、40・50代 26.3%、60代以上 7.7%）で推移する。

新規陽性者数シミュレーション



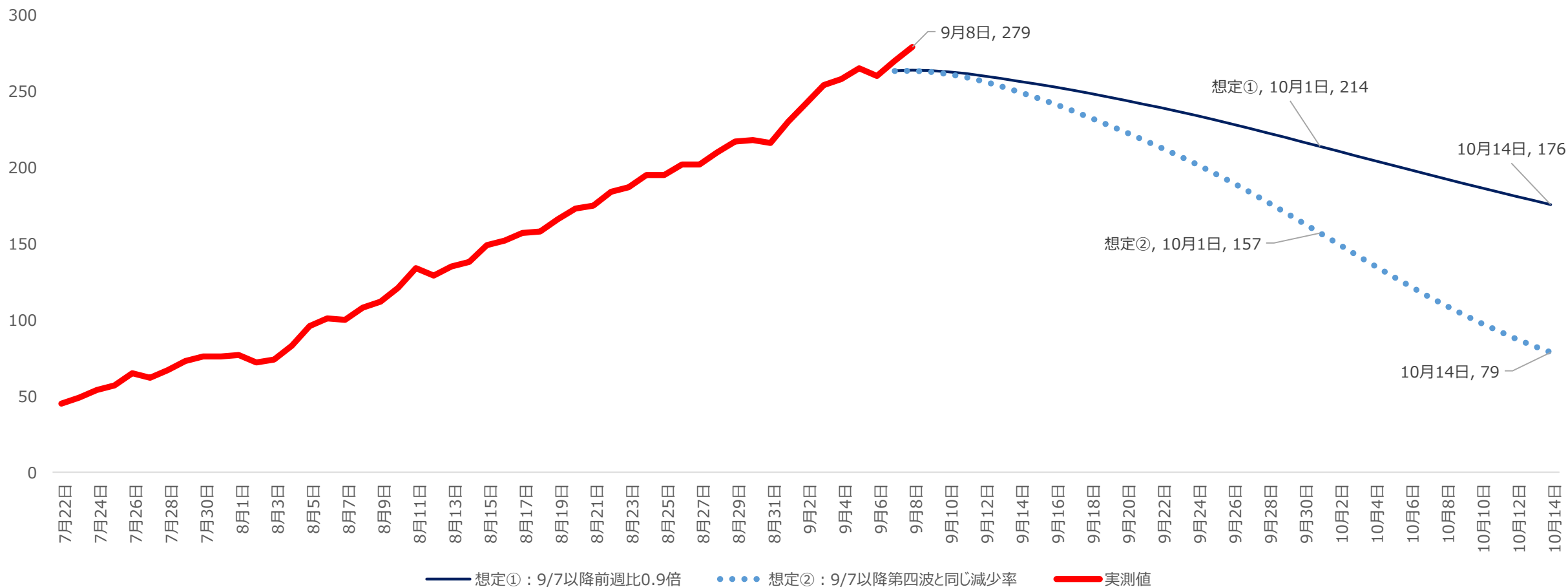
療養者数のシミュレーション

■前提条件：前ページの新規陽性者数で推移した場合の療養者数のシミュレーションを実施。

【重症率】 第五波における年代別の重症率を設定（6月21日から8月14日までの新規陽性者における重症者の割合（9月6日時点））

・60代以上の新規陽性者の重症率：5.8% ・40代・50代の新規陽性者の重症率：2.2% ・20代・30代の新規陽性者の重症率：0.2%

入院者数（重症）シミュレーション



療養者数のシミュレーション

【療養方法の考え方】重症患者以外の陽性者のうち、重症化リスク因子を有する者は軽症中等症病院への入院療養とする。

【入院する割合について】（9月6日時点の全療養者中の軽症中等症の入院者数から、各年代の入院率を算出）

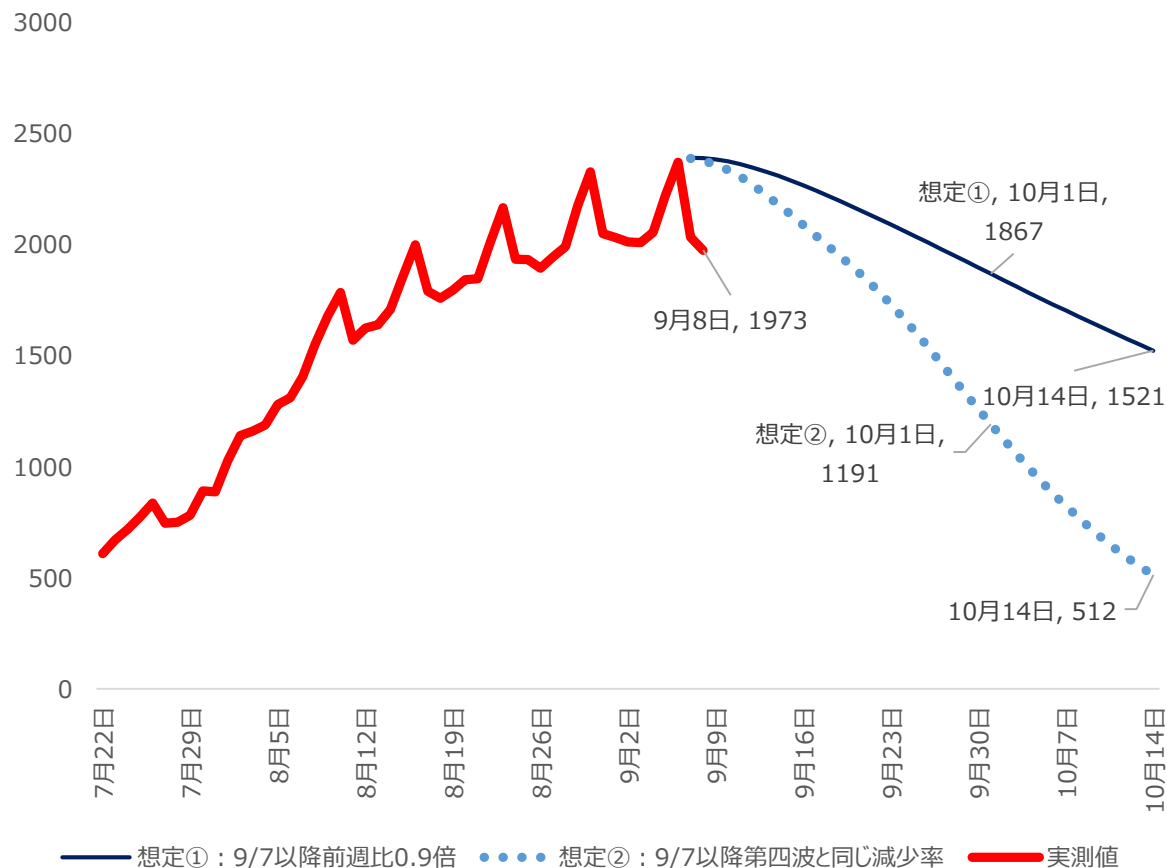
・60代以上：35.1%、40・50代：12.9%、20・30代：3.9%、19歳以下：0.8%と設定

【宿泊療養する割合について】

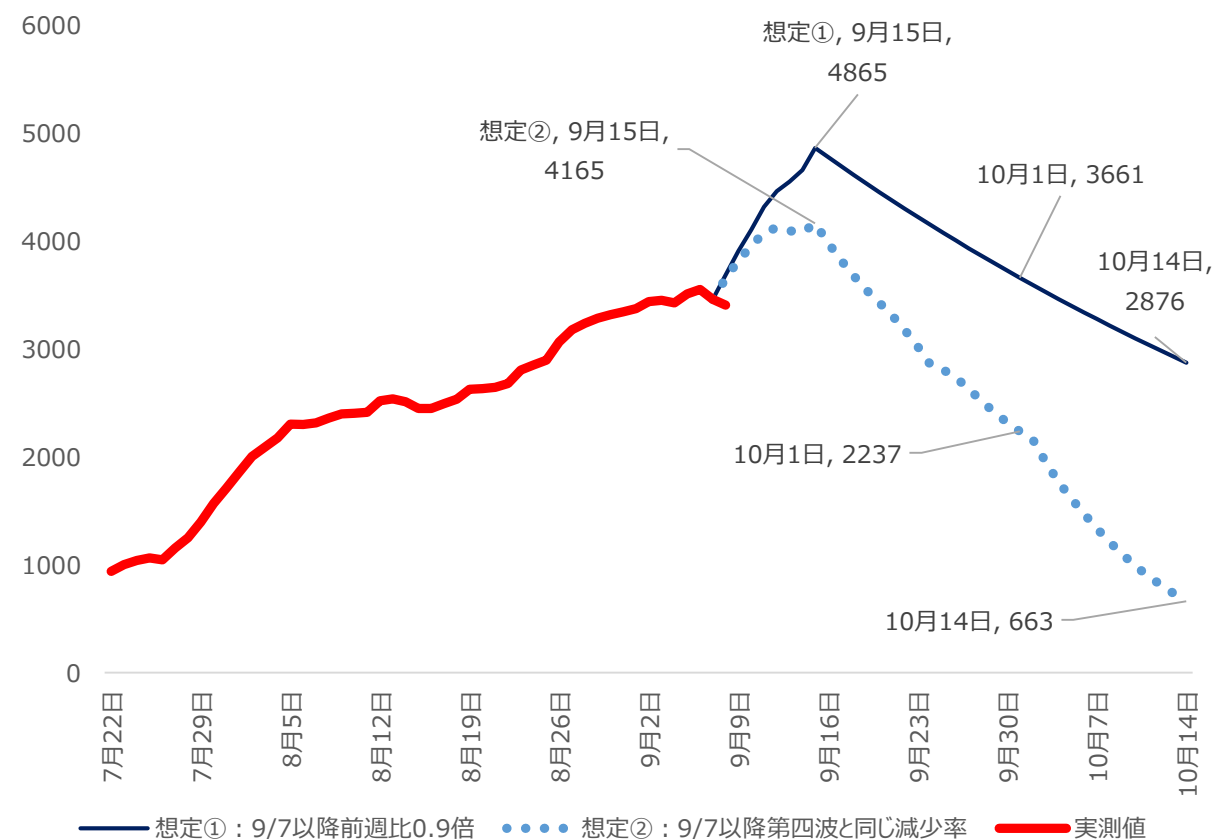
・新規陽性者が1000名以上の場合、新規陽性者のうち35%が宿泊療養となる。

1000名未満の場合、新規陽性者のうち50%が宿泊療養となる。

入院者数（軽症中等症）シミュレーション

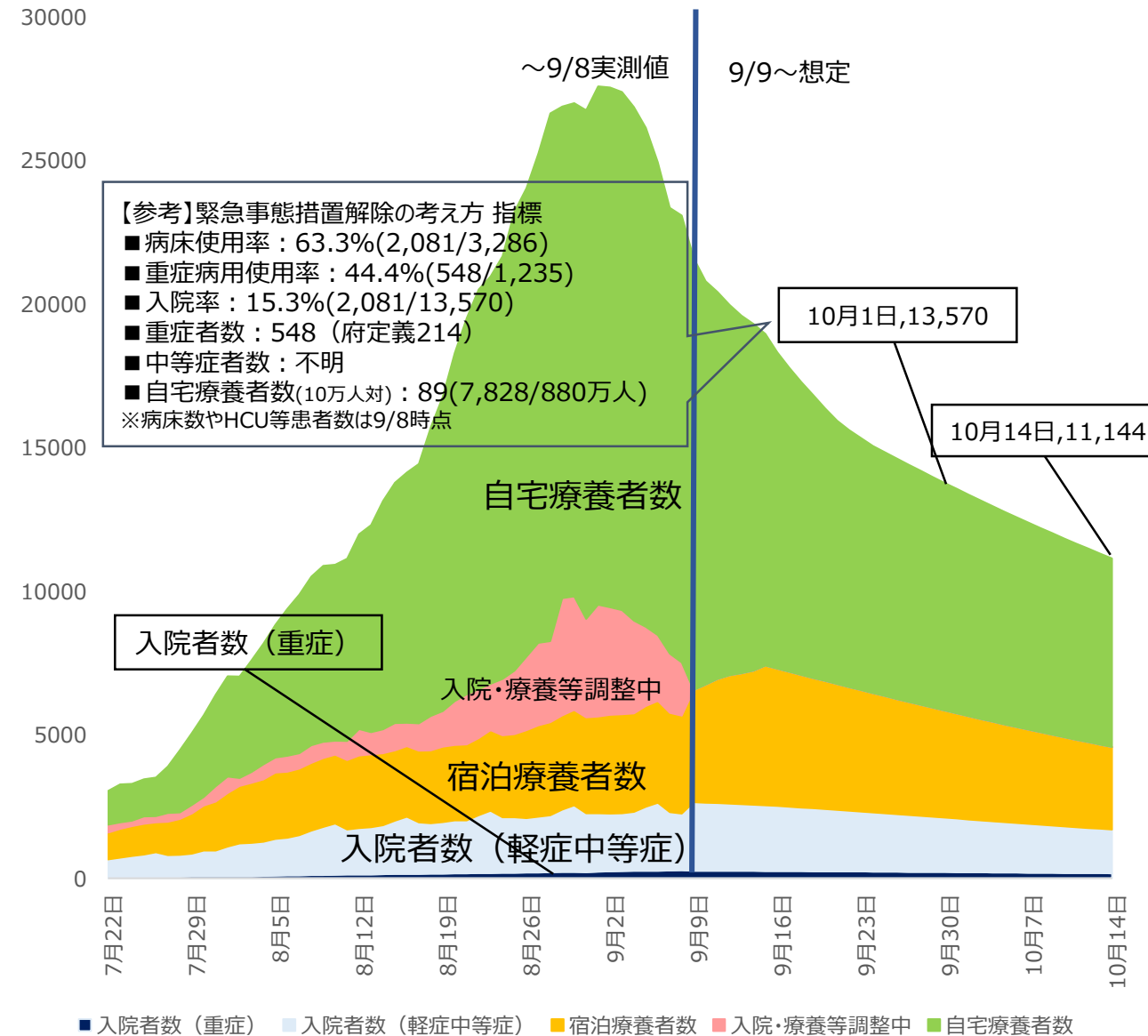


宿泊療養者数シミュレーション

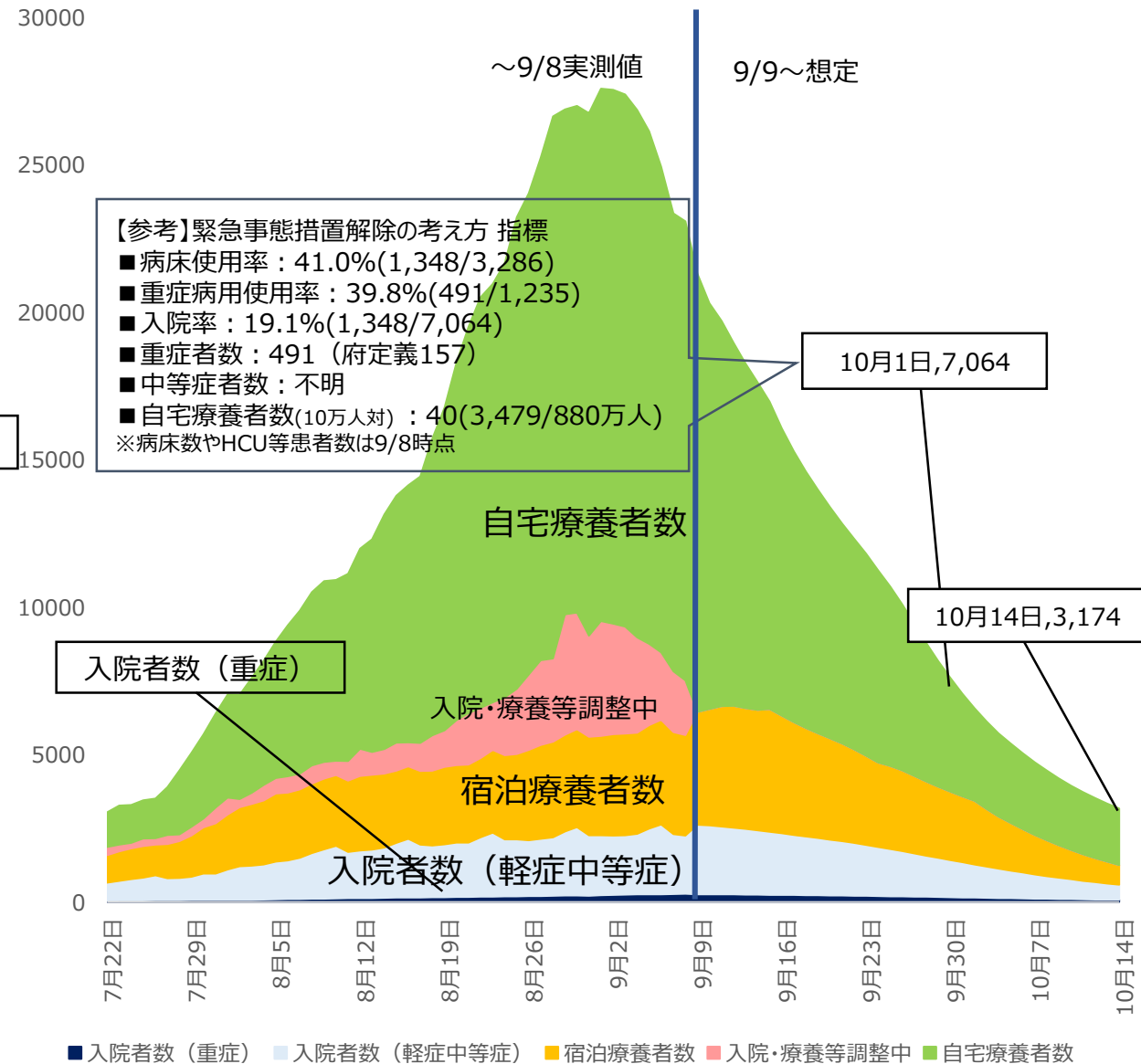


療養者数のシミュレーション

療養者数（9月9日以降は想定①のシミュレーション）



療養者数（9月9日以降は想定②のシミュレーション）



新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- 直近 1 週間の新規陽性者数は減少に転じたが、第四波のピーク時の約 2 倍と依然、高水準であり、陽性率も 10% を超過した状態。
- 人流は 8 月 2 日の緊急事態措置適用後やや減少して以降、横ばいからやや増加傾向。今後、感染再拡大の恐れ。
- 大阪府でも、感染力が極めて高いとされるデルタ株への置き換えが 8 月に急速に進み、現在、ほぼ置き換わったものと推定。
デルタ株の影響により、これまでクラスターの発生が見られなかった大型商業施設や、感染防止対策を一定講じていても、3 密のいずれかに該当するケースでの感染が確認。
また、感染が比較的少なかった 10 代以下の感染が急増。推定感染経路として、子どもから大人への感染が疑われる事例も複数確認。
第四波以前にはない感染拡大の場面や感染経路が確認されている。
これらの影響から、クラスターとして、児童施設関連、大学・学校関連、企業事業所関連の割合が大きく増加。

(2) 感染・療養状況とワクチン接種状況

- ワクチン 2 回接種率は、65 歳以上が 84.7%、40～64 歳で 36.2%、39 歳以下で 11.0% となり、現役世代を含めて進んでいる。
- ワクチン未接種者における新規陽性者数と比べ、ワクチン接種者に占める新規陽性者数は少ない。
- 60 代以上の新規陽性者数は、発症予防効果が期待されるワクチン接種の推進により、他の年代と比べ発生が抑制されているものの、
2 回接種後 14 日以降に発症（無症状病原体保有者を含む）した者の割合が徐々に増加（8 月（29 日時点）：13.9%）。
ワクチン接種後も感染する可能性や発症予防効果により感染に気付かないまま周囲に感染を拡げる可能性もあることから、ワクチン接種後の感染予防対策継続が必要。
- 6 月以降新規陽性者のうち、ワクチン 2 回接種後 14 日以降の発症者 920 名のうち、重症化した者は 3 名、死亡例 2 名確認（1 名重複）。
ワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、2 回接種後 14 日以降に発症したの方が低い（ワクチンによる重症化予防効果が期待）。

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- 一般医療と両立可能な重症病床使用率は約 9 割（8/17時点は約 5 割）から急増し、60代以上新規陽性者数がやや増加傾向にあることから、更なる重症者数の増加が懸念され、極めて厳しい状況。災害級非常事態589床を分母とする重症病床使用率も約 5 割と厳しい状況。軽症中等症病床使用率も 7 割強とひっ迫。
- 第五波（現時点約 2 か月半）では、30代以下の新規重症者数が第四波（約 3 か月半）を超過し、若年層の重症化が多く見られる。40・50代の重症者数も第四波と同水準まで増加。
一方、ワクチンによる重症化予防効果により、60代以上の重症者数は第四波と比較し、激減。

今後の対応方針について

- 直近 1 週間の新規陽性者数は減少に転じているが、1日平均2000人と極めて高水準。
人流がやや増加傾向にあることから、今後、感染再拡大の恐れがある。
- デルタ株の影響により、3密のいずれかに該当する場合での感染や10代以下に多く感染が広がるなど、第四波以前にはない、感染拡大の場面や感染経路が確認。
- 一般医療の制限が今後懸念されるレベルまで重症者数が増加し、極めてひっ迫。ワクチン未接種層が多い40・50代や30代以下の若年層にも重症患者が多く確認。軽症中等症病床もひっ迫。
- 60代以上新規陽性者に占めるワクチン 2 回接種後14日以降に発症（無症状病原体保有者を含む）した者の割合が徐々に増加。
ワクチン効果の低下や 3 回目接種の必要性については、国等における科学的知見を注視。

⇒医療提供体制は極めてひっ迫しており、新規陽性者数が 1 日 2 千人程度と高水準である現状においては、緊急事態措置の下、人流抑制による感染の最大限の早期収束が必要。

⇒デルタ株の影響により、今まで以上の換気や人との距離、大声を出さないなどの 3 密を回避した感染予防対策の更なる徹底が必要。

⇒ワクチン接種による重症化予防、発症予防効果が見られることから、50代以下のワクチン接種の促進が必要。

一方、ワクチン 2 回接種後14日以降の発症者の増加や、ワクチン接種が各年代層に十分に進んでいない状況での周囲への感染の拡がりを防ぐため、ワクチン接種後も感染防止対策の徹底の働きかけが必要。

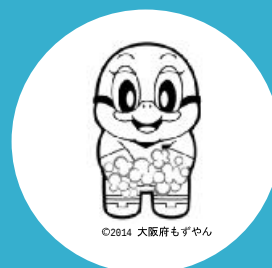
令和3年3月1日から8月29日の60代以上の新規陽性者に占めるワクチン2回接種後14日以降発症者数（無症状病原体保有者を含む）の割合は、13.9%（約7人に1人）。
ポスターにこの文言はありません。ポスターをご利用の場合は、ホームページをご覧ください。



マスク着用



こまめな換気



手洗い

ワクチン打っても
つづけよう、
感染予防対策。

自分自身を守るために。
あなたの大切な人を守るために。

ワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できることが期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだ十分にはわかっていません。ワクチンを打った方も打っていない方も、感染予防対策の継続をお願いします。

新型コロナウイルス感染症に関する情報はこちら

大阪府 コロナ

検索



大阪府

□ 8月25日に総入所者が3,000人を超えるなど、感染者の急増により 8,408室 を確保していく。

○ 8月31日時点運用施設と新規開設施設

8月31日時点運用室数(施設数) 6,131室(22施設:大阪市内3か所含む) 運用中				
新 規 開 設 施 設 の 状 況				
施設数	施設名	所在地	室数	開設状況
1	東横イン大阪なんば日本橋	浪速区	219	9/7
2	東横イン大阪十三駅西口Ⅱ	淀川区	216	9/8
3	アパホテル大阪天満橋駅前	中央区	289	9/9
4	ビスポークホテル大阪心斎橋	中央区	236	9/14予定
5	ダイワロイネットホテル大阪心斎橋	中央区	193	9/15予定
6	カンデオホテルズ大阪なんば	中央区	483	9/16予定
7	ホテルフォルツァ大阪北浜	中央区	223	9/17予定
8	ホテルイルクオーレなんば	浪速区	216	9/18予定
9	ホテルアルファワン北心斎橋	中央区	202	9/19予定
合 計			2,277	

○ 宿泊療養施設確保計画(9月7日改定)

運用 フェーズ	施設 室数	次フェーズ 移行の判断基準 下記基準と感染拡大状況から総合的に判断
		感染拡大時
フェーズ 1	800室	およそ240人以上※ → フェーズ2移行準備
フェーズ 2	1,600室	およそ800人以上 → フェーズ3移行準備
フェーズ 3	2,400室	およそ1,200人以上 → フェーズ4移行準備
フェーズ 4	4,000室	およそ2,000人以上 → フェーズ5移行準備
フェーズ 5	6,000室	およそ3,000人以上 → フェーズ6移行準備
フェーズ 6	8,400室	-

※ 総入所者数(9/8時点 3,409人)

合計 8,408室(31施設) 確保

- ◆ 宿泊療養施設の拡大（8,408室）に伴い、現行の弾力的な運用から、20・30歳代を含め、入院を要しない者は「原則宿泊療養」とする。

現在の弾力的な運用 (感染拡大時の対応)

【宿泊療養】

- ・40歳以上の患者は原則宿泊療養
- ・40歳未満の重症化リスクのある患者
(無症状含む)
- ・自宅において適切な感染対策が取れない
患者等を優先

対象拡大

宿泊療養体制の拡大に伴う運用

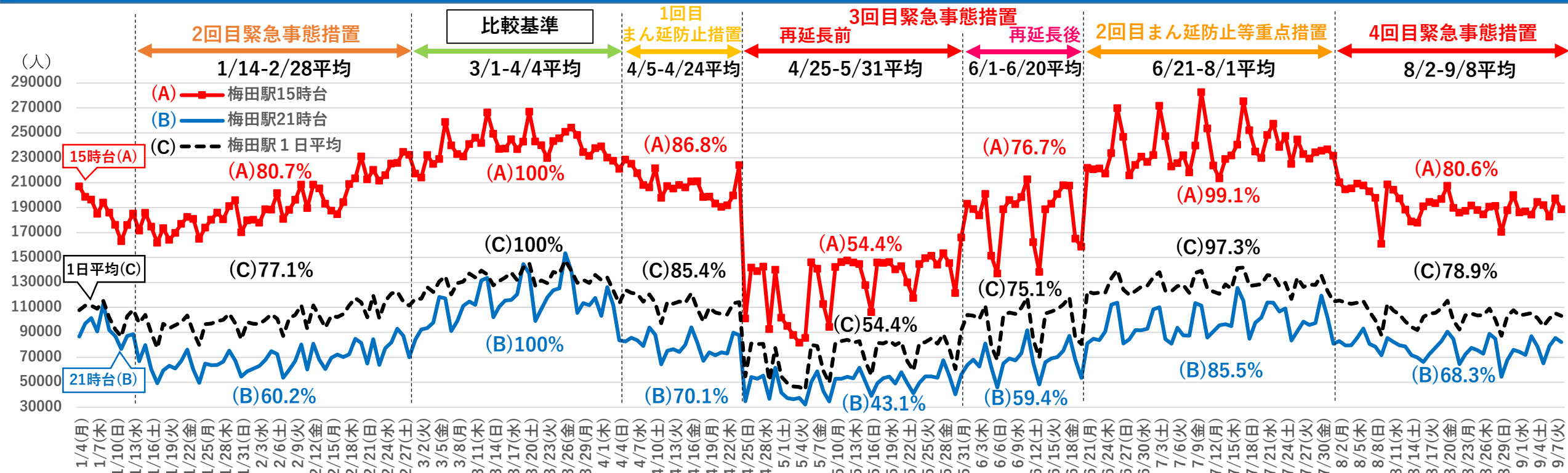
【宿泊療養】

- ・入院を要しない者は原則宿泊療養



【時間帯別】滞在人口の推移（梅田駅15時台・21時台）

資料1-8

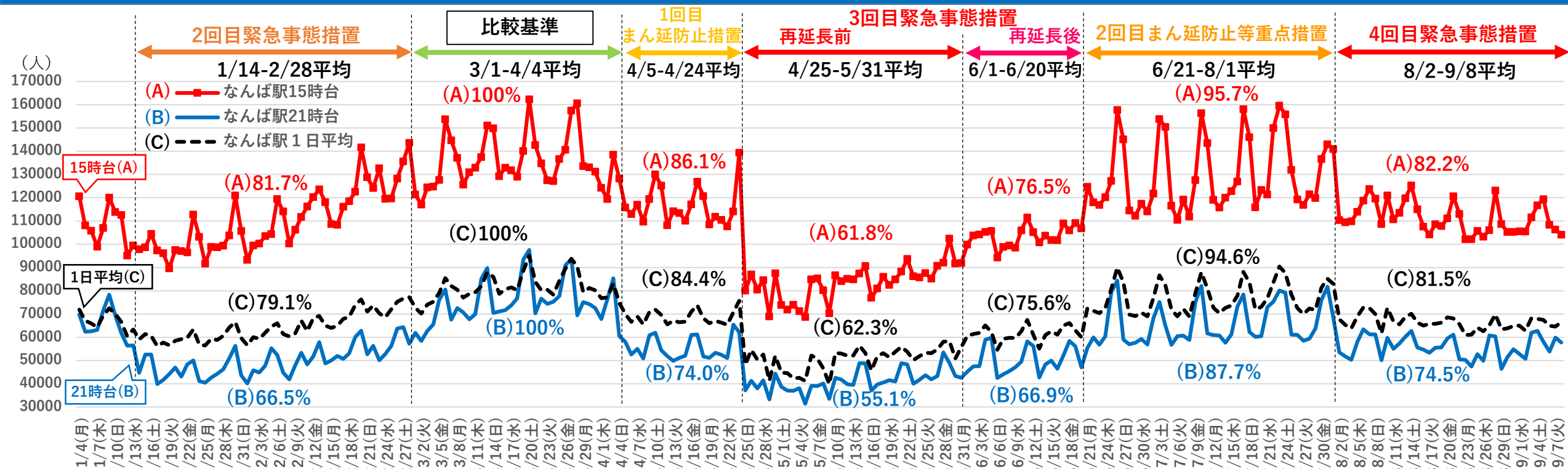


3/1-4/4平均との比較【飲食店等への要請：3/1-3/31市内21時まで時短、4/1-4/4府内全域21時まで時短】

時間帯／比較期間		1回目 緊急事態措置 (4/7-5/21平均)	2回目 緊急事態措置 (1/14-2/28平均)	1回目 まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)	3回目緊急事態措置		2回目 まん延防止等重点措置 (6/21-8/1平均)	4回目 緊急事態措置 (8/2-9/8平均)
					再延長前(4/25-5/31平均)	再延長後(6/1-6/20平均)		
要 請 内 容	飲食店等	20時まで	20時まで	20時まで(命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで(命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)
	酒類の提供	可 (19時まで)	可 (19時まで)	可 (19時まで)	停止 (提供の場合は休業要請)	停止 (提供の場合は休業要請)	GS認証等で2人以内可(19時まで) (7/12以降、人数のみ4人以内に変更)	停止 (提供の場合は休業要請)
	大規模商業施設	休業要請	20時まで時短協力依頼	20時まで時短協力依頼	休業要請	平日：20時まで時短要請 土日：休業要請	20時まで時短要請 (7/12以降、21時まで時短要請)	20時まで時短要請 (8/20以降、地下食品売場入場整理等)
15時台		26.0%	80.7%	86.8%	54.4%	76.7%	99.1%	80.6%
21時台		21.2%	60.2%	70.1%	43.1%	59.4%	85.5%	68.3%
1日平均		27.6%	77.1%	85.4%	54.4%	75.1%	97.3%	78.9%

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント (例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、30分滞在していた場合は0.5人として計算 【出典】株式会社Agoop

【時間帯別】滞在人口の推移（なんば駅15時台・21時台）



3/1-4/4平均との比較【飲食店等への要請：3/1-3/31市内21時まで時短、4/1-4/4府内全域21時まで時短】

時間帯／比較期間		1回目 緊急事態措置 (4/7-5/21平均)	2回目 緊急事態措置 (1/14-2/28平均)	1回目 まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)	3回目緊急事態措置		2回目 まん延防止等重点措置 (6/21-8/1平均)	4回目 緊急事態措置 (8/2-9/8平均)
					再延長前(4/25-5/31平均)	再延長後(6/1-6/20平均)		
要 請 内 容	飲食店等	20時まで	20時まで	20時まで(命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)	20時まで(命令・過料 有)	20時まで (命令・過料 有)
	酒類の提供	可 (19時まで)	可 (19時まで)	可 (19時まで)	停止 (提供の場合は休業要請)	停止 (提供の場合は休業要請)	GS認証等で2人以内可(19時まで) (7/12以降、人数のみ4人以内に変更)	停止 (提供の場合は休業要請)
	大規模商業施設	休業要請	20時まで時短協力依頼	20時まで時短協力依頼	休業要請	平日：20時まで時短要請 土日：休業要請	20時まで時短要請 (7/12以降、21時まで時短要請)	20時まで時短要請 (8/20以降、地下食品売場入場整理等)
15時台		33.4%	81.7%	86.1%	61.8%	76.5%	95.7%	82.2%
21時台		30.3%	66.5%	74.0%	55.1%	66.9%	87.7%	74.5%
1日平均		35.2%	79.1%	84.4%	62.3%	75.6%	94.6%	81.5%

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント (例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、30分滞在していた場合は0.5人として計算 【出典】株式会社Agoop

飲食店における営業時間短縮要請の協力状況

※8月31日現在

	協力状況 (判断できなかった 店舗除く)	見回り店舗数	内訳		
			協力店舗	未協力店舗	判断できなかった
大阪府内	98.7%	95,445	93,055	1,253	1,137
うち繁華街 (キタ・ミナミ地区等)	96.1%	7,455	6,979	285	191

飲食店に対する措置内容の周知徹底 (テイクアウト店等除く)

実施内容

酒類提供又はカラオケ設備提供する場合の施設の休止や
営業にあたっての要請事項（マスク会食の周知、アクリル板の設置等）の措置内容の周知徹底

実施状況

見回り店舗数 55,689店（うち訪問済 18,377店、臨時休業等 33,489店、廃業・対象外 3,823店）
〔臨時休業等率 64.6% ※廃業・対象外除く〕

		4/5～4/24 まん延防止等重点措置 (大阪市内)	4/25～5/11 緊急事態措置 (大阪市内)	6/21～7/11 まん延防止等重点措置 (大阪府内)	8/2～8/31 緊急事態措置 (大阪府内)
要 請 内 容	飲食店等	20時まで	20時まで	20時まで	20時まで
	酒類の提供	19時まで可能	停止 (提供の場合は休業要請)	19時まで可能 (GS認証等、2人以内)	停止 (提供の場合は休業要請)
	大規模商業施設	20時まで時短協力依頼	休業要請	20時まで時短要請	20時まで時短要請
臨時休業等率		22%	76%	40%	65%

百貨店の地下食品売り場における入場整理等の状況

【要請内容】

感染リスクが高い場面とされる百貨店の地下の食品売り場については、下記のとおり感染防止対策の徹底の協力依頼

- 通常営業時（コロナ前・繁忙期等を除く、ピーク時間帯）の半数程度の入場者を目安として入場整理等を徹底すること
- 入場整理等の実施状況をホームページ等で広く周知すること

【取組状況】

- 各百貨店において、入場制限の上限人数を予め決定（対象12店舗）
- 入場制限等の方法
 - ・地下出入口を限定
 - ・地下へのEVやエスカレーター停止
 - ・センサーや食品レジ等により人数管理を実施 など
- 各百貨店のホームページ等で実施状況を公表

各百貨店において、通常営業時の半数程度の入場者を目安として入場整理等を徹底し、
上限人数の遵守を確認（期間：8月20日～9月6日）

緊急事態措置期間

(8月2日～9月12日)

※9月8日現在

大阪府内の飲食店約10万店舗を
外観等(20時～21時30分)で
営業時間短縮への協力状況を確認

法第45条第2項に基づく要請の手続き

個別店舗へ
の要請
(事前通知)
614店舗

外観
確認

個別店舗
への要請
(通知)
319店舗

法第45条第3項に基づく命令の手続き

営業時間
短縮命令
(事前通知)
82店舗

実地
調査

弁明の機
会の付与
(2W)
82店舗

営業時間
短縮命令
(通知)
63店舗

店舗への現地
確認(命令違
反の確認)
58店舗

地方裁判
所へ通知
(過料)

※緊急事態宣言中(4/25～5/31)⇒ 裁判所へ通知済

11店舗

//

(6/1～6/20)⇒ 裁判所へ通知済

17店舗

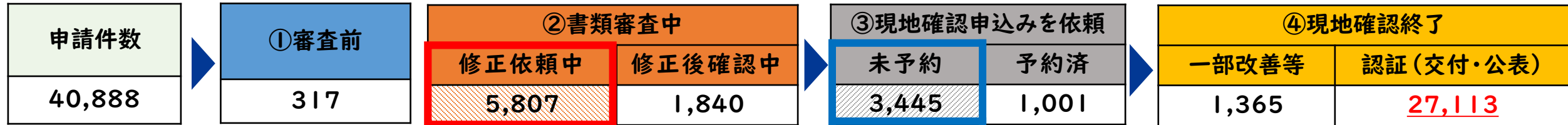
裁判所へ通知に向け協議中

4店舗

感染防止認証ゴールドステッカーについて

参料1-11

申請状況(9/9 9:30現在)



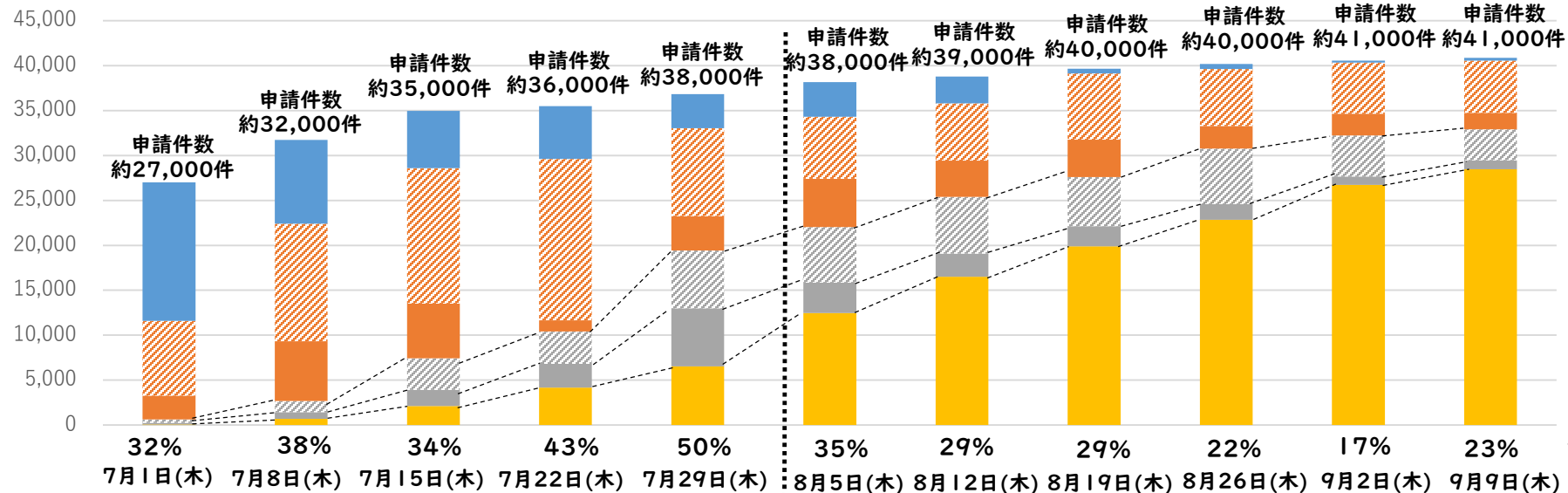
メール等で再提出を督促

架電により予約を促しているものの、予約にまで至らない店舗が多い。(同一店舗に2回架電)

※理由

- ・8月2日からの緊急事態措置により、酒類提供が禁止となったことから、急いで予約されない
- ・臨時休業中 等

感染防止認証ゴールドステッカー審査状況



- ①審査前
- ②書類審査中(修正依頼中)
- ②書類審査中(修正後確認中)
- ③現地確認申込依頼(未予約)
- ③現地確認申込依頼(予約済)
- ④現地確認終了

←現地確認予約率
(③現地確認申込依頼のうち予約済の割合)



8/2~ 緊急事態措置

- ① 区域 大阪府全域
- ② 要請期間 緊急事態措置を実施すべき期間（9月13日～9月30日。ただし感染拡大の状況に応じて要請内容を判断）
- ③ 実施内容

●府民への呼びかけ（特措法第45条第1項に基づく）

- **不要不急の外出※は自粛すること。混雑した場所への外出は半減すること**
 - ※ 医療機関への通院、食料・医薬品・生活必需品の買い出し、必要な職場への出勤、屋外での運動や散歩など、生活や健康の維持のために必要なものについては対象外
 - ※ 特に20時以降の外出自粛、外出する必要がある場合にも、極力家族や普段行動をともにしている仲間と少人数で、混雑している場所や時間を避けて行動すること
- **重症化リスクが高い40代・50代は、特に感染防止対策を徹底すること**
- **不要不急の旅行など都道府県間の移動は極力控えること**
 - ※ どうしても避けられない場合は感染防止策の徹底とともに、出発前又は到着地での検査を受診すること。
（府民：法第45条第1項 府民以外：法に基づかない働きかけ）
- **要請に応じず、酒類やカラオケを提供している飲食店等の利用を厳に控えること**
- 路上、公園等における集団での飲酒は自粛すること
- 少しでも症状がある場合、早めに検査を受診すること

●大学等へのお願い（特措法第24条第9項に基づく）

- 学生に対し、以下の行動の自粛を徹底すること
 - ・ クラスター発生のリスクがある部活動（特に、合宿や練習試合）
 - ・ 多人数が接触する活動及び前後の会食
 - ・ 旅行や、自宅・友人宅での飲み会
- 授業は、人と人との接触をなるべく減らすため原則オンラインとし、
困難な場合は、クラスを分割した授業や大教室の活用等により密を回避すること
- 学生寮における感染防止策などについて、学生に注意喚起を徹底すること
- 発熱等の症状がある学生は、登校や活動参加を控えるよう、周知徹底すること

●経済界へのお願い（特措法第24条第9項に基づく）

- **在宅勤務（テレワーク）、休暇取得等による、出勤者数の7割減をめざすこと**
出勤者数削減の実施状況を各事業者が公表し、取組みを促進すること
- **職場に出勤する場合でも、時差出勤、自転車通勤等の人との接触を低減する取組みを強力に推進すること**
- **休憩室、喫煙所、更衣室などでマスクを外した会話を控えること**
- 高齢者や基礎疾患を有する方等、重症化リスクのある従業者、妊娠している従業者、同居家族に該当者がいる従業者について、テレワークや時差出勤等の配慮を行うこと
- 事業の継続に必要な場合を除き、20時以降の勤務を抑制すること
- 屋外照明（防犯対策上、必要なもの等を除く）の夜間消灯を行うこと（法に基づかない働きかけ）
- 業種別ガイドラインを遵守すること

● イベントの開催について（府主催（共催）のイベントを含む）

（特措法第24条第9項に基づく）

➤ 主催者に対し、以下の開催制限を要請

【収容率※1】 50%以内かつ【人数上限※1】 5,000人、【営業時間短縮】 21時まで※2

※1 収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）

収容定員が設定されていない場合は、十分な人と人との距離（1 m）を確保できること

※2 飲食の提供は20時まで。酒類提供（利用者による持込みを含む）又はカラオケ設備の提供はしないこと。

（イベントを開催する場合の要請内容）

- ◆ 業種別ガイドラインの遵守の徹底とともに、催物前後の「三つの密」及び飲食を回避するための方策を徹底。
参加者の直行・直帰を確保するための周知・呼びかけ等を徹底。
- ◆ 国の接触確認アプリ「COCOA」、大阪コロナ追跡システムの導入、又は名簿作成などの追跡対策の徹底
- ◆ 全国的な移動を伴うイベント又は参加者が1,000人を超えるようなイベントを開催する際は、そのイベントの開催要件等について、大阪府に事前に相談すること

●施設について（府有施設を含む）

飲食店等への要請（特措法第45条第2項に基づく）

施設の種類	内 訳		要請内容
飲食店等	【飲食店】 飲食店（居酒屋を含む）、喫茶店等（宅配・テイクアウトサービスを除く） 【遊興施設】 キャバレー、ナイトクラブ、インターネットカフェ・マンガ喫茶※1等で、食品衛生法の飲食店営業許可を受けている店舗 【カラオケ】 カラオケ店(食品衛生法の飲食店営業許可を受けていない店舗を含む) 【結婚式場】 ※2	酒類提供 (利用者による酒類の店内持ち込みの場合を含む) 又は カラオケ設備提供 を する場合	施設の休止
		酒類提供 (利用者による酒類の店内持ち込みの場合を含む) 又は カラオケ設備提供 を しない場合	営業時間短縮 (20時まで)

※1 インターネットカフェ・マンガ喫茶等、夜間の長期滞在を目的とした利用が相当程度見込まれる施設は、施設の休止等の対象外。
 ただし、入場整理の実施や、酒類提供（利用者による持ち込みを含む）・カラオケ設備の使用の自粛を要請。

※2 できるだけ短時間（1.5時間以内）、なるべく少人数（参加人数50人又は収容定員50%のいずれか小さいほう）で開催すること（法に基づかない働きかけ）

【営業にあたっての要請事項】 ※ 実施状況をホームページ等で広く周知すること（法に基づかない働きかけ）
（特措法第45条第2項に基づくもの）

- 利用者へのマスク会食実施の周知及び正当な理由なく応じない利用者の入場禁止（退場を含む）
- アクリル板の設置等
- 上記のほか、特措法施行令第12条各号に規定される措置（従業員への検査勧奨、入場者の整理等（人数管理、人数制限、誘導等）、発熱等有症状者の入場禁止、手指の消毒設備の設置、施設の消毒、施設の換気）

（特措法第24条第9項に基づくもの）

- CO2センサーの設置
- 業種別ガイドラインの遵守を徹底

●施設について（府有施設を含む）

飲食店以外への要請（特措法第24条第9項に基づく）

施設の種類	内 訳	要請内容（1000㎡超の施設）
商業施設	大規模小売店、百貨店、ショッピングセンター（地下街を含む）等（生活必需物資の小売関係及び生活必需サービスを営む店舗を除く）	【営業時間】 20時まで（法第24条第9項） 【その他】 適切な入場整理等（人数管理、人数制限、誘導等）の実施（法第45条第2項） ※入場整理等の実施状況をホームページ等で広く周知すること（法に基づかない働きかけ）
	百貨店の地下の食品売り場	○ 通常営業時の半数程度の入場者を目安とし入場整理等を徹底すること（法第24条第9項） ○ 入場整理等の実施状況をホームページ等で広く周知すること（法に基づかない働きかけ）
遊技施設	マージャン店、パチンコ店、ゲームセンター等	【営業時間】 20時まで（法第24条第9項） 【その他】 適切な入場整理等（人数管理、人数制限、誘導等）の実施（法第24条第9項）
遊興施設	個室ビデオ店、個室付浴場業に係る公衆浴場、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場等	
サービス業	スーパー銭湯、ネイルサロン、エステサロン、リラクゼーション 等	

※1000㎡以下の施設は、営業時間短縮（20時まで）、入場整理等の協力を依頼（法に基づかない働きかけ）

●施設について（府有施設を含む）

飲食店以外への要請（特措法第24条第9項に基づく）

施設の種類	内 訳	要請内容
劇場等	劇場、観覧場、映画館※1、演芸場	【人数上限・収容率】 上限5000人 かつ収容率50%以内 【営業時間】 ・イベント： 21時まで ・イベント以外（※4）： 20時まで 【その他】 適切な入場整理等（人数管理、人数制限、誘導等）の実施
遊興施設	ライブハウス※2	
集会・展示施設	公会堂、展示場、文化会館、多目的ホール等	
ホテル・旅館	ホテル・旅館（集会の用に供する部分に限る）	
運動・遊技施設 ※3	体育館、スケート場、水泳場、屋内テニス場、柔剣道場、ボウリング場、テーマパーク、遊園地、野球場、ゴルフ場、陸上競技場、屋外テニス場、ゴルフ練習場、バッティング練習場、スポーツクラブ、ホットヨガ、ヨガスタジオ 等	
博物館等	博物館、美術館 等	

※1：映画館の通常営業については、21時まで

※2：飲食店営業許可を受けている施設について、飲食店と同様の要請（飲食営業は20時まで等）

※3：運動施設の観客を入れない個人の練習・プレーはイベント以外に該当

※4：1000㎡以下の施設は働きかけ

●公共交通機関（地下鉄、バス等）への協力依頼（法に基づかない働きかけ）

【依頼内容】

- ◆ 終電時刻の繰上げ
- ◆ 主要ターミナルにおける検温の実施

緊急事態宣言の延長に伴い、9月13日以降の府立学校における教育活動は、引き続き以下のとおりとする。

1 授業

- ・ 分散登校や短縮授業は行わず、通常形態（1教室40人まで）を継続
- ・ 毎日の健康観察や基本的な感染症対策を徹底し、感染リスクの高い活動は実施しない
- ・ 感染拡大により不安を感じて登校しない児童生徒等については、オンライン等を活用して十分な学習支援を行う

2 修学旅行等、泊や府県間の移動を伴う行事

- ・ 原則延期する
- ・ 延期が困難な場合は、感染防止策を徹底したうえで以下の条件を満たした場合にのみ実施する
 - * 旅行（移動）先の都道府県が大阪からの受入れ拒否をしていない
 - * 事前に滞在先の保健所と調整を行い、児童生徒・教職員等が陽性となった場合でも、現地での受入れ体制が整っている
 - * 参加する児童生徒、引率する教職員に、事前のPCR検査を実施

3 学校行事（文化祭・体育祭）

- ・ 感染リスクの高い活動（飲食物の提供、騎馬戦等）は実施しない

4 部活動

- ・ 原則休止
- ・ ただし、公式大会への出場等の場合は、感染防止策を徹底したうえで、活動時間を短縮して実施する。この場合でも、感染リスクの高い活動は実施しない。

5 感染者が確認された場合の臨時休業・学級閉鎖等について

- ・ 陽性者が確認された場合、学校全体を臨時休業するとともに、PCR検査対象者リストを保健所に提出
- ・ 保健所による検査対象者の決定後、検査結果判明まで検査対象者の所属する学級等の閉鎖
- ・ 検査の結果、陽性者が判明した場合は、学級等の閉鎖を7日間延長、陽性者がいない場合は学級等の再開（濃厚接触者は14日間の行動制限）

専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	・ <u>感染者数はいまだに 1 日 2,000 人と多く、病床使用状況も重症病床のピークはこれからと考えられることから緊急事態宣言の延長、およびそれに伴う大阪府の要請の継続も妥当と考える。</u> ・ <u>現在検討されているワクチン後の社会活動についても第三者認証やワクチン、検査証明のパッケージなどを踏まえて国と足並みをそろえて議論を進めていただきたい。</u> ・ 第 4 波の 2 倍の感染者数に対して、現時点で第 4 波の時のような医療ひっ迫が起こっていないことは、大阪府および医療機関、医師会、看護協会、薬剤師会等の関係者の連携のおかげであると、感謝を申し上げたい。 ・ 重症者、死亡者の少なかった理由としてはワクチンの普及もあり、重症者抑止の観点から今後もワクチン接種を推進していただきたい。 ・ 大阪でもワクチン 2 回接種者でも感染者数は少ないものの、重症者、死亡者がみられる。<u>ブレークスルー感染での入院は、ワクチン未接種者と比べ、高齢、複数（3 つ以上）の基礎疾患を有する人が多いとの査読前論文が CDC から報告されており、ワクチン接種者であっても高齢者や複数の基礎疾患のある人にはエビデンスに基づき抗体カクテル療法などで重症化の予防が求められる。</u> ・ <u>δ 株の流行に伴う第 5 波はゲノム解析から東京から始まり、大阪では活発に社会活動を行う 20 代を中心とする若い世代から増加してきた経緯から、ワクチン接種のターゲットを若い世代に広げる必要があると考える。</u>次の波の予防として、若い世代も含めた希望者が速やかにワクチンを打てるように接種機会の拡大をお願いしたい。 ・ ホテルの拡充、搬送の迅速化などシステムの導入で宿泊療養の運用も改善されていると聞いているが、<u>感染者急増時の保健所の業務のひっ迫の改善が課題と考える。</u>システムの導入とともに大阪府全体での感染急拡大地域へのサポート体制の検討、あるいはフォローアップセンターのような宿泊療養専用の組織の一元化も含めた検討が必要と考える。

専門家	意見
掛屋副座長	● <u>大阪府下の新規陽性患者数はややピークを超えた状況と考えられるが、いまだ感染者数も多く、緊急事態宣言の延長に賛同する。一方、緊急事態宣言の効果は限定的であると考えられ、引き続きワクチン接種を推進し、感染対策を啓蒙していくことが重要</u>と考える。特に、<u>クラスター発生が多い、児童施設関連、大学・学校関連、企業事業所関連等での基本的な感染対策の強化が求められる。</u> ● 現在、陽性患者としては20～40歳代が多いものの、10歳代および10歳以下の患者が急増している。<u>新学期が始まっており、幼稚園や学校における感染伝播にて今後増加に転じる可能性があり、経過を見守る必要がある。</u> ● 入院施設に関しては、軽症・中等症病床が7割強と逼迫してきている。軽症中等症病床の増床が難しいようであれば、<u>ホテル療養施設の拡充とともに抗体カクテル療法の推進と適切な入退院の連携管理をお願いしたい。</u>また、<u>重症病床は通常、全体のピークより遅れてピークを迎えるが、まだ上昇中で、基幹病院におけるコロナ診療以外の一般診療に影響が出る可能性がある。</u>利用率の推移を確認して、ステージアップ移行の検討が必要と考える。 ● ワクチン接種後のブレイクスルー感染も認められるが、ワクチン2回接種後には明らかに重症化は限られており、<u>今後もワクチン接種を推進していくことが重要</u>である。特にワクチン未接種の中高年者で重症化が経験されるため、ワクチン推奨の情報発信と十分なワクチン数を確保して、ワクチン接種を受けやすい体制づくりをお願いしたい。まだまだ予約が取りにくい状況は続いている。若い世代へのワクチン接種の推進も期待する。<u>受験生対象や40・50代対象のワクチン接種会場の設置は対象を明確にし、メッセージ性も強く良い取り組みと考える。</u>
忽那委員	大阪府内の新型コロナウイルス感染症新規感染者数は減少傾向にあり、これは大阪府民の皆さんのご協力のおかげだと思います。医療従事者として感謝申し上げます。また、<u>高齢者におけるワクチン接種が迅速に進み、そして抗体カクテル療法を重症化リスクの高い方に入院患者さんに限定せず広く投与したことでこれまでと比較して感染者に占める重症者の割合が減ったことは、この第5波で得られた重要な知見</u>と言える。 一方で、医療機関の状況としては依然として逼迫しており、また<u>重症者については遅れて増加するためまだピークアウトが確認できていない。</u>さらに、<u>デルタ株では全ての年代において感染しやすくなっていることから、これまで感染者が多くなかった小児でも感染事例が増えてきている。</u><u>新学期が始まり、学校での感染が増えていかないかについても慎重に経過を見る必要がある。</u> 以上のことから、<u>現時点では緊急事態宣言を解除できる状況とは言えず、延長という判断はやむを得ないと考える。</u>本来の医療が提供できる体制に戻るまでは軽症・中等症患者、重症患者の数を減らす必要があり、またその間も今後の流行に備えてできる限り早く希望される方にワクチン接種を進めていくことが重要と考える。

専門家	意見
佐々木委員	大阪府の新規感染者数は9月1日の3004人をピークに9月8日は2012人と減少傾向にあるが、まだまだその数は多い。その減少速度は東京に比し遅く、直近2週間の人口10万当たりの新規感染者数は東京を上回っており高止まり感がある。<u>第5波の主流であるデルタ株は、従来株では感染の少なかった10代以下への感染力が強い。9月に新学期が始まり、学校内で小児に感染が広がり、さらに家庭内で親の世代である20から40代の成人に感染拡大し、感染者数が再度増加する可能性が大いにある。</u>軽症・中等症の病床運用率は1973/2697（73.2%）と依然として高いことも問題ではあるが、さらに大きな問題は、医療の逼迫度の最大の指標と考えられる、<u>重症者数/重症病床使用率の増加（上昇）</u>である。これまで比較的少なかった重症者は増加し続け、9月8日の新規重症者数は35人と過去3か月で最高値を記録し、9月8日時点での即時活用可能な重症病床運用率は279/412（67.7%）、一般病床と両立可能な病床数を分母とする重症病床使用率は前週水曜日の71.9%から87.2%に達し、急激に悪化しており、まさに医療の逼迫した状態になりつつある。 <u>この現状において、緊急事態宣言の解除は困難で、今月末までの延長は妥当である。</u>なんば駅での人流調査をみると、人流は8月2日の緊急事態措置適応時にやや減少後、現在まで横ばいとなっており、一定の効果があると判断される。緊急事態措置を継続する限りにおいて、飲食店や商業施設、イベントなどに対して、<u>人流を増やす可能性ある中途半端な制限緩和はとるべきではなく、現状の制限の継続が望ましいと思われる。</u> 今回、大阪府の、第5波における、感染拡大や重症化を抑えるための矢継ぎ早に出される施策は、大いに評価するところであるが、何にも増して、高齢者に対するワクチン接種の効果が著明であるので、今後、成人はもちろんのこと、10代の児童や学生に対してもできる限り速やかにワクチン接種を進めていただきたい。
茂松委員	<u>4回目の緊急事態宣言発令から1ヵ月が経過し、感染者数は減少傾向が見られるものの、感染の波は十分に下がりきっておらず、ピークアウトには未だ時間を要すると思われる。</u>軽症中等症病床の運用率も73.2%（9/8時点）と依然として高いことから、緊急事態宣言の延長は致し方ない。 ・大阪府では第4波の経験を踏まえ、早期入院・早期治療が徹底されている。受け入れ側の医療機関の負担は、依然として過酷を極めているが、<u>速やかな入院と治療（抗体カクテル療法等）とワクチン接種の効果が、重症病床逼迫の事態に至っていないことに表れている。</u> ・<u>若年層の感染増加と、新学期開始による家庭内感染がどの程度広まるのかによって、今後の医療提供体制は大きく左右される。</u>国からの新型コロナウイルスワクチン供給量は、今年の6～7月と比較して鈍い状況にあるものの、府民におかれては、機会があれば接種を積極的にご検討いただきたい。また大阪府におかれては、①資料1-4記載の情報（新型コロナウイルスの重症者・死亡者のうち、ワクチン未接種の割合）、②新型コロナウイルス感染による後遺症の現状や相談窓口等について広報いただきたい。 ・大阪府内では、かかりつけ医が新型コロナ患者からの電話相談、往診等に従事している。<u>日常生活での不安や体調不良の兆候があれば、身近な医療機関へ気軽にご相談いただきたい。</u>また府民におかれては、<u>人と人との接触機会を可能な限り少なくするとともに、なるべく不織布のマスクを着用するなど、基本的な感染対策の徹底を引き続きお願いしたい。</u>

専門家	意見
白野委員	新規感染者数は減少に転じているとはいえ、緊急事態宣言を継続しているにも関わらず、依然として高水準である。<u>今後、宣言を続けたとしても、期待通り感染者数が減少するとは限らない。</u>背景には、以下のような懸念がある。 ・<u>宣言慣れによる人流抑制がもはや不十分</u> ・2 学期が始まったことによる、<u>学校でのクラスター発生</u> ・ワクチン接種が進んでいるとはいえ、若年者での接種率は低く、特に乳幼児・児童の親世代の接種率は低い ・ワクチン接種済であっても、医療従事者や高齢者では早い人では接種後半年を経過してきており、再感染のリスクも高まってくる ・その他、<u>秋に行われるイベント、政府方針による行動制限緩和の方針など</u> 医療現場では、若年者でも肥満や糖尿病などの基礎疾患がある人を中心に重症化する人も多い。新規感染者数が増えれば、結局医療はひっ迫し、若年者も含め死亡する人は増えてくる。 以上を考慮すると、<u>ここで宣言を終了し、緩めてしまうのは危険であり、宣言延長はやむを得ない。</u> <u>一方、人流抑制だけに頼るのはもはや限界であり、今回延長するにしても、さらに対策を追加しないと、府民の理解は得られない。</u> 幸い、この間、大阪府の行政関係者や府下の医療機関のご尽力により、病床数はそれなりに確保されている。臨時医療施設、コロナ重症センター、抗体カクテルセンターなどの整備、往診体制の強化など、矢継ぎ早に政策を打ち出していただき、首都圏のような医療崩壊は防ぐことができていると感じている。 <u>以下のようなメッセージをさらに強く伝えていただきたい。</u> ・<u>現在のコロナ対策は、一般医療を犠牲にして成り立っている</u> ⇒府民の皆さまにも状況を理解いただき、より積極的に協力いただきたい ・<u>やはりワクチンは有効</u> ⇒不安があるのも理解できるが、大切な人を守るためにも、ぜひ接種していただきたい 接種の会場は複数あり、予約が取れないからとあきらめず、さまざまな情報源を活用していただきたい ・<u>あらためて、マスク・換気・消毒・距離は重要</u> ●マスクは自分を守るため+自分から飛沫を飛ばさないため。 ●あごマスクの人、マスクを外す・ずらす癖のある人、すき間がある人は見直しを。 ●マスクは不織布が望ましい。

専門家	意見
白野委員	●よく触れるところはこまめに消毒する。 ●換気はエアロゾル感染を防ぐためにも重要。 特に感染が起こりやすい飲食店では、換気の徹底を。 ●人混みには近づかず、なるべく距離を確保する。満員電車など、どうしても人混みの中に入る必要がある時は、マスクの確認、不用意にしゃべらない、少しでも換気される場所を選ぶなどする。 結局のところ、<u>感染対策の基本に立ち返り、それを今以上に広く府民に認識していただかない限り、劇的な感染者数減少は見込めないと考える。</u>
倭委員	大阪府において直近 1 週間の新規陽性者数は減少に転じているが、依然 1 日平均 2000 人と極めて高水準で推移しており、人流もやや増加傾向にある。さらにクラスターとして、児童施設関連、大学・学校関連、企業事業所関連の割合が大きく増加しており、今後、感染再拡大の恐れがある。一般医療と両立可能な重症病床使用率も急増し、60 代以上新規陽性者数もやや増加傾向にあることから、さらなる重症者数の増加が懸念される。現状、災害級非常事態 589 床を分母とする重症病床使用率においても約 5 割と厳しい状況にある。また、軽症中等症病床使用率も 7 割強とひっ迫している。以上より、<u>9 月 30 日まで緊急事態宣言を延長し、オリパ関連以外のこれまでと同様の緊急事態措置に基づく要請の継続をお願いすることは妥当である</u>と考える。ワクチンによる重症化予防効果により、60 代以上の重症者数は第四波と比較し、激減している。<u>ワクチン未接種層が多い 40・50 代や 30 代以下の若年層にも重症患者が多く確認されており、今後さらにこれらの年代層におけるワクチン接種の促進が必要である。</u>一方、<u>ワクチン 2 回接種後 14 日以降の発症者の増加や、ワクチン接種が各年代層に十分に進んでいない状況での周囲への感染の拡がりを防ぐため、ワクチン接種後においてもマスク着用感染防止対策の徹底の働きかけが必要である。</u>

◆特措法第24条第9項により要請（8月26日）した病床（妊産婦・小児・軽症中等症）の確保状況。

妊 産 婦 病 床

総合・地域周産期医療センター等（16病院（うち新規11病院））に対し、合計約25床要請

	要請前		要請後	(増加数)
受入医療機関数	15病院		22病院	+ 7 病院
確保病床数（確保済み・準備中）	57床		<u>92床</u>	<u>+ 35床</u>
（うち、出産対応可）	（19床）		（35床）	（+ 16床）

小 児 病 床

地域の小児拠点医療機関（24病院（うち新規17病院））に対し、合計約45床要請

	要請前		要請後	(増加数)
受入医療機関数	19病院		28病院	+ 9 病院
確保病床数（確保済み・準備中）	75床		<u>110床</u>	<u>+ 35床</u>

軽 症 中 等 症 病 床

軽症中等症病院（98病院）に対し、合計約380床要請

	要請前		要請後	(増加数)
確保病床数※（確保済み・準備中）	2,641床		<u>2,724床</u>	<u>+ 83床</u>

※軽症中等症の最大確保がフェーズ5以外の病院があるため（中等症一体型病院は、フェーズ5においては、重症病床の確保を優先）、府ホームページで公表している確保病床数（フェーズ5の病床数）とは異なる。

宿泊療養者へのオンライン診療の充実

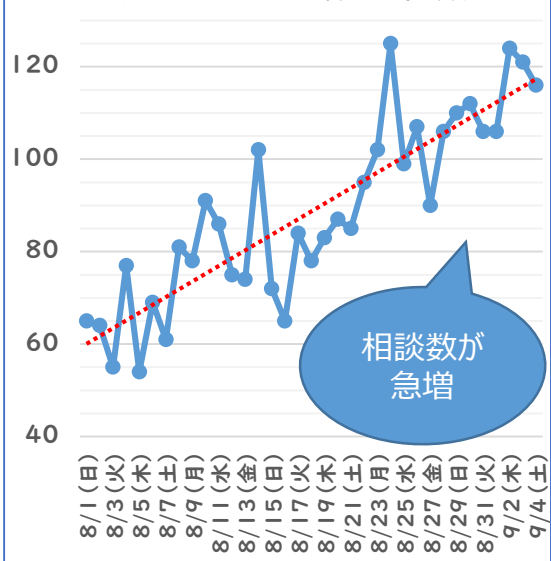
— オンライン診療センターの開設 —

資料 3 - 2

- 新型コロナウイルス感染症者の増加に伴う宿泊療養施設の増加
宿泊療養施設を8月末22施設(6,131室)→9月中旬31施設(8,408室)へ増設
- オンライン相談・診療件数の急増
宿泊療養者の増加に伴いオンライン相談・診療を受ける療養者が急増(1日100件超)
オンライン相談・診療の体制を強化



8月～オンライン相談・診療件数

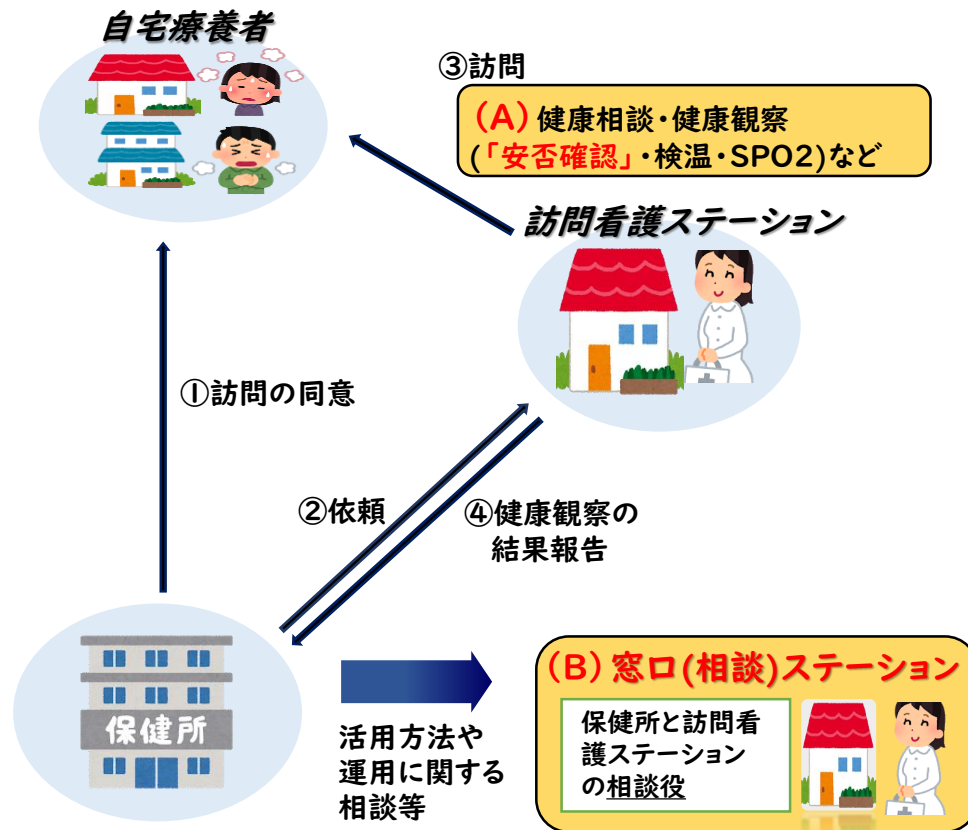


◎新たに『オンライン診療センター』を設置

- ・医師派遣協力は、医療関係団体(大病・私病・府医師会)に加え
府内医学系大学(市大・大阪医薬大)の医師が参画
- ・担当医師を2名→3～4名に増員
- ・土日祝の薬剤処方も実施(府薬剤師会の協力 8月より)
- ・診療スペースを拡大し、執務環境を改善

- ◆ 自宅療養者に対し、保健所が行っている電話等による健康観察について、地域の訪問看護ステーションが直接自宅に訪問する体制に加えて、新たに「安否確認」を行う体制を追加。【拡充】
- ◆ 管轄保健所ごとに「窓口(相談)ステーション」を設置し、保健所と訪問看護ステーションの相談役を担うことで、本事業の円滑な運営につなげる。【拡充】

訪問看護師による健康観察



拡充内容

(A) 「安否確認」の実施

- ・ 自宅療養者に対し、本人と連絡が取れず、「安否確認」が必要と保健所長が判断した場合、保健所職員に代わり、地域の訪問看護ステーションが直ちに自宅を訪問し、「安否確認」を行う。
(9月7日～)
※健康観察の出務料2万円に含む

(B) 窓口(相談)ステーションの設置

- ・ 管轄保健所ごとに窓口(相談)ステーションを設置し、活用方法や運用に関する相談など保健所と訪問看護ステーションの相談役を担う。
- ・ 政令・中核市保健所管内から順次運用開始。
(9月7日～)

《訪問看護ステーション協力事業所数》

194箇所(9月5日現在) ※順次追加予定

参考

《大阪府訪問看護ステーション協会》

・ 訪問看護事業の健全な発展に寄与することを目的に設立した団体
会員施設数: 約860箇所 (2021年現在)

【新型コロナ受診相談センターにおける相談受付（令和3年7月8日開始）】

①電話相談



新型コロナ受診相談センター（全日24時間対応）



●電話による相談対応

・後遺症の症状に関する相談受付アドバイス実施

TEL：06-7166-9911

※8時～21時

●医療機関の案内

・症状に適した診療科をアドバイス

TEL：050-3531-5598

・かかりつけ医がない場合、医療機関を案内

※21時～翌8時

②医療機関案内

③受診

後遺症受診可能医療機関



受診可能な医療機関数：60機関（9月7日時点）

・診療科：内科、神経内科、呼吸器内科、
精神科、耳鼻科、皮膚科等

・症状：発熱、倦怠感、気分の落ち込み・思考力低下、
息苦しさ・咳、脱毛、味覚・嗅覚障害

大阪府



後遺症受診可能医療機関を支援

- ・国、研究機関等における調査研究成果の情報提供など
- ・医療機関向けセミナーの実施

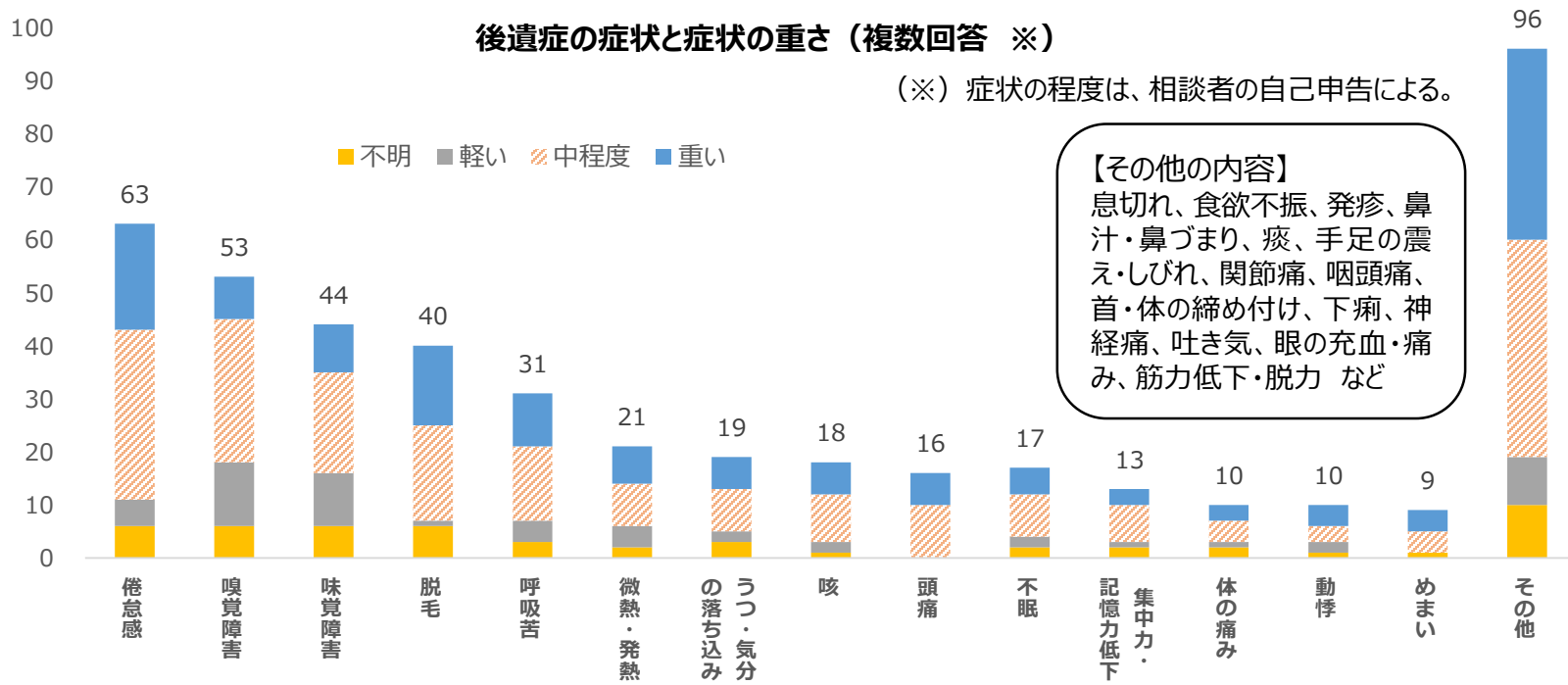
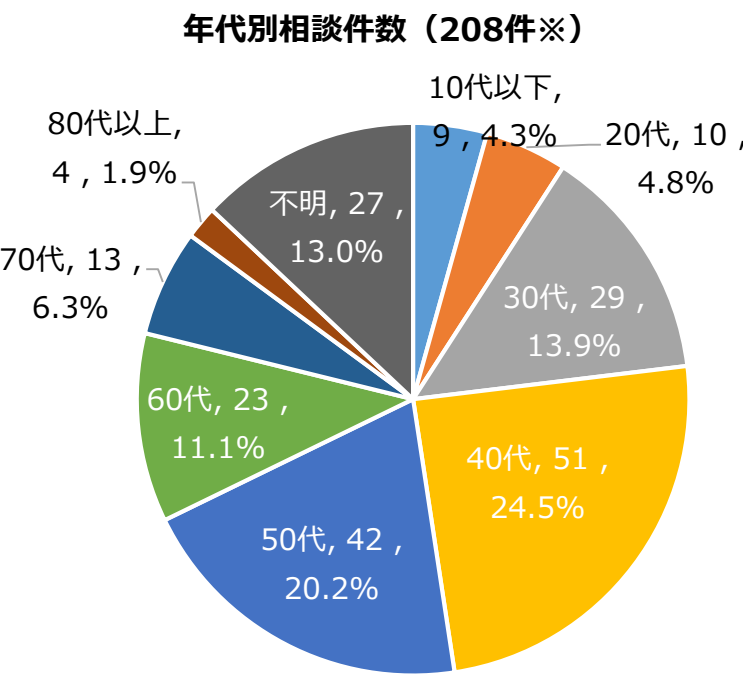
後遺症に
悩む
府民

【医療機関等向け後遺症に関するセミナー】

- 目的：新型コロナウイルス感染症の後遺症の症状や発生頻度などについて医療機関で共有することで、各医療機関の後遺症の診療体制整備を図る。
- 講師：忽那賢志 大阪大学医学系研究科・医学部 感染制御学教授（大阪府新型コロナウイルス対策本部会議専門家会議構成員）
- 時期：10月上旬日 動画・資料を府ホームページに掲載し、各医療機関・保健所、関係団体へ周知

新型コロナ受診相談センター 年代別相談件数及び主な症状と重さ

- ◆各年代から後遺症の相談を受け付けている。
- ◆症状では、倦怠感が最も多く、嗅覚障害・味覚障害、脱毛が続く。



【相談件数】
7月 282件（政令中核市含む）
8月 344件（政令中核市含む）
※8月は8/27時点

	倦怠感	嗅覚障害	味覚障害	脱毛	呼吸苦	微熱・発熱	うつ・気分の落ち込み	咳	頭痛	不眠	集中力・記憶力低下	体の痛み	動悸	めまい	その他	合計
重い	20	8	9	15	10	7	6	6	6	5	3	3	4	4	36	142
中程度	32	27	19	18	14	8	8	9	10	8	7	4	3	4	41	212
軽い	5	12	10	1	4	4	2	2	0	2	1	1	2	0	9	55
不明	6	6	6	6	3	2	3	1	0	2	2	2	1	1	10	51
	63	53	44	40	31	21	19	18	16	17	13	10	10	9	96	460

（※）大阪府新型コロナ受診相談センターにおける相談件数（令和3年7月8日～31日）のうち、後遺症に関する具体的な相談を受理した208件